

**第6次朝霞市障害者プラン等策定に係る  
アンケート・ヒアリング調査結果報告書**

令和5年10月

朝霞市 福祉部 障害福祉課



# 目次

I	調査の概要	3
1.	調査の目的	3
2.	アンケート調査対象者	3
3.	アンケート実施方法	3
4.	アンケート回収結果	3
5.	ヒアリング調査	4
6.	専門職に対する調査	4
7.	報告書の見方について	4
II	障害者調査	9
●	お答えいただく方について	9
1	あなたご自身のことについて	10
2	あなたの障害の状況について	13
3	あなたの介助について	19
4	日中活動や就労について	28
5	生活全般・社会参加について	39
6	障害福祉サービス等の利用について	48
7	権利擁護について	58
8	災害時の避難等について	64
9	朝霞市のまちづくりについて	69
III	障害児及び保護者調査	89
	【 本人票 】	89
●	お答えいただく方について	89
1	あなたご自身のことについて	89
2	あなたの障害の状況について	90
3	あなたの介助について	95
4	日中活動について	96
5	生活全般・社会参加について	98
6	障害福祉サービス等の利用について	103

7	権利擁護について .....	105
8	災害時の避難等について .....	108
9	朝霞市のまちづくりについて .....	110
	【 保護者票 】 .....	113
1	相談について .....	113
2	お子さんの日中活動・教育について .....	116
3	お子さんの将来について .....	126
<b>IV</b>	<b>障害福祉サービス事業所等調査 .....</b>	<b>135</b>
1	貴事業所の概要について .....	135
2	障害福祉サービス等の提供について .....	136
3	貴事業所の運営について .....	137
4	障害のある人・障害のある児童への支援について .....	147
<b>V</b>	<b>障害者団体調査 .....</b>	<b>153</b>
1	貴団体の概要について .....	153
2	貴団体の活動について .....	155
3	地域活動について .....	161
4	障害のある人・障害のある児童への支援について .....	162
<b>VI</b>	<b>ヒアリング調査 .....</b>	<b>167</b>
<b>VII</b>	<b>専門職に対する調査 .....</b>	<b>173</b>

## I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

第5次朝霞市障害者プラン及び第6期朝霞市障害福祉計画・第2期朝霞市障害児福祉計画の計画期間が令和6年3月末で終了するため、新たな計画（第6次朝霞市障害者プラン及び第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画）の策定に当たり、本市の障害のある方などの実情やニーズを把握し、計画に反映するための基礎資料とするため、アンケート及びヒアリング調査を実施しました。

## 2. アンケート調査対象者

調査区分		配布数
①障害者	18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の所持者及び難病患者見舞金を受給している難病患者	5,019人
②障害児及び保護者	18歳未満の障害児等(手帳、難病、療育等利用者)とその保護者	806人
③障害福祉サービス事業所等		92事業所 (157件)
④障害者団体		11団体

## 3. アンケート実施方法

- 調査方法：郵送による配布、回収
- 調査期間：令和5年2月22日（水）から3月31日（月）まで

## 4. アンケート回収結果

調査区分	配布数	回収数	回収率
①障害者	5,019人	2,323人	46.3%
②障害児及び保護者	806人	309人	38.3%
③障害福祉サービス事業所等 ※	92事業所 (157件)	78事業所 (100件)	84.8%
④障害者団体	11団体	8団体	72.7%

※提供されている障害福祉サービス等の種別ごとに1件送付していますが、多機能型事業所等で複数事業を集約した回答をいただいている場合があったので、事業所単位での回収率としています。

## 5. ヒアリング調査

---

アンケート調査では把握しきれない実態を職員が直接伺うことにより、詳細な実情やニーズを把握し、次期計画の目標などに反映させることを目的として、医療的ケア児者、重症心身障害児者、高次脳機能障害、強度行動障害、遷延性意識障害などの方、31人に対して聞き取りを実施しました。

## 6. 専門職に対する調査

---

育み支援バーチャルセンター事業において、事業にご協力いただいている専門職（医師、公認心理師、臨床心理士、作業療法士等）6名に意見を伺いました。

育み支援バーチャルセンター事業とは、発達障害を含む、発達につまずきのある子どもたちの早期発見、早期支援ととぎれの無い総合的な支援を図ることを目的として平成21年4月より実施している事業です。

専門スタッフ（小児神経科医師、臨床心理士、作業療法士等）と地域スタッフ（各部署の保育士、保健師、教師等）とで、保育園、幼稚園、小中学校を巡回し、支援者（保育士、教師等）からの相談に応じる巡回相談や保護者等からの個別相談に応じる発達相談などを行っています。保健センター（健康づくり課）が事務局となり、障害福祉課・保育課・こども未来課・教育委員会と連携して取り組んでいます。

## 7. 報告書の見方について

---

### 【表記について】

#### ●障害種別の表記について

図表中の区分表記において、身体障害者手帳所持者を「身体」、療育手帳所持者を「知的」、精神障害者保健福祉手帳所持者を「精神」と表記している場合があります。

#### ●「n」について

各設問の「n」(Number of Cases)は、集計対象者総数、集計総回答数または特定の方への設問に対する限定回答者数を表しています。構成比(%)に「n」を乗じると、人数が算出されます。

#### ●構成比「%」について

構成比の表示は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つを選ぶ方式）であっても、合計値が100%にならない場合があります。

#### ●語句について

「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

調査票の選択肢の語句が長い場合、説明文中においては( )内の語句を省略して表現しています。



## 【集計について】

### ●障害種別の集計について

手帳を重複して所持する方がいるため、障害種別ごとの人数を合計したものは、アンケート回収数より多くなります。障害種別ごとの構成比は、障害種別ごとの総人数をもとに算出しています。

### ●複数回答（複数の選択肢から2つ以上を選ぶ方式）の集計について

複数回答の設問の場合、回答者数を母数に構成比を示しています。そのため、合計値が100%を超える場合があります。



## Ⅱ 障害者調査



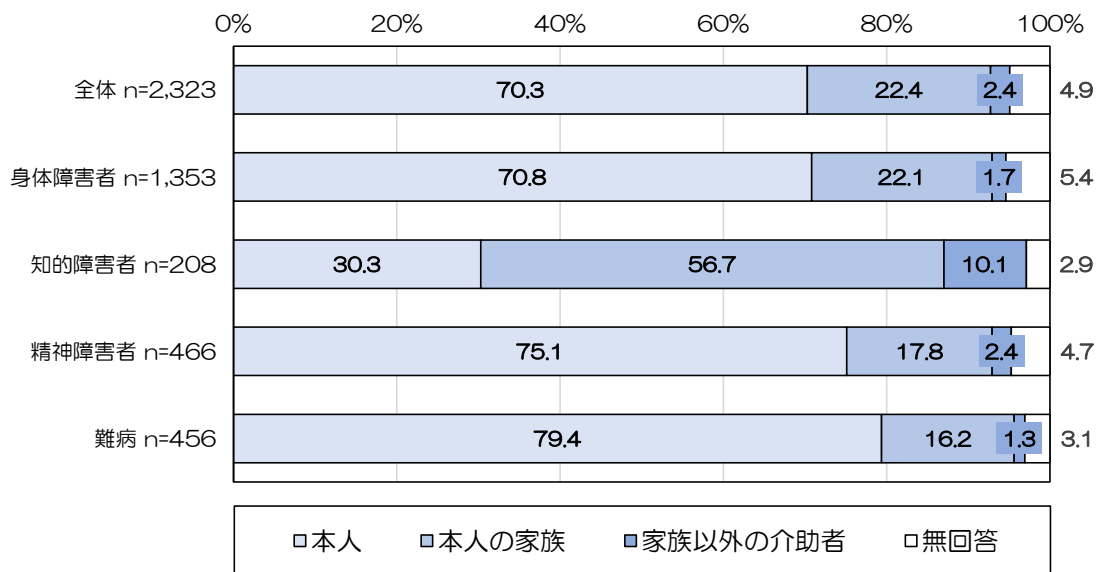
## Ⅱ 障害者調査

### ● お答えいただく方について

#### 問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つ)

本調査への回答者については、全体では「本人」が70.3%で最も高く、次いで「本人の家族」が22.4%、「家族以外の介助者」が2.4%となっています。

障害種別でみると、知的障害者では「本人の家族」が56.7%と最も高い割合を占めています。

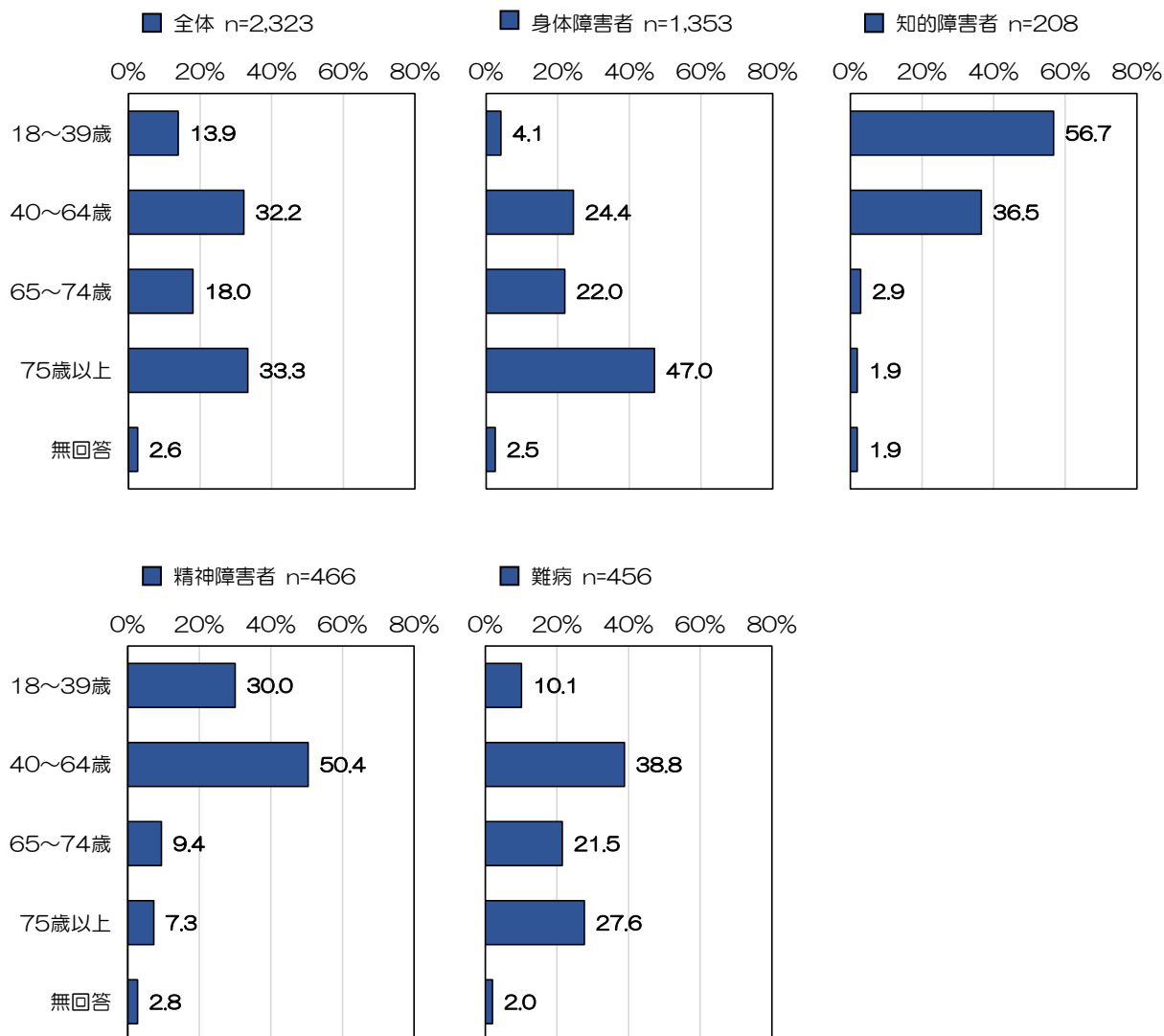


## 1 あなたご自身のことについて

### 問2 あなたの年齢をお答えください。

年齢については、全体では「75歳以上」が33.3%で最も高く、次いで「40～64歳」が32.2%、「65～74歳」が18.0%となっています。

障害種別で最も高い割合を占めている年齢は、身体障害者では「75歳以上」が47.0%、知的障害者では「18～39歳」が56.7%、精神障害者では「40～64歳」が50.4%、難病では「40～64歳」が38.8%となっています。

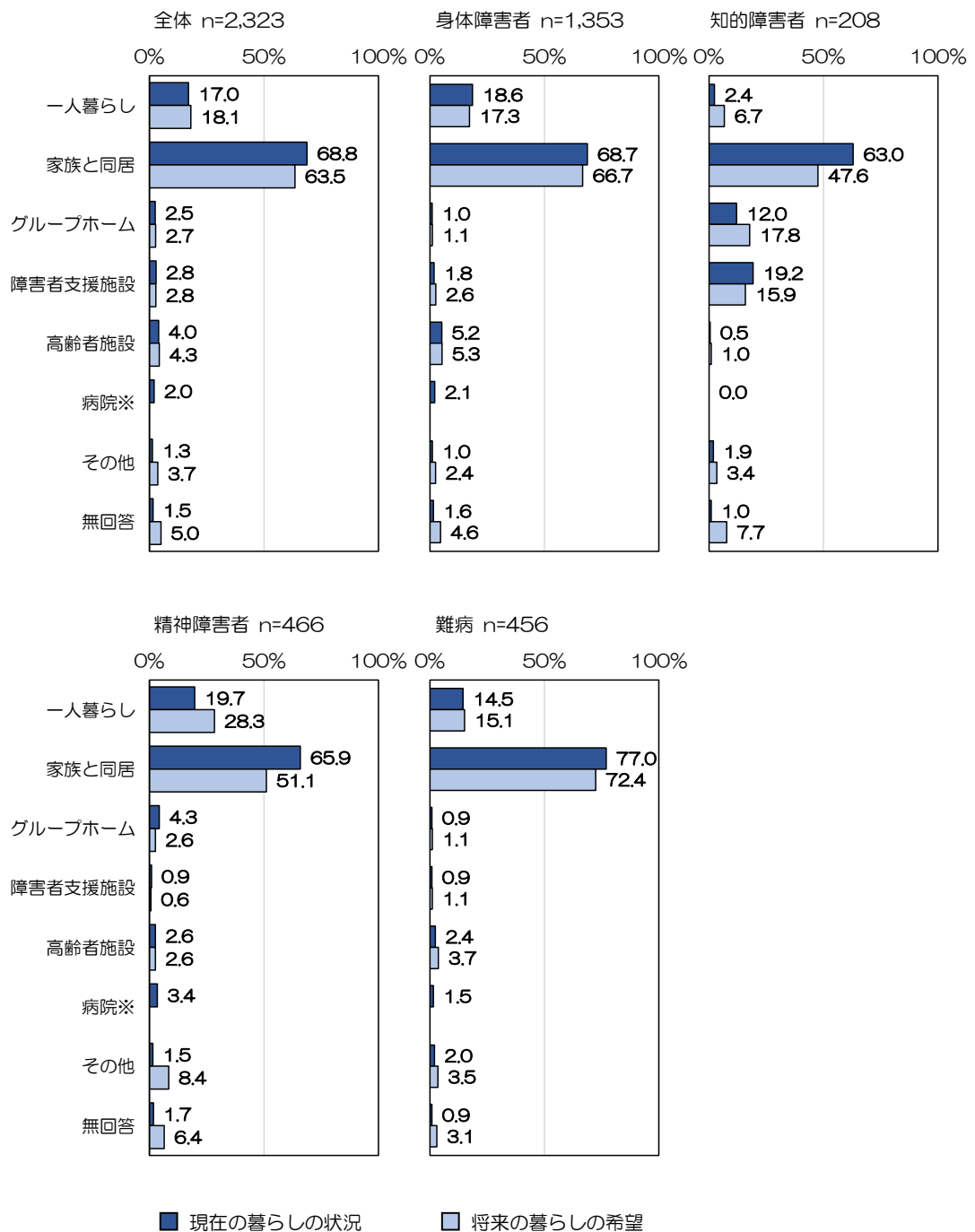


問3 あなたは、現在、どのように暮らしていますか。(〇は1つ)

問4 あなたは、今後3年以内に、どのように暮らしたいですか。(〇は1つ)

現在の暮らしの状況と将来の暮らしの希望とともに、全体で「家族と暮らしている」が最も高く、次いで「一人で暮らしている」が高くなっています。

障害種別でみると、身体障害者と難病においては現在の暮らしと将来の暮らしの希望に大きな違いはありませんでした。知的障害者において、将来の暮らしの希望を現在の暮らしの状況と比較すると「家族と同居」と「障害者支援施設」が減り、「グループホーム」と「一人暮らし」が増えています。また、精神障害者において、将来の暮らしの希望を現在の暮らしの状況と比較すると「家族と同居」が減り、「一人暮らし」が増えています。

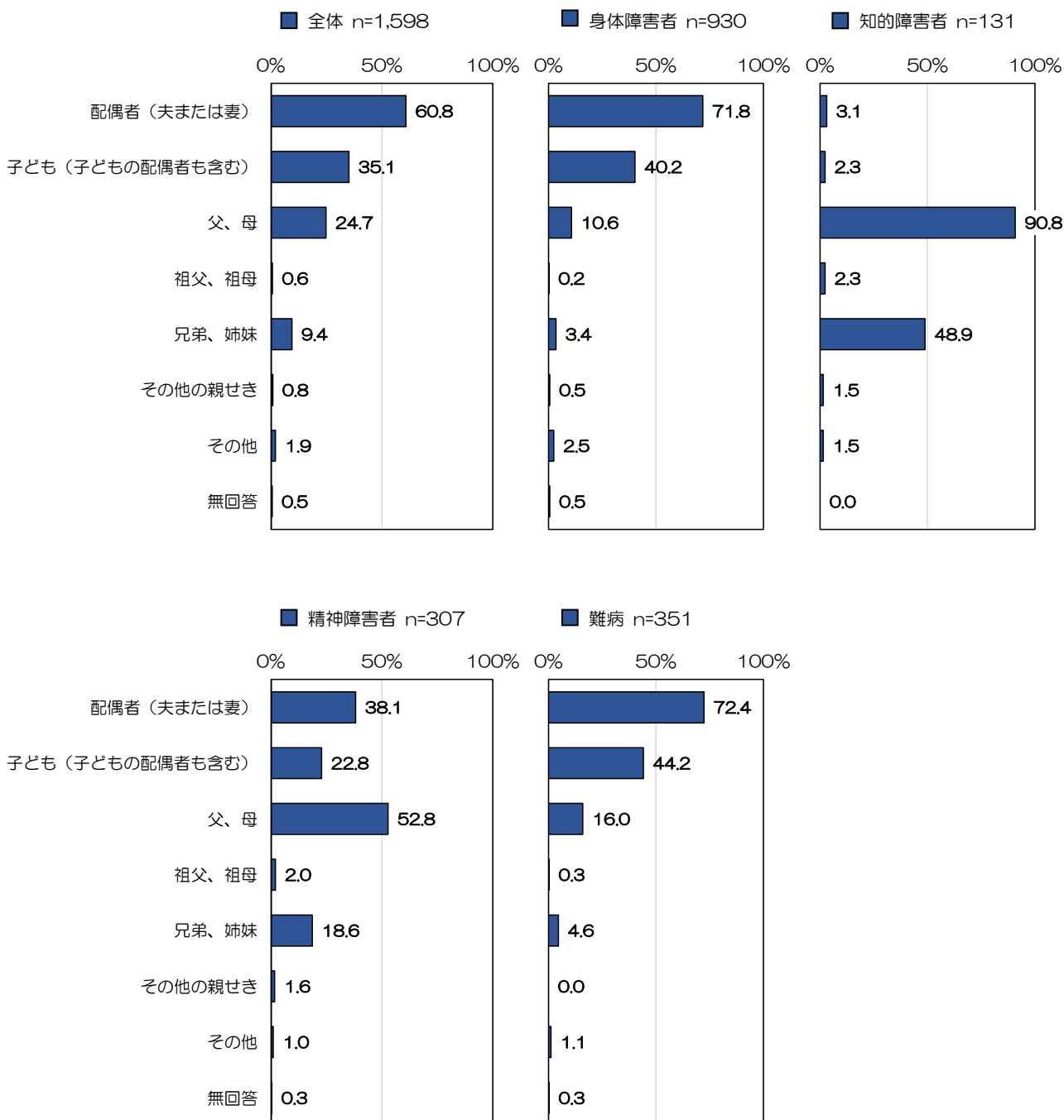


【問3で「家族と暮らしている」と回答した方にお伺いします。】

問3-1 一緒に暮らしている人は、どなたですか。(〇はいくつでも)

一緒に暮らしている家族については、全体では「配偶者」が60.8%で最も高く、次いで「子ども」が35.1%、「父、母」が24.7%となっています。

障害種別で見ると、身体障害者、難病においては「配偶者」が最も高い割合を占めています。知的障害者、精神障害者においては「父、母」が最も高い割合を占めています。

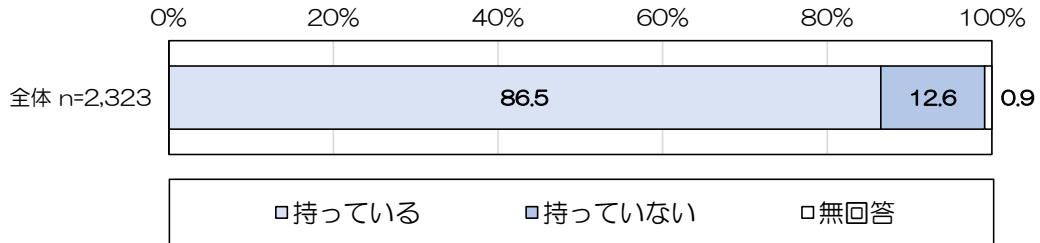




## 2 あなたの障害の状況について

### 問5 あなたは、障害者手帳を持っていますか。(〇は1つ)

障害者手帳の所有状況については、全体では「持っている」が86.5%、「持っていない」が12.6%と、「持っている」が73.9ポイント上回っています。

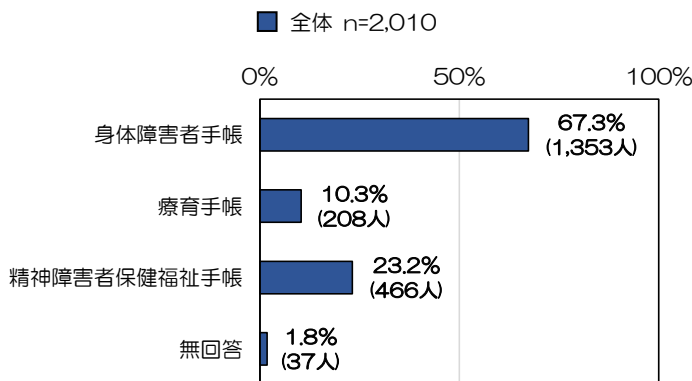


【問5で「障害者手帳」を持っていると回答した方にお伺いします。】

### 問5-1 あなたがお持ちの障害者手帳の種類と障害の程度をお答えください。 (あてはまる障害者手帳と障害の程度に〇を付けてください。)

#### ◆障害者手帳の種類 全体 n=2,010

障害者手帳の種類については、「身体障害者手帳」が67.3% (1,353人)、「療育手帳」が10.3% (208人)、「精神障害者保健福祉手帳」が23.2% (466人)となっています。

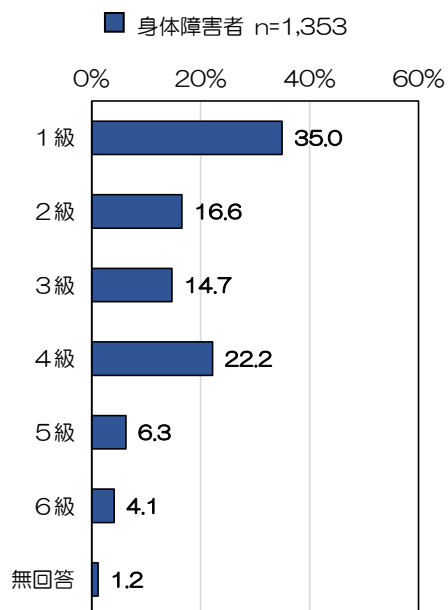


#### ◆障害の重複状況について

- ・「身体」のみ：1,313人
- ・「知的」のみ：170人
- ・「精神」のみ：438人
- ・「身体」と「知的」：24人
- ・「身体」と「精神」：14人
- ・「知的」と「精神」：12人
- ・「身体」と「知的」と「精神」：2人

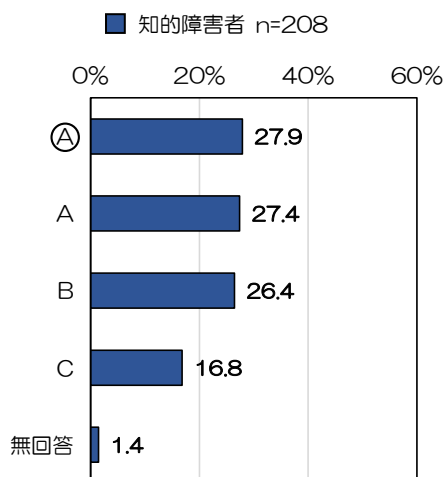
◆身体障害者手帳所持者の等級内訳

身体障害者手帳所持者の等級内訳については、「1級」が35.0%で最も高く、次いで「4級」が22.2%、「2級」が16.6%となっています。



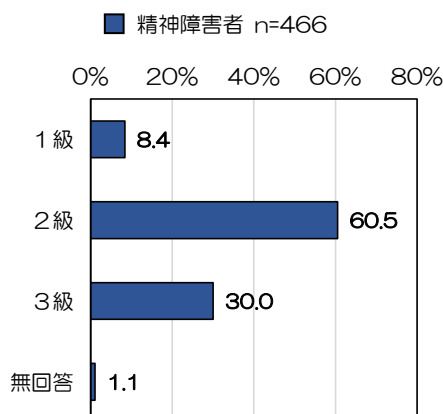
◆療育手帳所持者の等級内訳

療育手帳所持者の等級内訳については、「A」が27.9%で最も高く、次いで「A」が27.4%、「C」が26.4%となっています。



## ◆精神障害者保健福祉手帳所持者の等級内訳

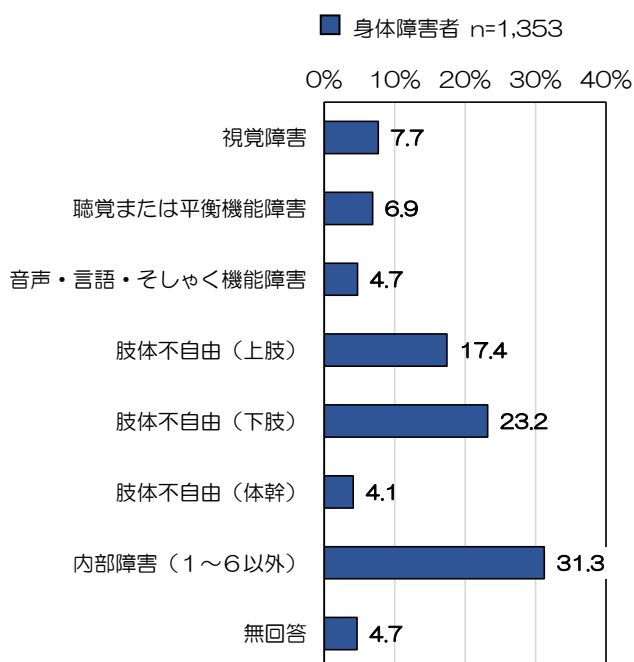
精神障害者保健福祉手帳所持者の等級内訳については、「2級」が60.5%で最も高く、次いで「3級」が30.0%、「1級」が8.4%となっています。



【問5-1で「身体障害者手帳」を持っていると回答した方にお伺いします。】

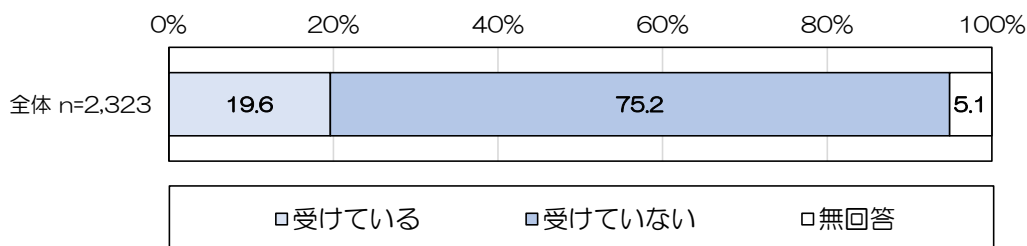
## 問5-2 障害の種別をお答えください。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所持者の障害種別については、全体では「内部障害」が31.3%で最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」が23.2%、「肢体不自由（上肢）」が17.4%となっています。



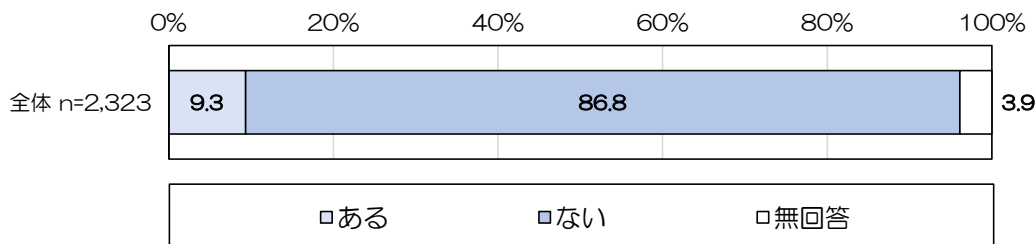
**問6 あなたは、難病（指定難病）の認定を受けていますか。（〇は1つ）**

難病の認定状況については、全体では「受けている」が19.6%（456人）、「受けていない」が75.2%となっています。



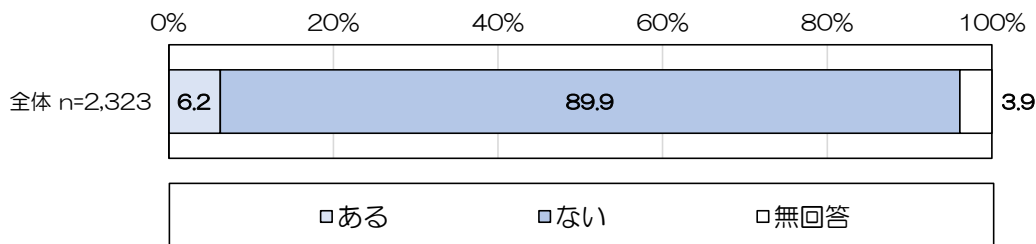
**問7 あなたは、発達障害であると診断をされたことがありますか。（〇は1つ）**

発達障害の診断の有無については、全体では「ある」が9.3%（217人）、「ない」が86.8%となっています。



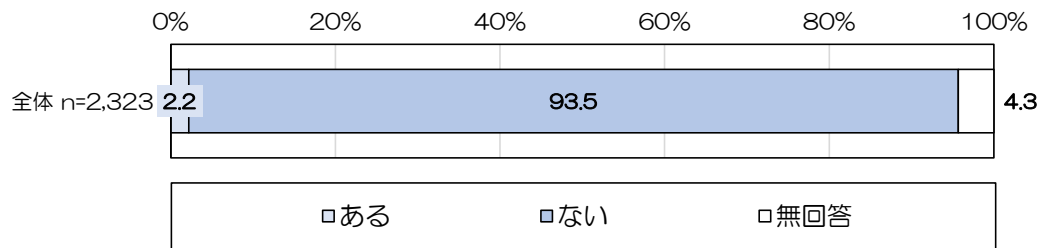
**問8 あなたは、高次脳機能障害であると診断をされたことがありますか。（〇は1つ）**

高次脳機能障害の診断の有無については、全体では「ある」が6.2%（145人）、「ない」が89.9%となっています。



**問9 あなたは、遷延性意識障害の状態にありますか。(〇は1つ)**

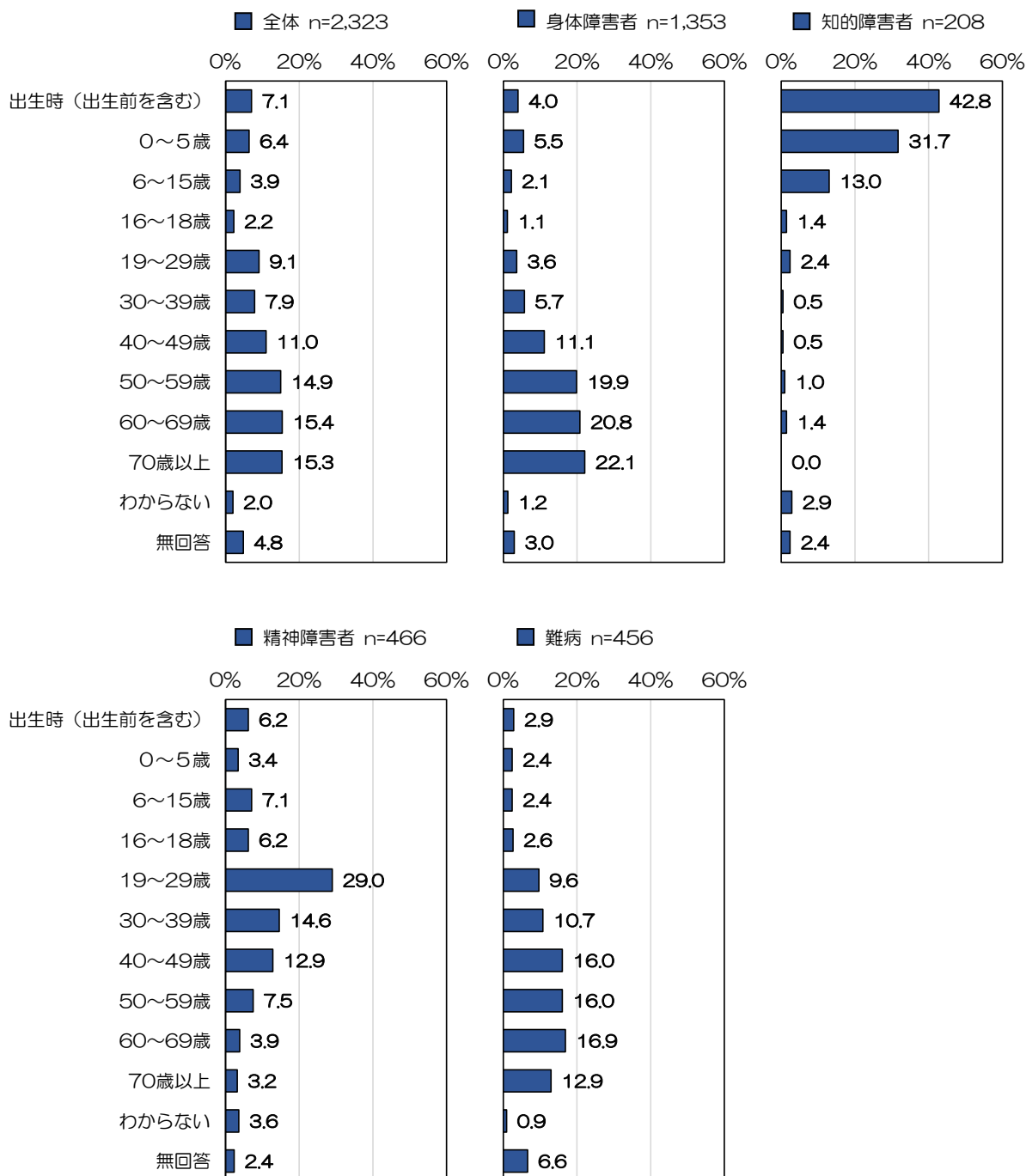
遷延性意識障害の状態にあるかについては、全体では「ある」が2.2%(51人)、「ない」が93.5%となっています。



**問 10 あなたが現在の障害の状態になったのはいつごろですか。(〇は1つ)**

障害の状態になった時期については、全体では「60～69歳」が15.4%で最も高く、次いで「70歳以上」が15.3%、「50～59歳」が14.9%となっています。

障害種別で見ると、身体障害者では「70歳以上」が22.1%で最も高く、次いで「60～69歳」が20.8%となっています。知的障害者では「出生時」が42.8%で最も高く、次いで「0～5歳」が31.7%となっています。精神障害者では「19～29歳」が29.0%で最も高く、次いで「30～39歳」が14.6%となっています。難病では「60～69歳」が16.9%で最も高く、次いで「40～49歳」「50～59歳」がともに16.0%となっています。

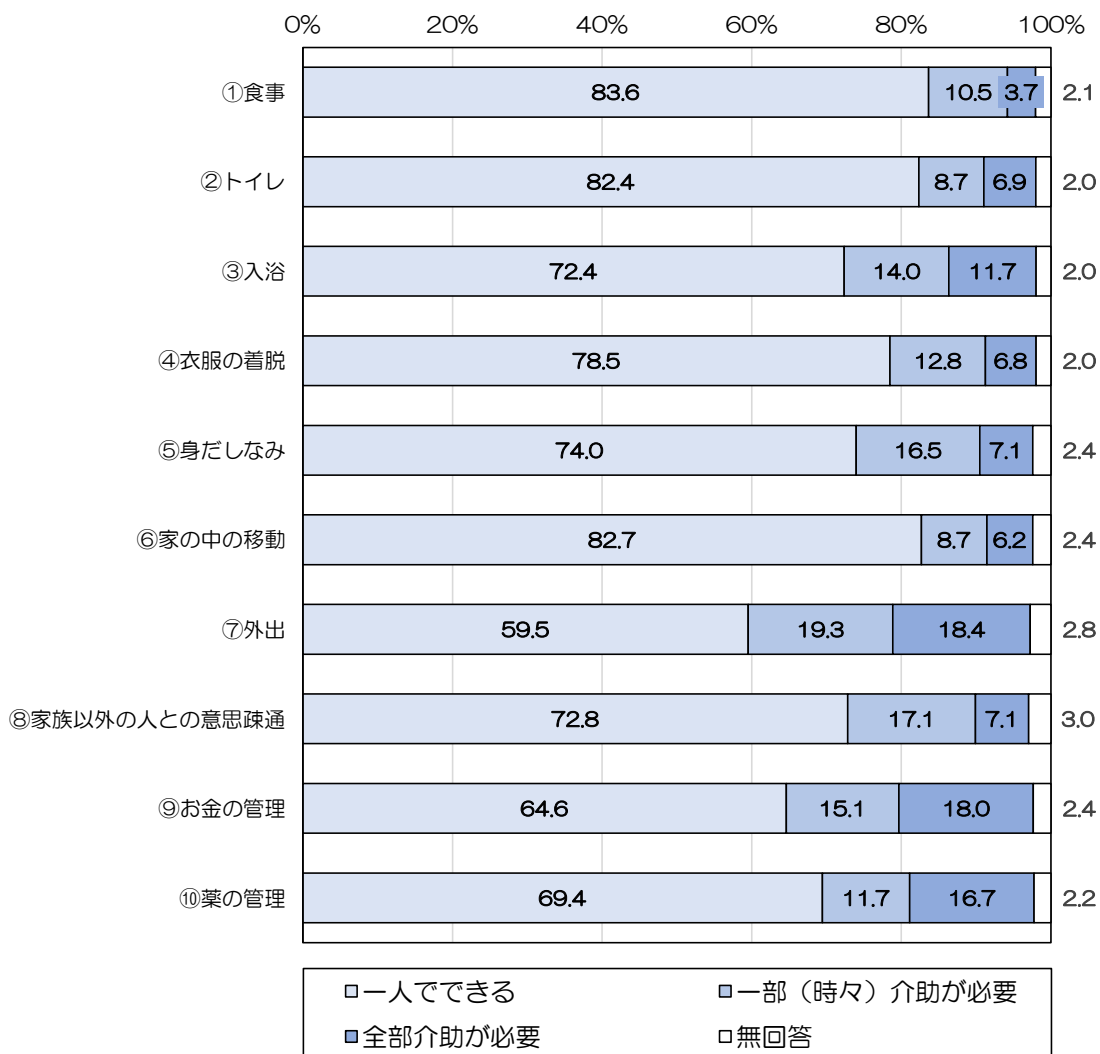


### 3 あなたの介助について

問 11 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。  
 (①から⑩についてそれぞれ〇は1つ)

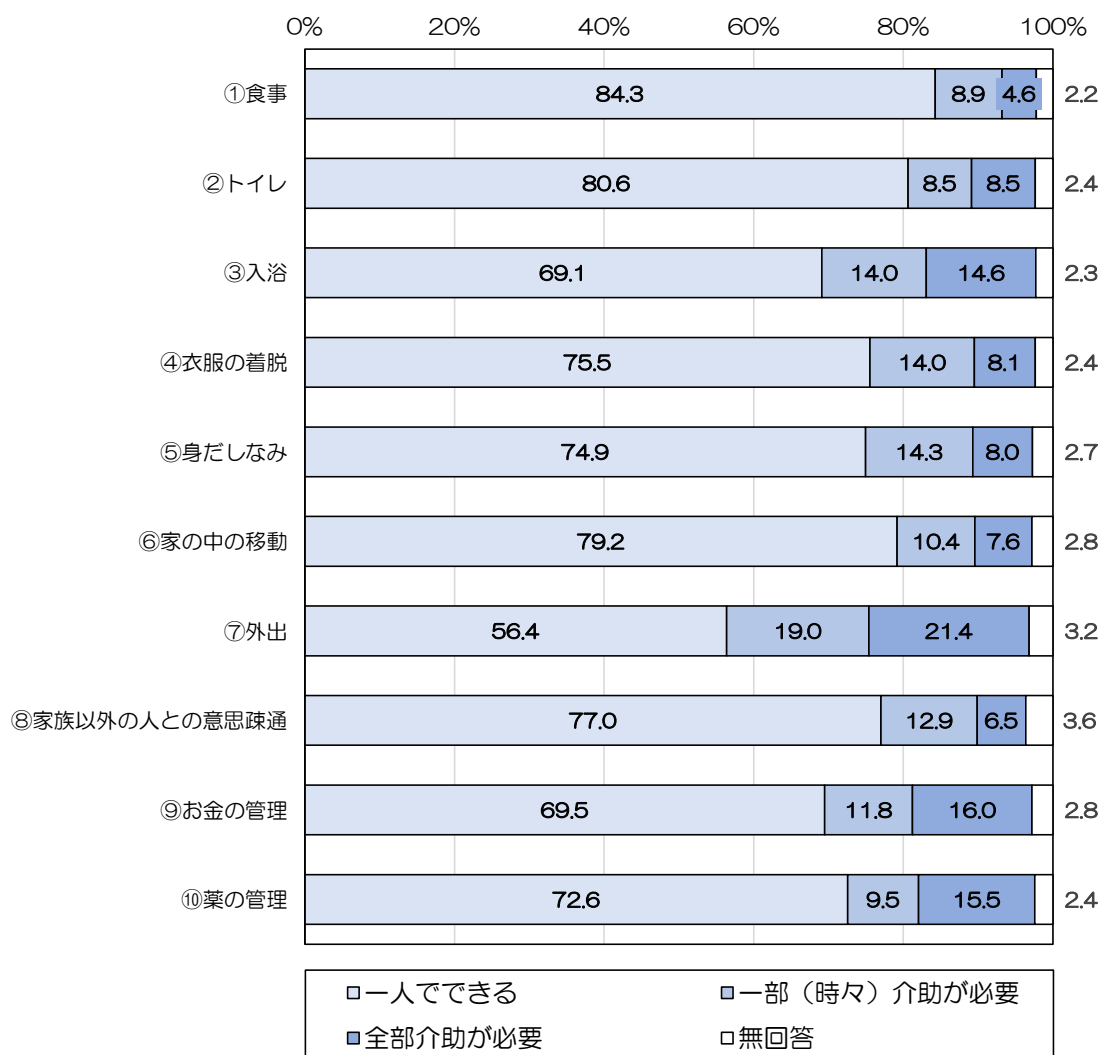
◆全体

日常生活の介助の状況について、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」と合わせた“介助が必要”の割合をみると、『⑦外出』が37.7%で最も高く、次いで『⑨お金の管理』が33.1%、『⑩薬の管理』が28.4%となっています。



◆身体障害者

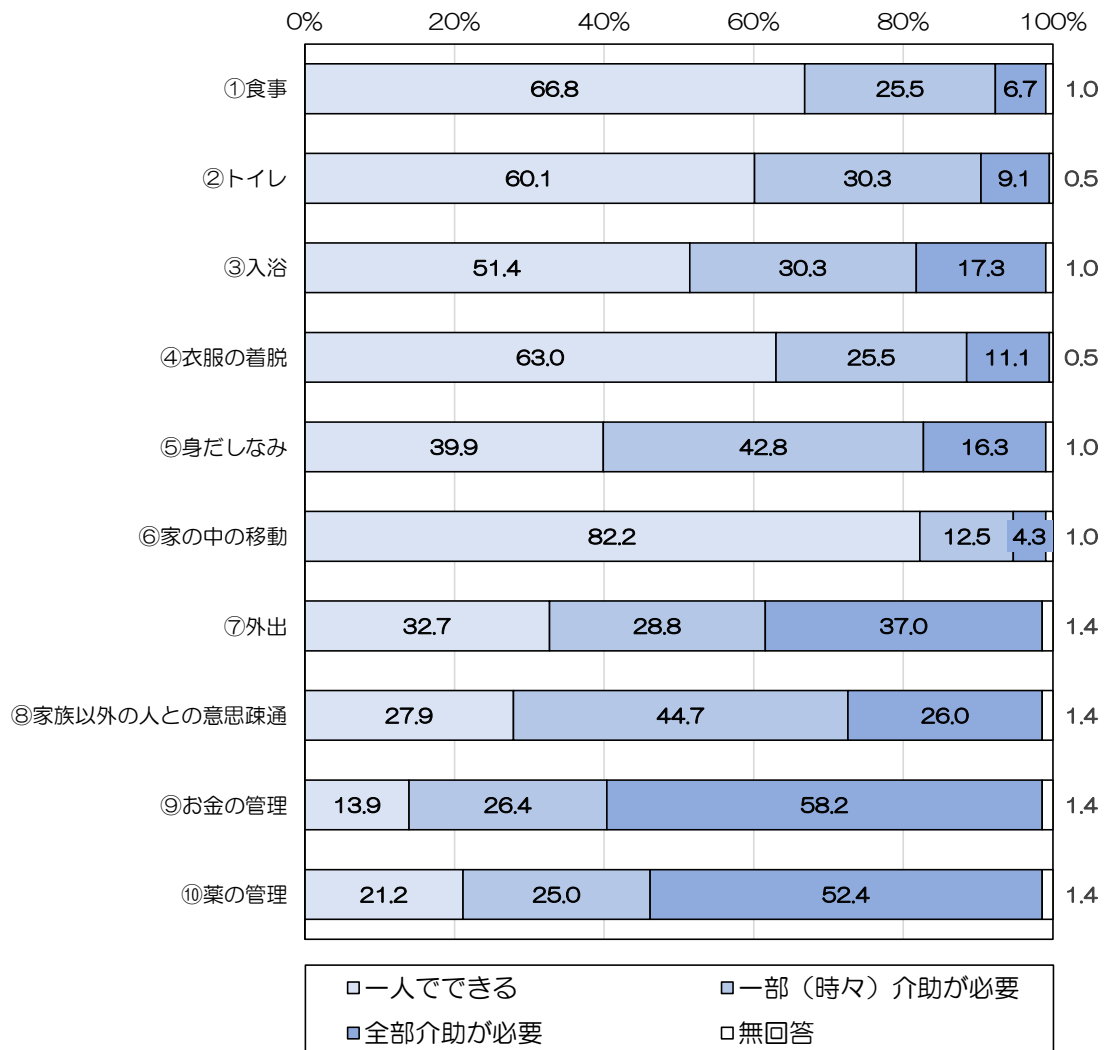
日常生活の介助の状況について、“介助が必要（「一部介助が必要」＋「全部介助が必要」）”の割合をみると、『⑦外出』が40.4%で最も高く、次いで『③入浴』が28.6%、『⑨お金の管理』が27.8%となっています。





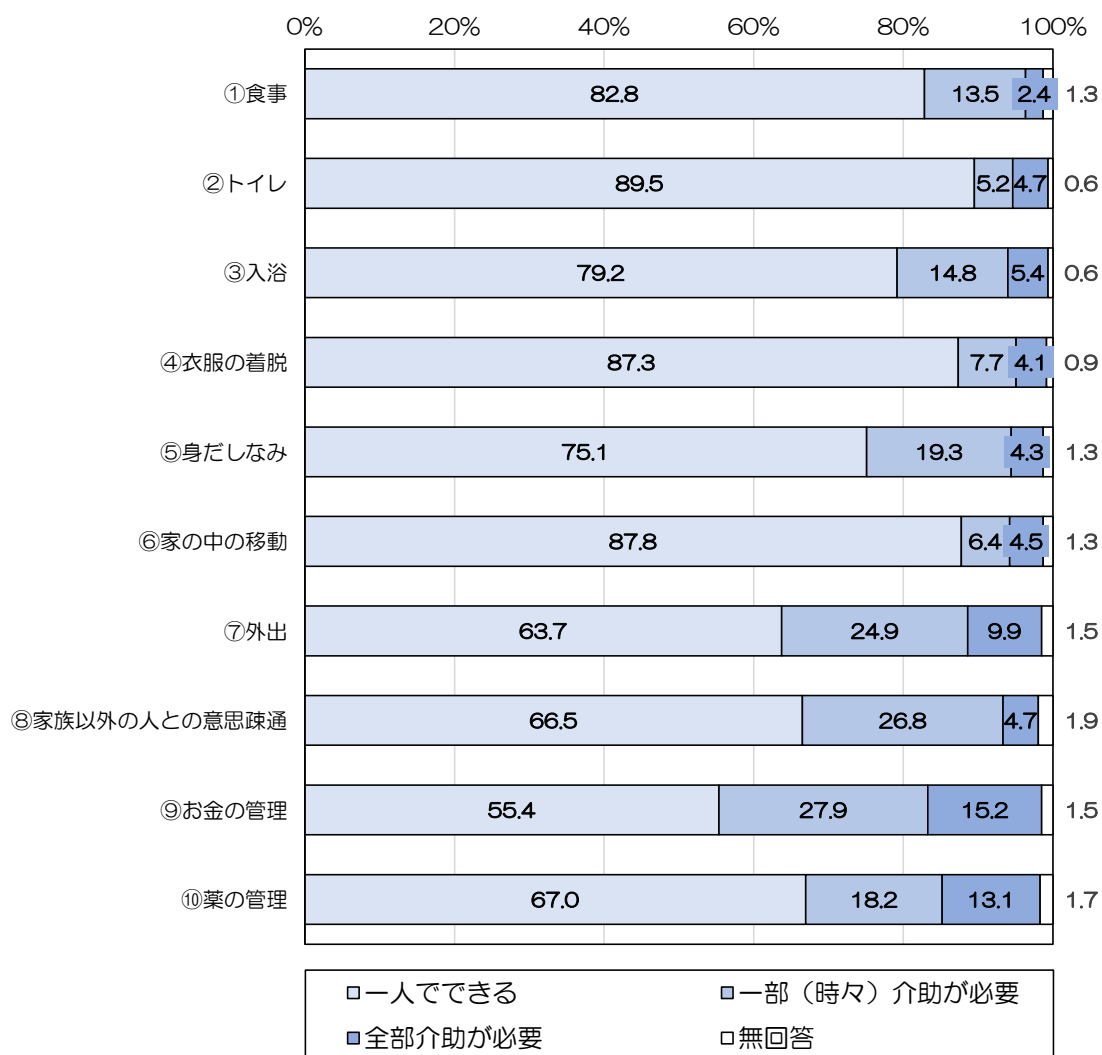
◆知的障害者

日常生活の介助の状況について、“介助が必要（「一部介助が必要」＋「全部介助が必要」）”の割合をみると、『⑨お金の管理』が84.6%で最も高く、次いで『⑩薬の管理』が77.4%、『⑧家族以外の人との意思疎通』が70.7%となっています。



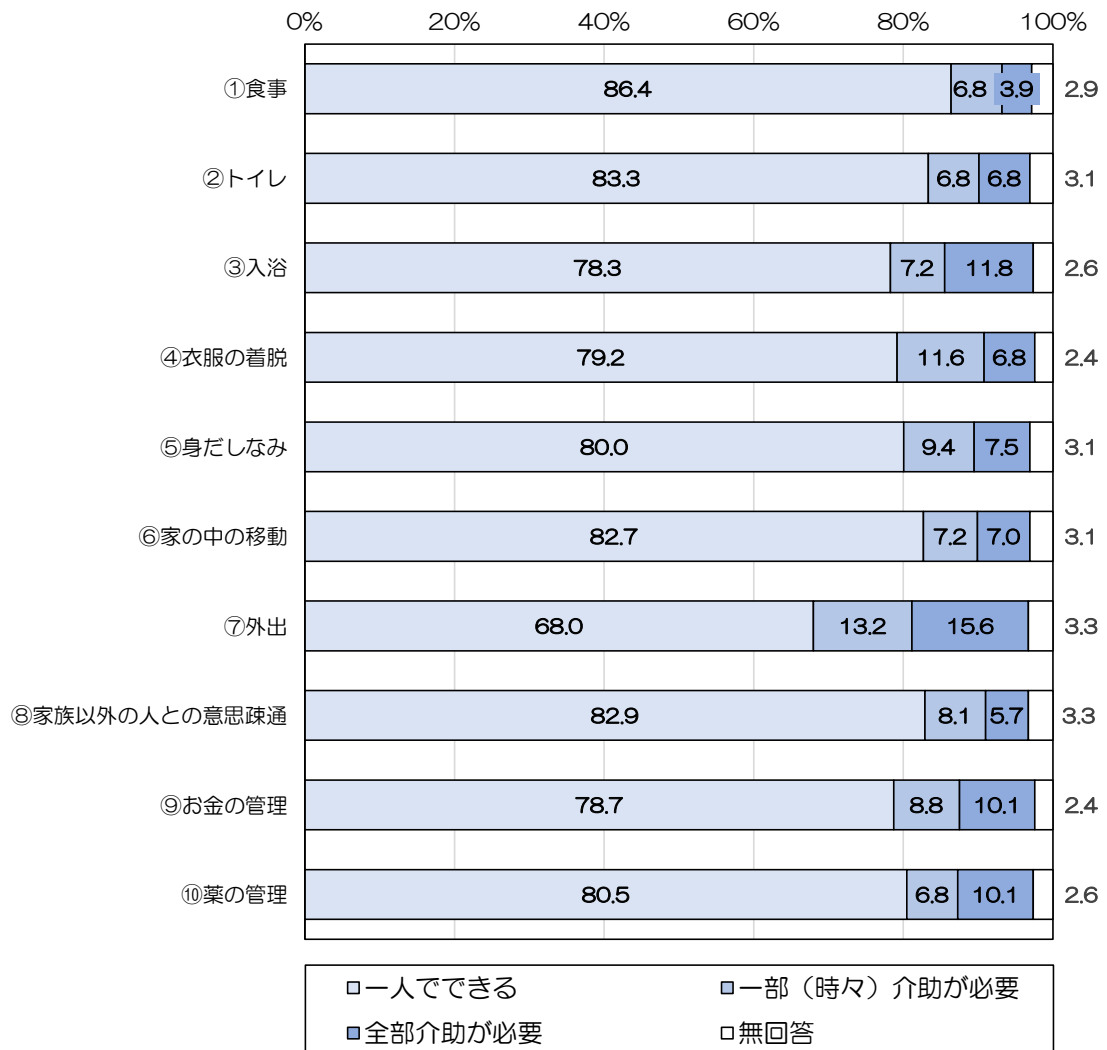
◆精神障害者

日常生活の介助の状況について、“介助が必要（「一部介助が必要」＋「全部介助が必要」）”の割合をみると、『⑨お金の管理』が43.1%で最も高く、次いで『⑦外出』が34.8%、『⑧家族以外の人との意思疎通』が31.5%となっています。



◆難病

日常生活の介助の状況について、“介助が必要（「一部介助が必要」＋「全部介助が必要」）”の割合をみると、『⑦外出』が28.8%で最も高く、次いで『③入浴』が19.0%、『⑨お金の管理』が18.9%となっています。



◆全体・障害種別 “介助が必要（「一部介助が必要」＋「全部介助が必要」）”

日常生活の介助の状況について、全体、障害種別において、各項目の“介助が必要”の今回調査結果をまとめたものが下表となります。全体結果を上回る結果を示した部分は下線を引いています。

	①	②	③	④	⑤
	食事	トイレ	入浴	衣服の着脱	身だしなみ
全体	14.2	15.6	25.7	19.6	23.6
身体障害者	13.5	17.0	28.6	22.1	22.3
知的障害者	32.2	39.4	47.6	36.6	59.1
精神障害者	15.9	9.9	20.2	11.8	23.6
難病	10.7	13.6	19.0	18.4	16.9

	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	家の中の移動	外出	家族以外の人との意思疎通	お金の管理	薬の管理
全体	14.9	37.7	24.2	33.1	28.4
身体障害者	18.0	40.4	19.4	27.8	25.0
知的障害者	16.8	65.8	70.7	84.6	77.4
精神障害者	10.9	34.8	31.5	43.1	31.3
難病	14.2	28.8	13.8	18.9	16.9

日常生活の介助の状況について、上位3項目を障害種別にみると、身体障害者、難病では「外出」が1位、「入浴」が2位、「お金の管理」が3位になっているのに対し、知的障害者、精神障害者では「お金の管理」が1位、「家族以外の人との意思疎通」が3位となっており、知的障害者の2位は「薬の管理」、精神障害者の2位は「外出」となっています。

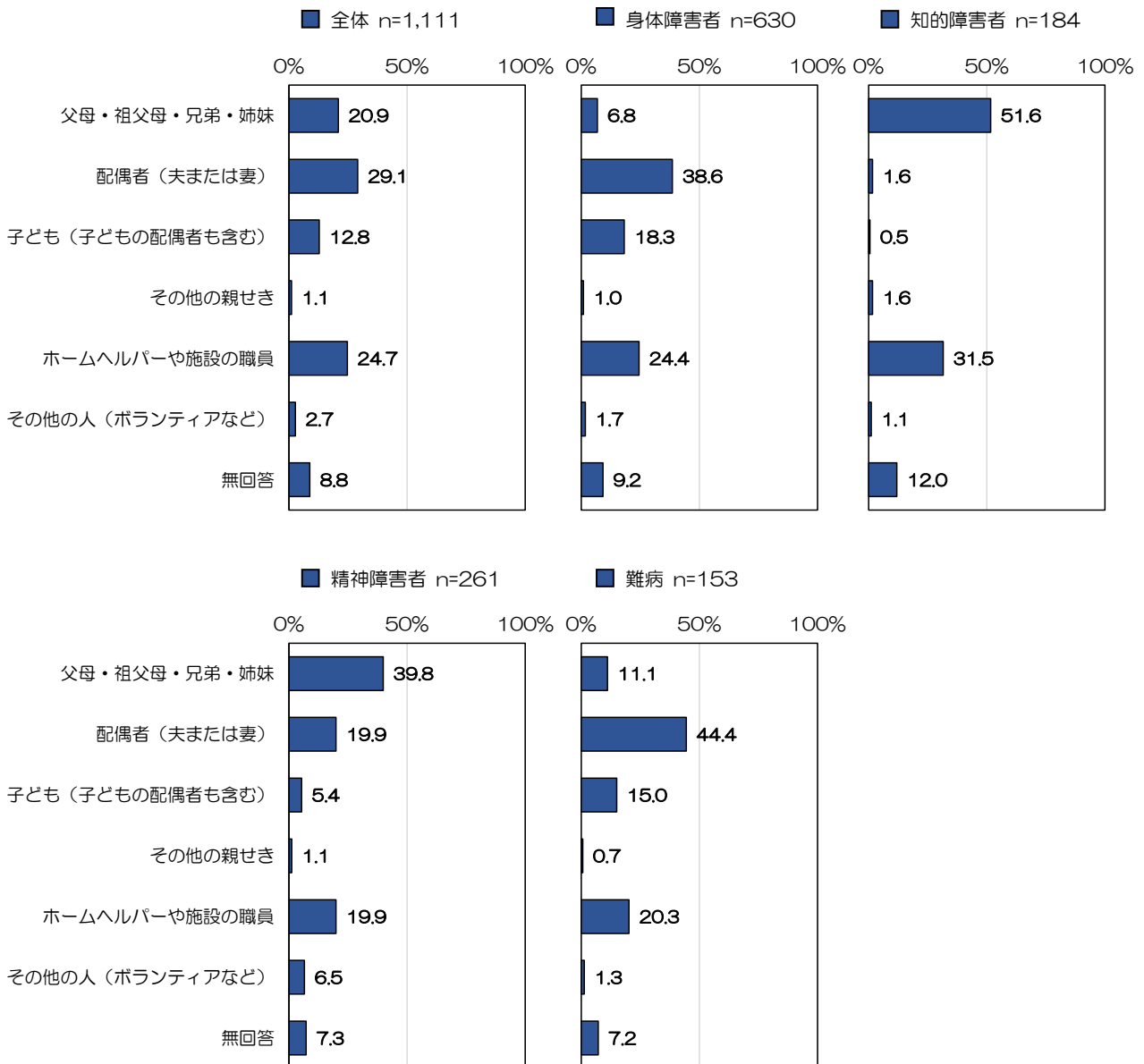
	1位	2位	3位
全体	外出	お金の管理	薬の管理
身体障害者	外出	入浴	お金の管理
知的障害者	お金の管理	薬の管理	家族以外の人との意思疎通
精神障害者	お金の管理	外出	家族以外の人との意思疎通
難病	外出	入浴	お金の管理

【問 11 の各項目において「一部（時々）介助が必要」または「全部介助が必要」と回答した項目があった方にお伺いします。】

問 11-1 あなたを介助してくれる方は主にどなたですか。（〇は1つ）

主な介助者については、全体では「配偶者」が29.1%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が24.7%、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が20.9%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「配偶者」が38.6%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が24.4%となっています。知的障害者では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が51.6%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が31.5%となっています。精神障害者では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が39.8%で最も高く、次いで「配偶者」「ホームヘルパーや施設の職員」がともに19.9%となっています。難病では「配偶者」が44.4%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が20.3%となっています。

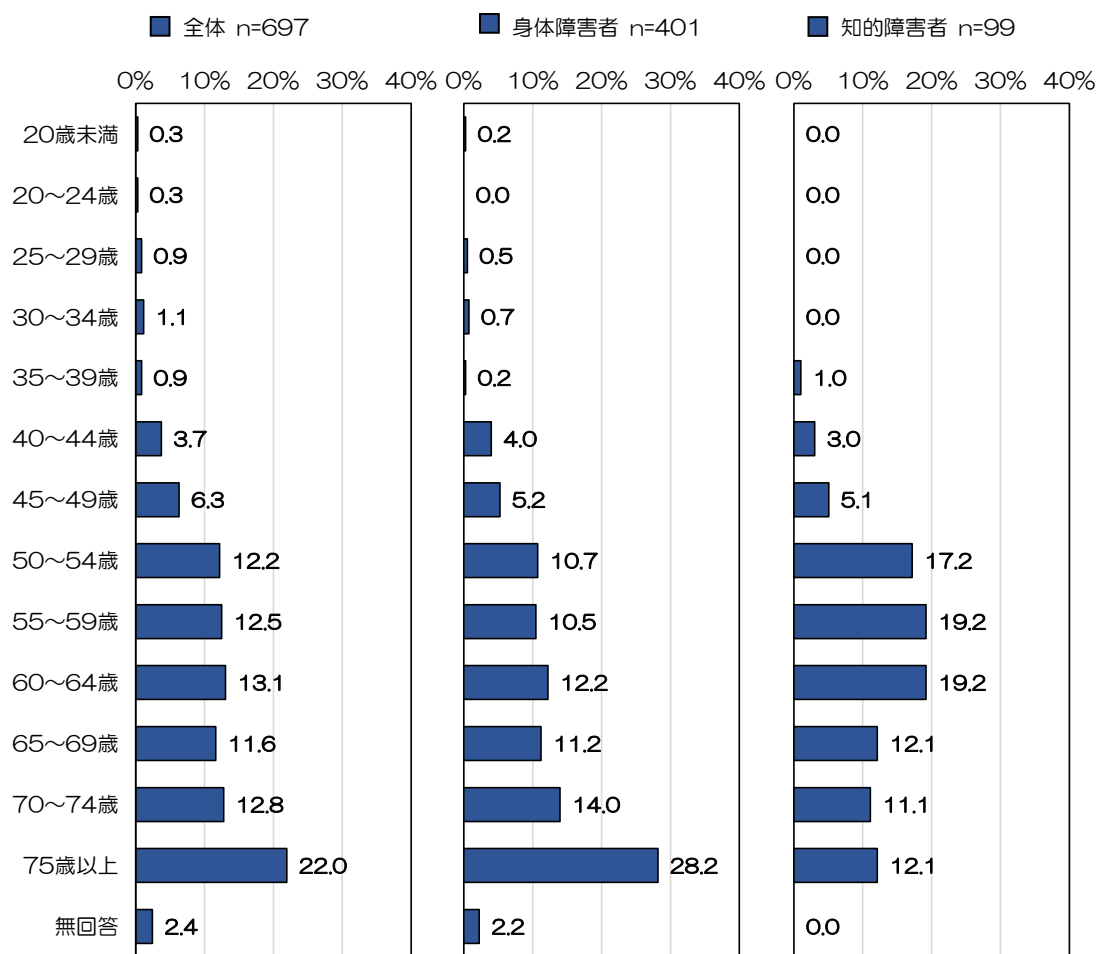


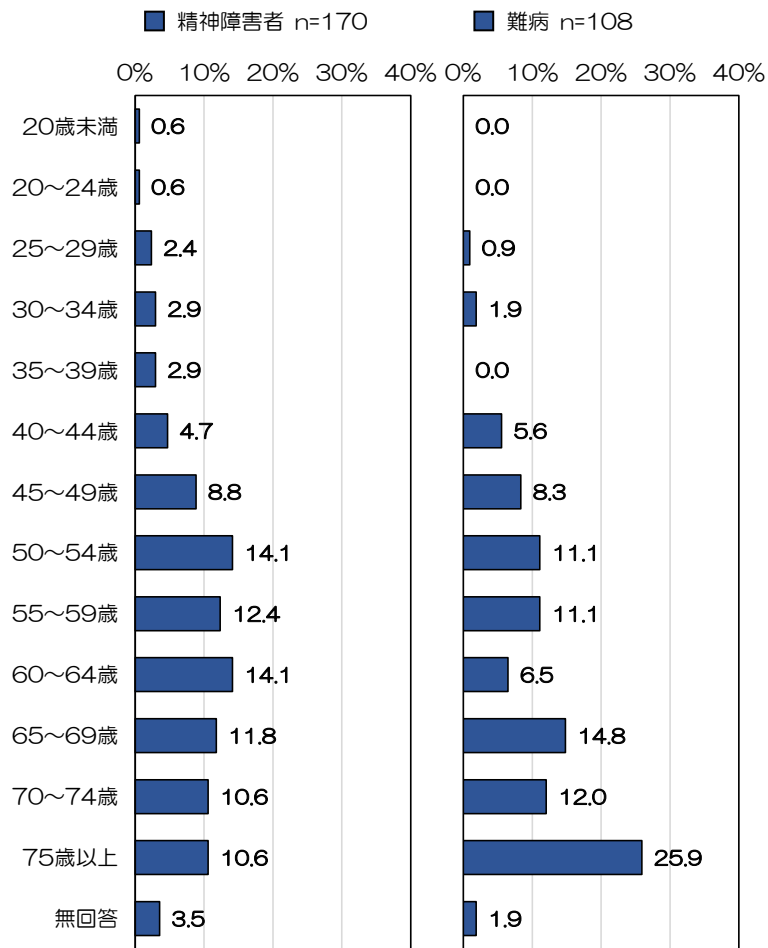
【問 11-1 で「父母・祖父母・兄弟・姉妹」、「配偶者（夫または妻）」または「子ども（子どもの配偶者も含む）」と回答した方にお伺いします。】

問 11-2 主にあなたを介助してくれる方の年齢をお答えください。

主な介助者の年齢については、全体では「75歳以上」が22.0%で最も高く、次いで「60～64歳」が13.1%、「70～74歳」が12.8%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「75歳以上」が28.2%で最も高く、次いで「70～74歳」が14.0%、「60～64歳」が12.2%となっています。知的障害者では「55～59歳」「60～64歳」がともに19.2%で最も高く、次いで「50～54歳」が17.2%、「65～69歳」「75歳以上」が12.1%となっています。難病では「50～54歳」「60～64歳」がともに14.1%で最も高く、次いで「55～59歳」が12.4%、「65～69歳」が11.8%となっています。難病では「75歳以上」が25.9%で最も高く、次いで「65～69歳」が14.8%、「70～74歳」が12.0%となっています。



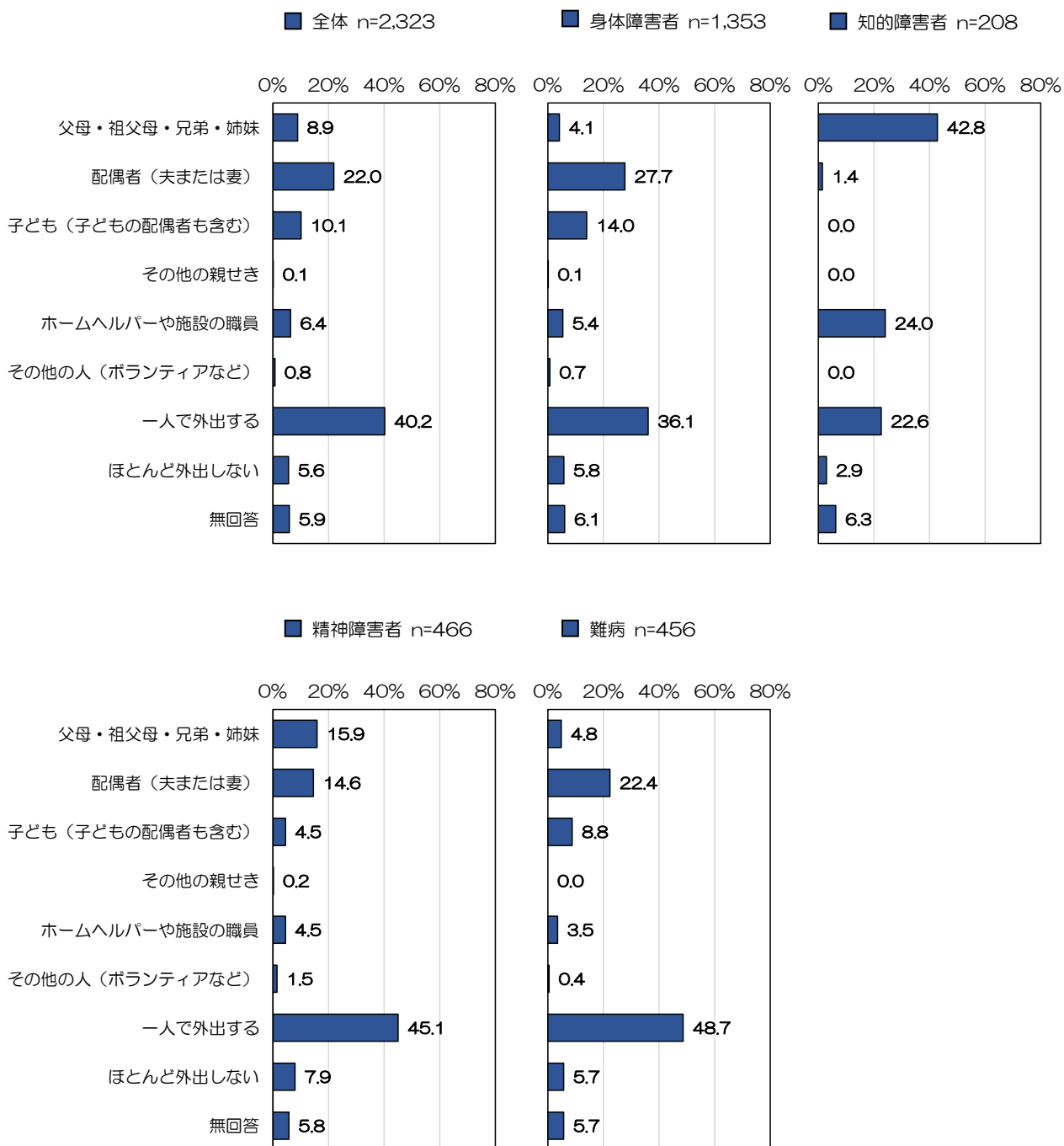


## 4 日中活動や就労について

### 問 12 あなたが、外出する際の主な同伴者はどなたですか。(〇は1つ)

外出する際の主な介助者については、全体では「一人で外出する」が40.2%で最も高く、次いで「配偶者」が22.0%、「子ども」が10.1%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「一人で外出する」が36.1%で最も高く、次いで「配偶者」が27.7%となっています。知的障害者では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が42.8%で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」が24.0%となっています。精神障害者では「一人で外出する」が45.1%で最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が15.9%となっています。難病では「一人で外出する」が48.7%で最も高く、次いで「配偶者」が22.4%となっています。

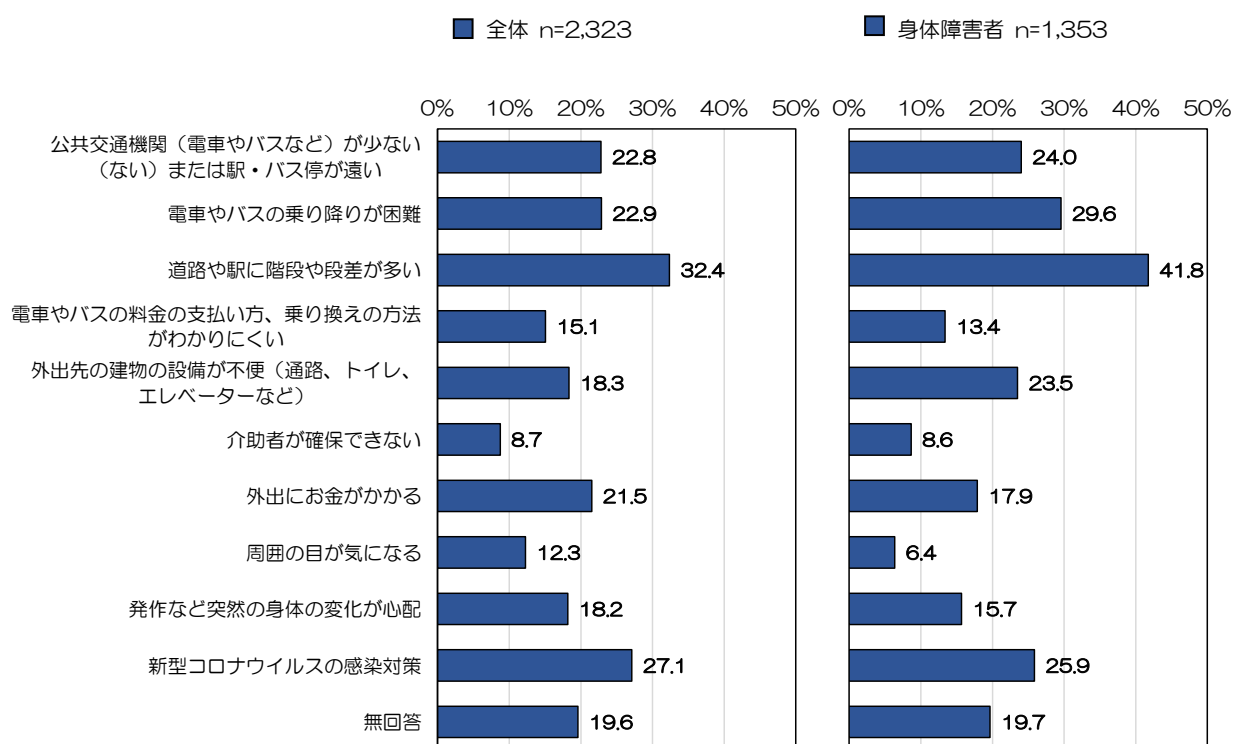




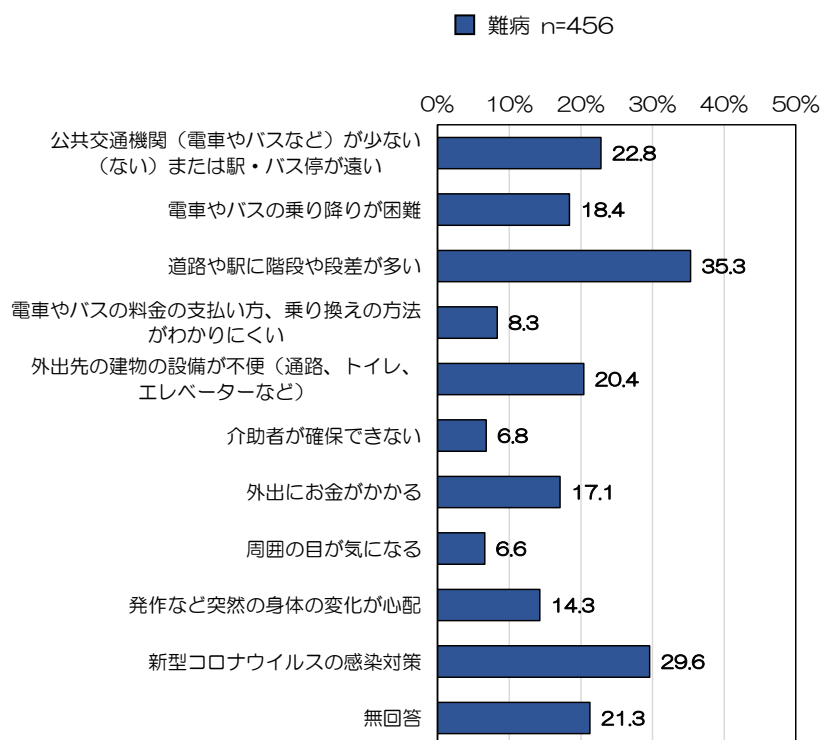
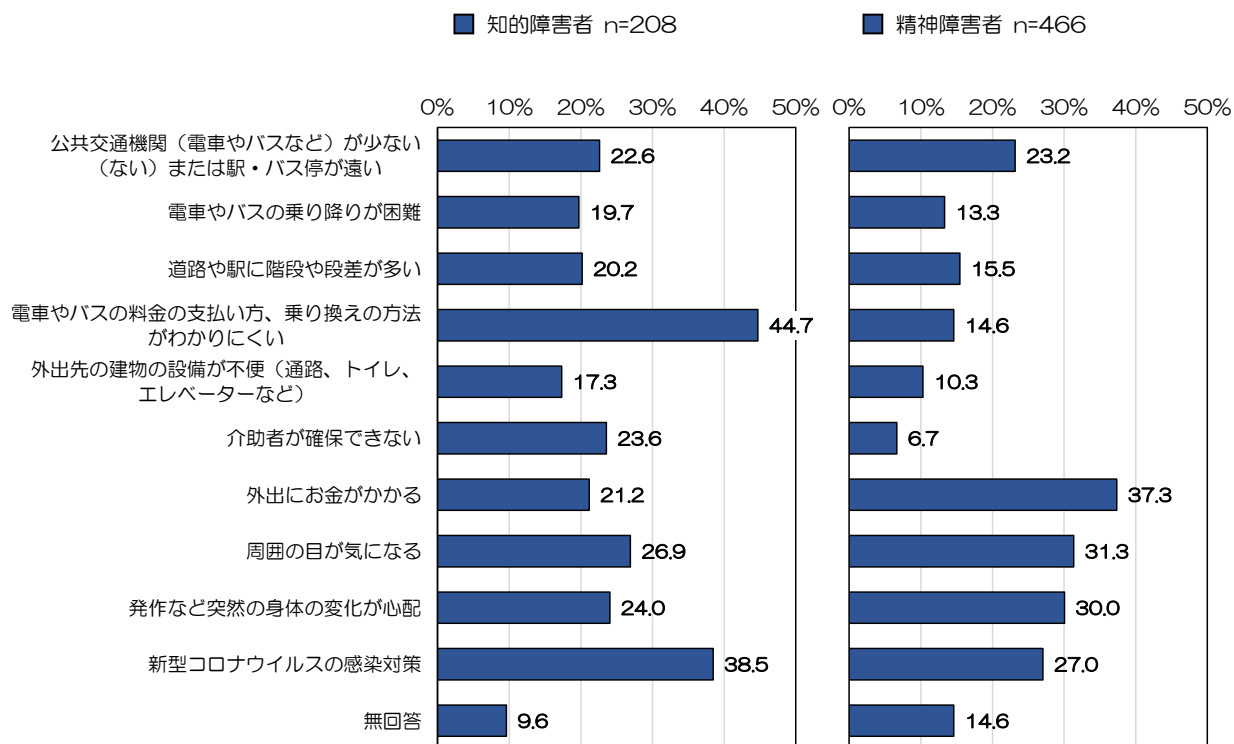
**問 13 あなたが外出する際、困ることは何ですか。(〇はいくつでも)**

外出する際の困りごとについては、全体では「道路や駅に階段や段差が多い」が32.4%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が27.1%、「電車やバスの乗り降りが困難」が18.7%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「道路や駅に階段や段差が多い」が41.8%で最も高く、次いで「電車やバスの乗り降りが困難」が29.6%となっています。知的障害者では「電車やバスの料金の支払い方、乗り換えの方法がわかりにくい」が44.7%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が38.5%となっています。精神障害者では「外出にお金がかかる」が37.3%で最も高く、次いで「周囲の目が気になる」が31.3%となっています。難病では「道路や駅に階段や段差が多い」が35.3%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が29.6%となっています。



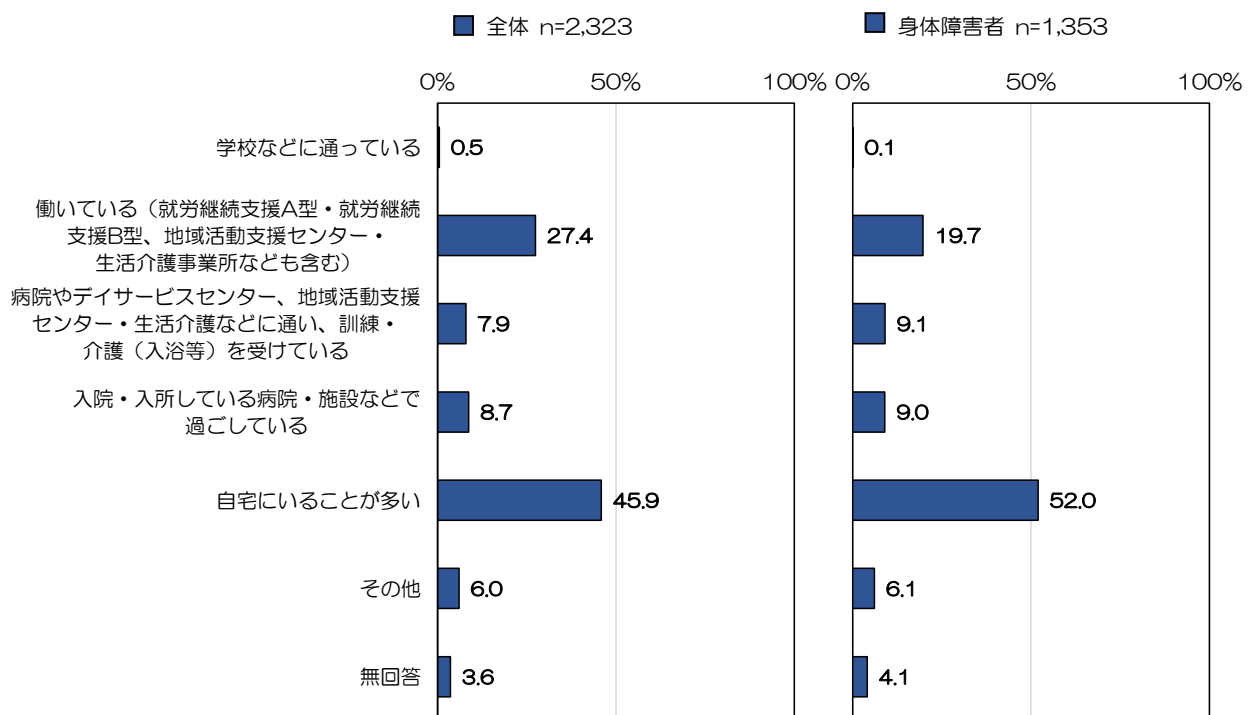
## II 障害者調査



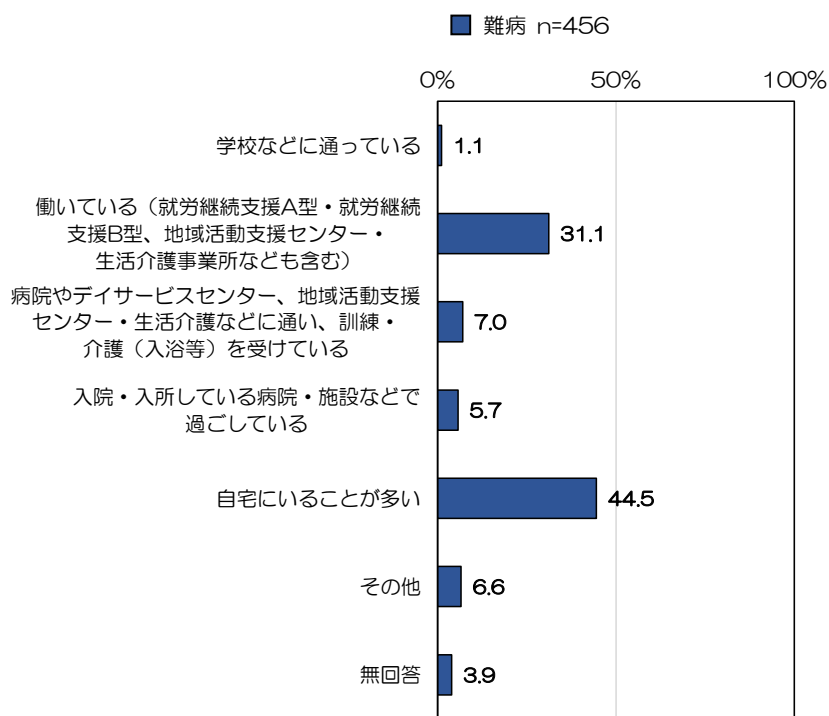
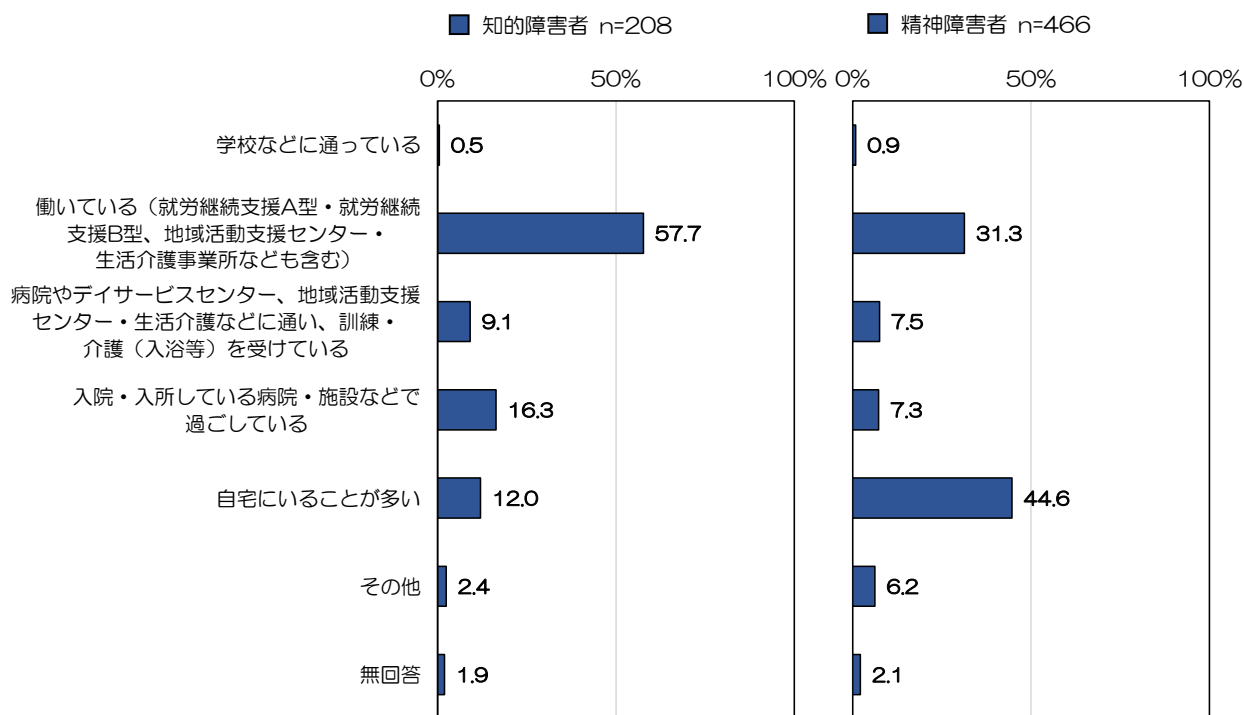
### 問 14 あなたは、日中、主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)

主な日中の過ごし方については、全体では「自宅にすることが多い」が45.9%で最も高く、次いで「働いている」が27.4%、「入院・入所している病院・施設などで過ごしている」が8.7%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「自宅にすることが多い」が52.0%で最も高く、次いで「働いている」が19.7%となっています。知的障害者では「働いている」が57.7%で最も高く、次いで「入院・入所している病院・施設などで過ごしている」が16.3%となっています。精神障害者では「自宅にすることが多い」が44.6%で最も高く、次いで「働いている」が31.3%となっています。難病では「自宅にすることが多い」が44.5%で最も高く、次いで「働いている」が31.1%となっています。



## II 障害者調査

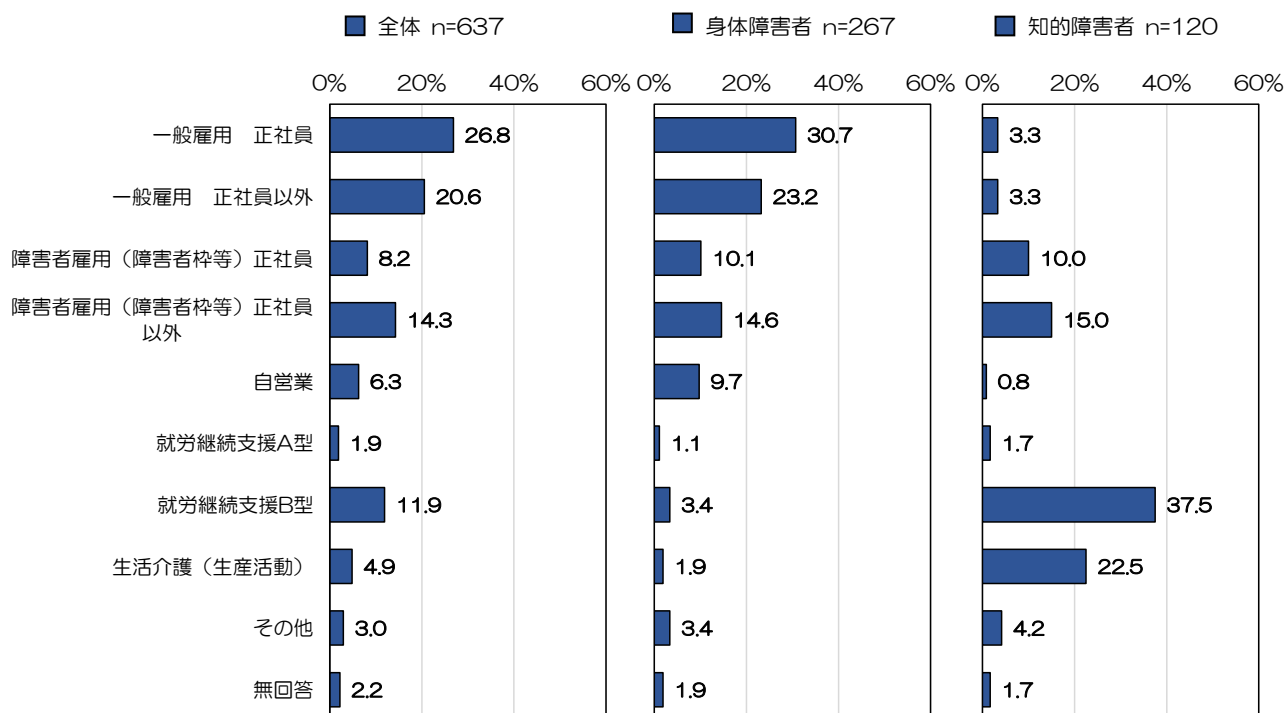


【問 14 で「2 働いている」と回答した方にお伺いします。】

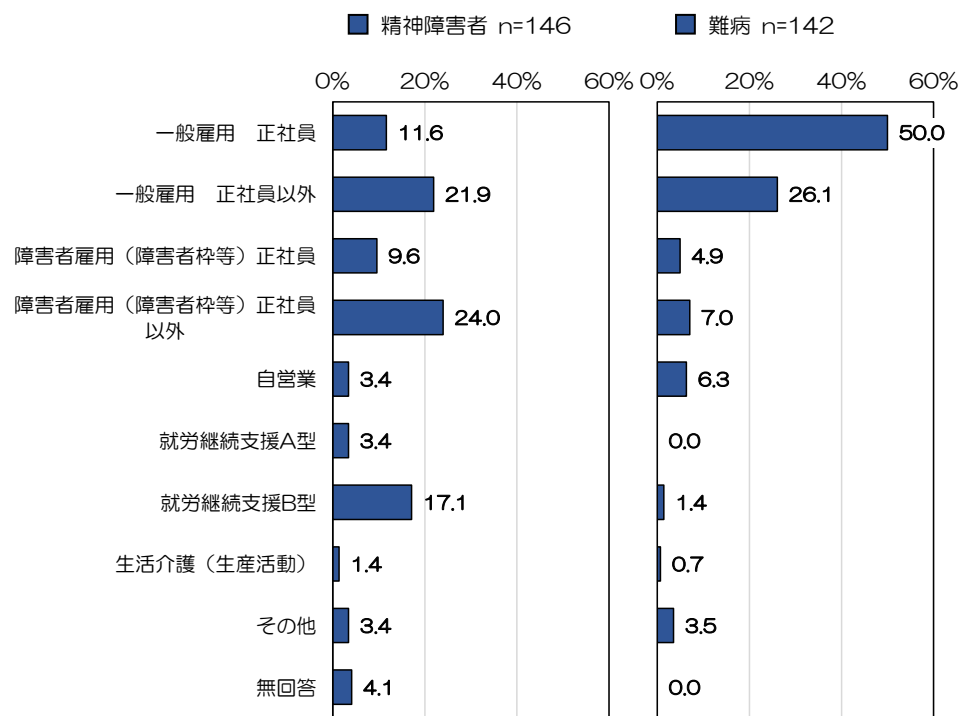
問 14-1 仕事の形態は次のどれですか。(〇は1つ)

仕事の形態については、全体では「一般雇用 正社員」が26.8%で最も高く、次いで「一般雇用 正社員以外」が20.6%、「障害者雇用（障害者枠等）正社員以外」が14.3%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「一般雇用 正社員」が30.7%で最も高く、次いで「一般雇用 正社員以外」が23.2%となっています。知的障害者では「就労継続支援B型」が37.5%で最も高く、次いで「生活介護」が22.5%となっています。精神障害者では「障害者雇用（障害者枠等）正社員以外」が24.0%で最も高く、次いで「一般雇用 正社員以外」が21.9%となっています。難病では「一般雇用 正社員」が50.0%で最も高く、次いで「一般雇用 正社員以外」が26.1%となっています。



## II 障害者調査

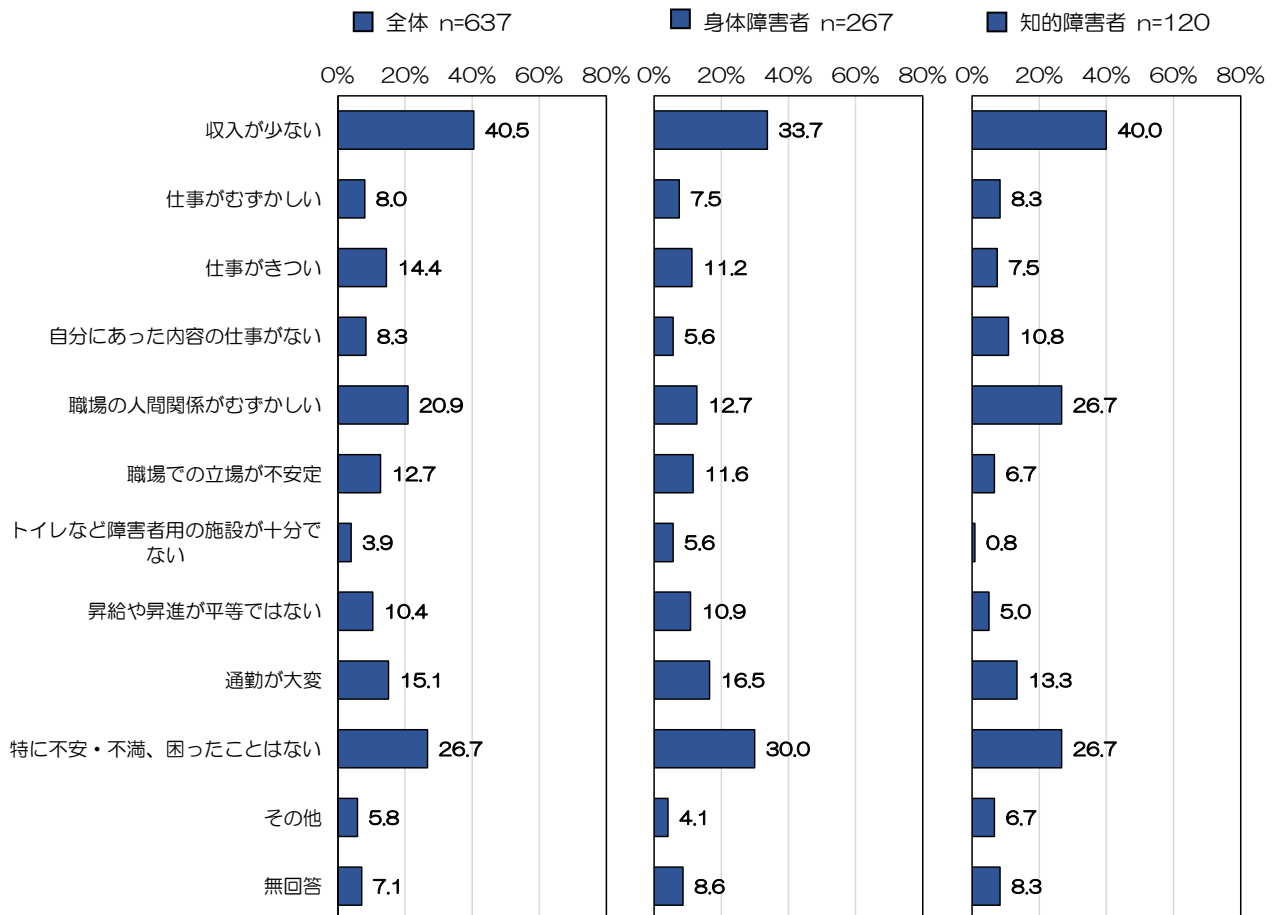


【問 14 で「2 働いている」と回答した方にお伺いします。】

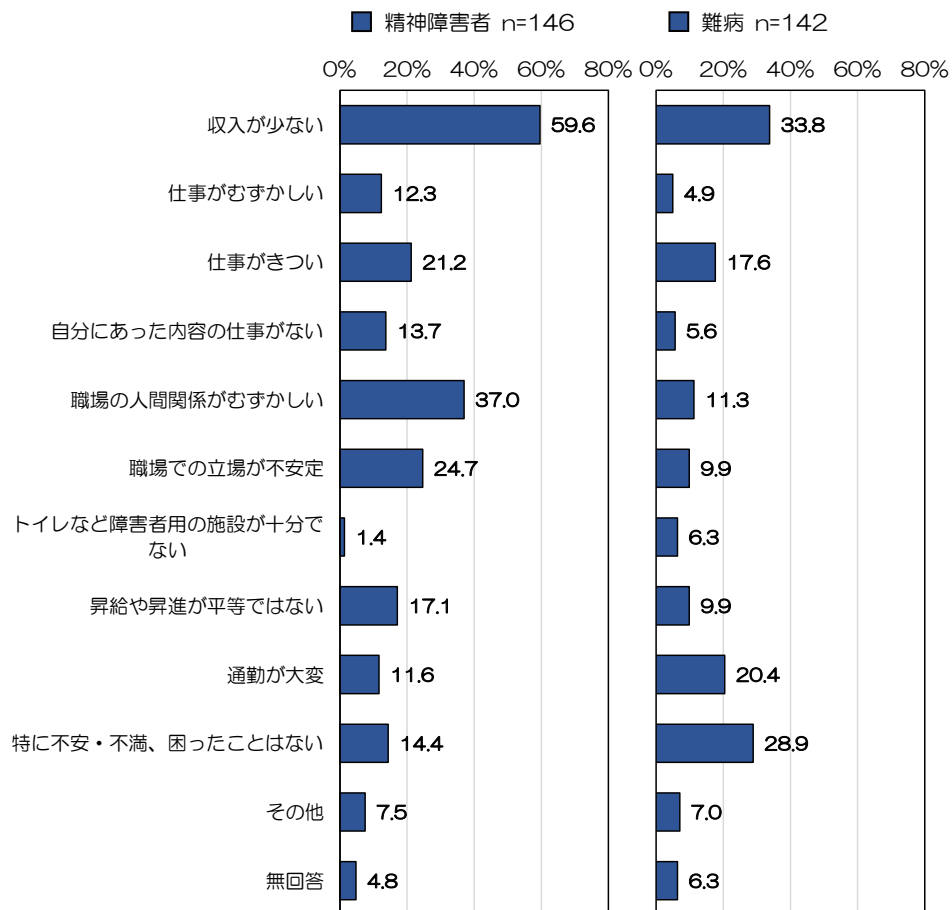
問 14-2 仕事をするうえで不安・不満に思ったことがありますか。(〇はいくつでも)

仕事をするうえでの不安・不満については、全体では「収入が少ない」が40.5%で最も高く、次いで「特に不安・不満、困ったことはない」が26.7%、「職場の人間関係がむずかしい」が20.9%となっています。

障害種別でみると、すべての種別において「収入が少ない」が最も高い割合を占めています。また、知的障害者と精神障害者では「職場の人間関係がむずかしい」が他の種別と比べて高くなっています。



## II 障害者調査

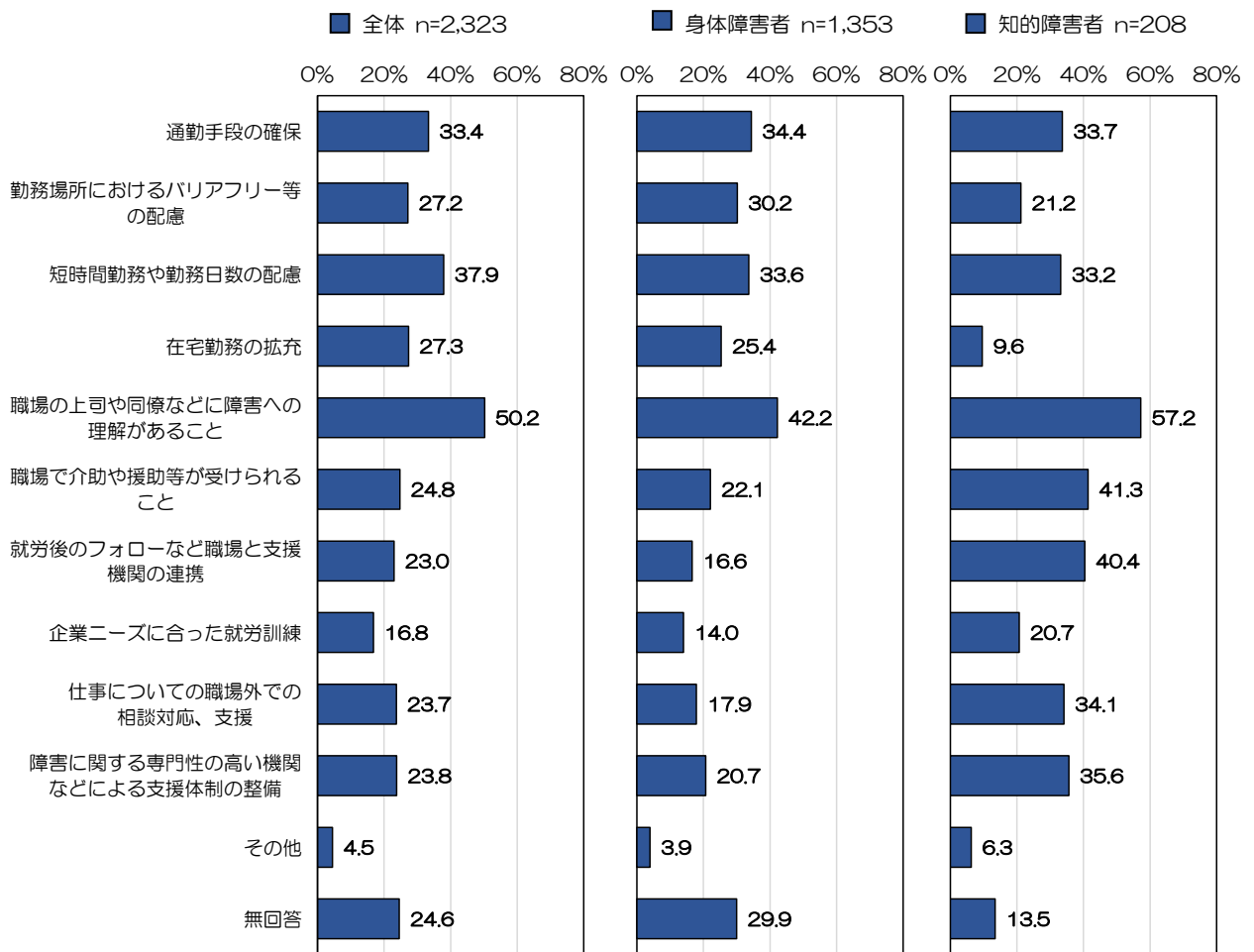




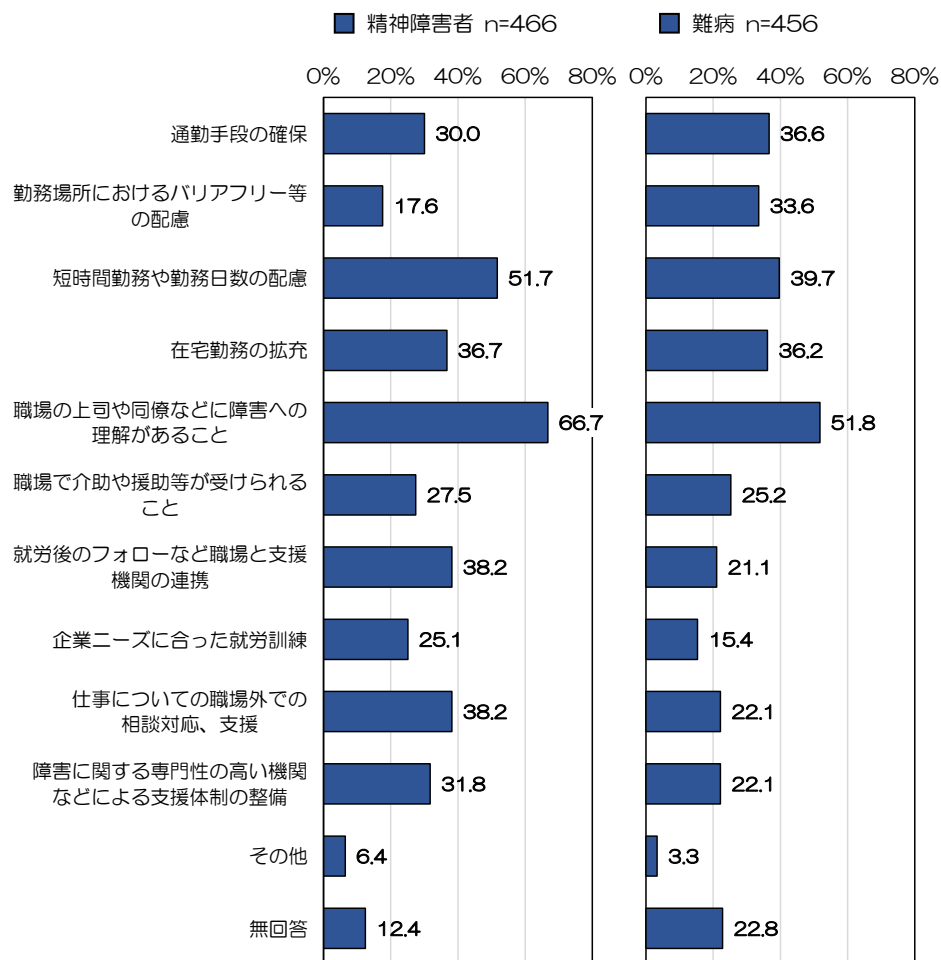
**問 15 あなたは、障害のある人が仕事をするために、どのような支援が必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)**

障害のある人の就労支援として必要なことについては、全体では「職場の上司や同僚などに障害への理解があること」が50.2%で最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数の配慮」が37.9%、「通勤手段の確保」が33.4%となっています。

障害種別でみると、すべての種別において「職場の上司や同僚などに障害への理解があること」が最も高い割合を占めています。知的障害者においては「職場で介助や援助等が受けられること」「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、精神障害者においては「短時間勤務や勤務日数の配慮」の割合が他の種別と比べて高くなっています。



## II 障害者調査

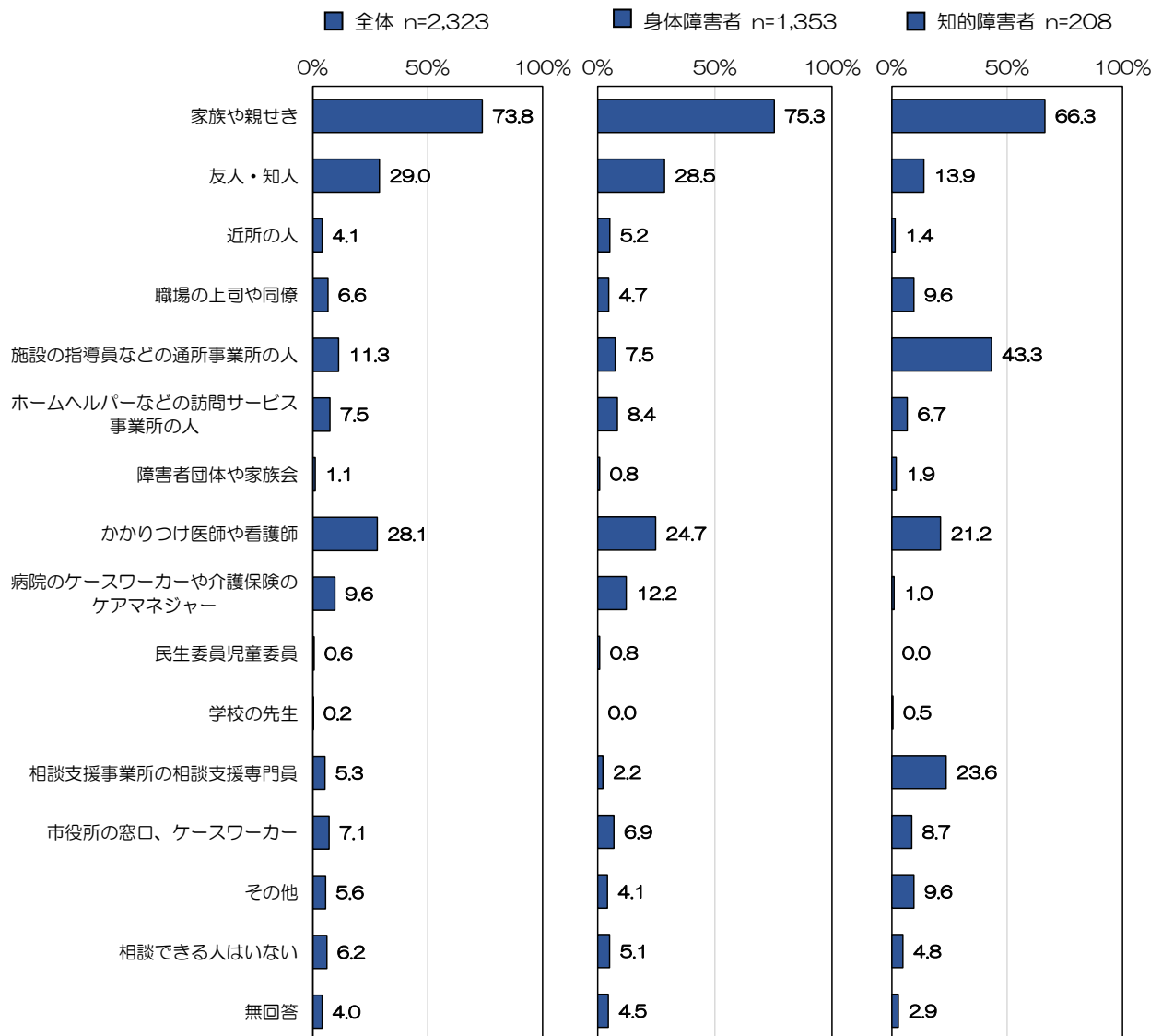


## 5 生活全般・社会参加について

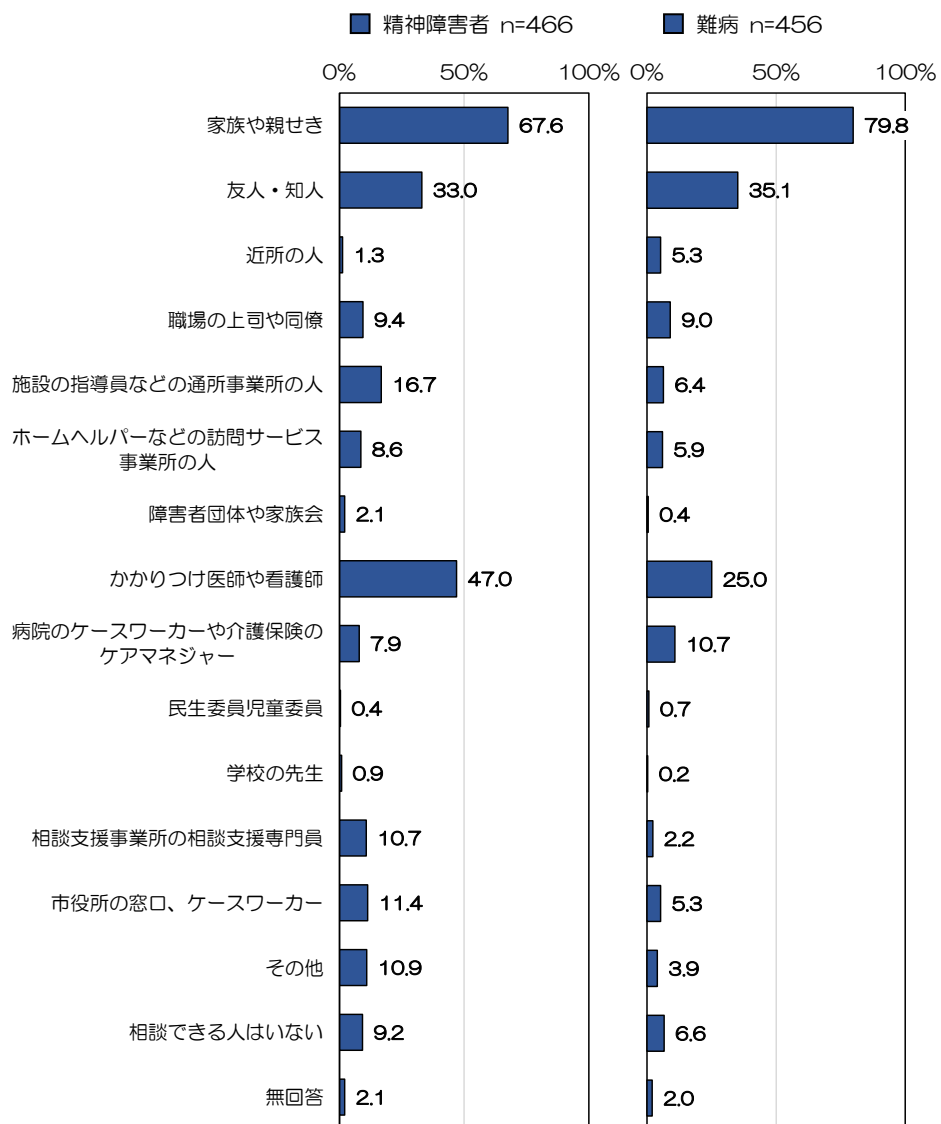
問 16 あなたは、普段、悩みごとや困ったことがあるとき、どなたに相談していますか。  
(〇はいくつでも)

普段の悩みごとや困りごとの相談先については、全体では「家族や親せき」が73.8%で最も高く、次いで「友人・知人」が29.0%、「かかりつけ医師や看護師」が28.1%となっています。

障害種別でみると、すべての種別で「家族や親せき」が最も高い割合を占めています。知的障害者においては、「施設の指導員などの通所事業所の人」の割合が他の種別と比べて高くなっています。



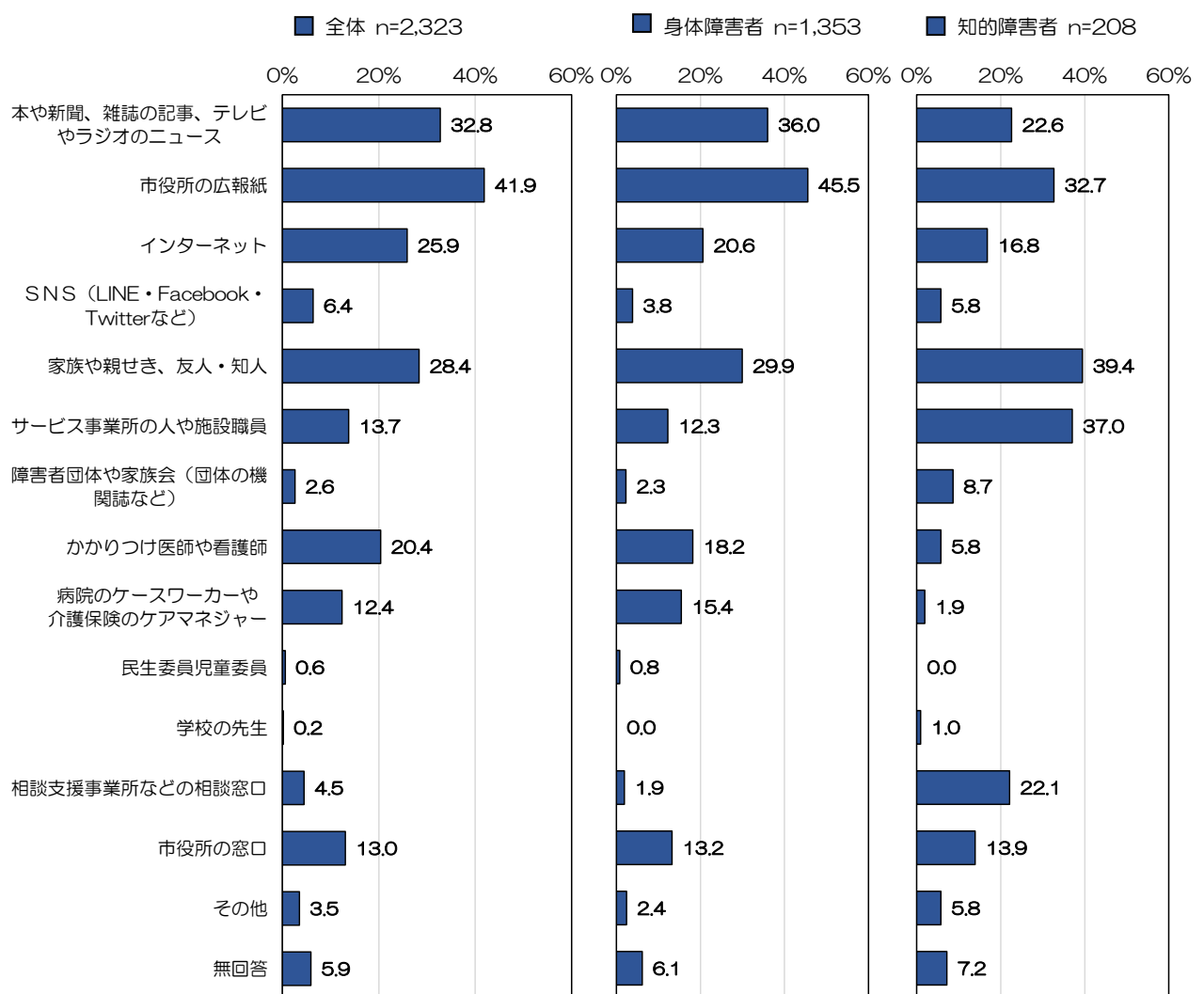
## II 障害者調査



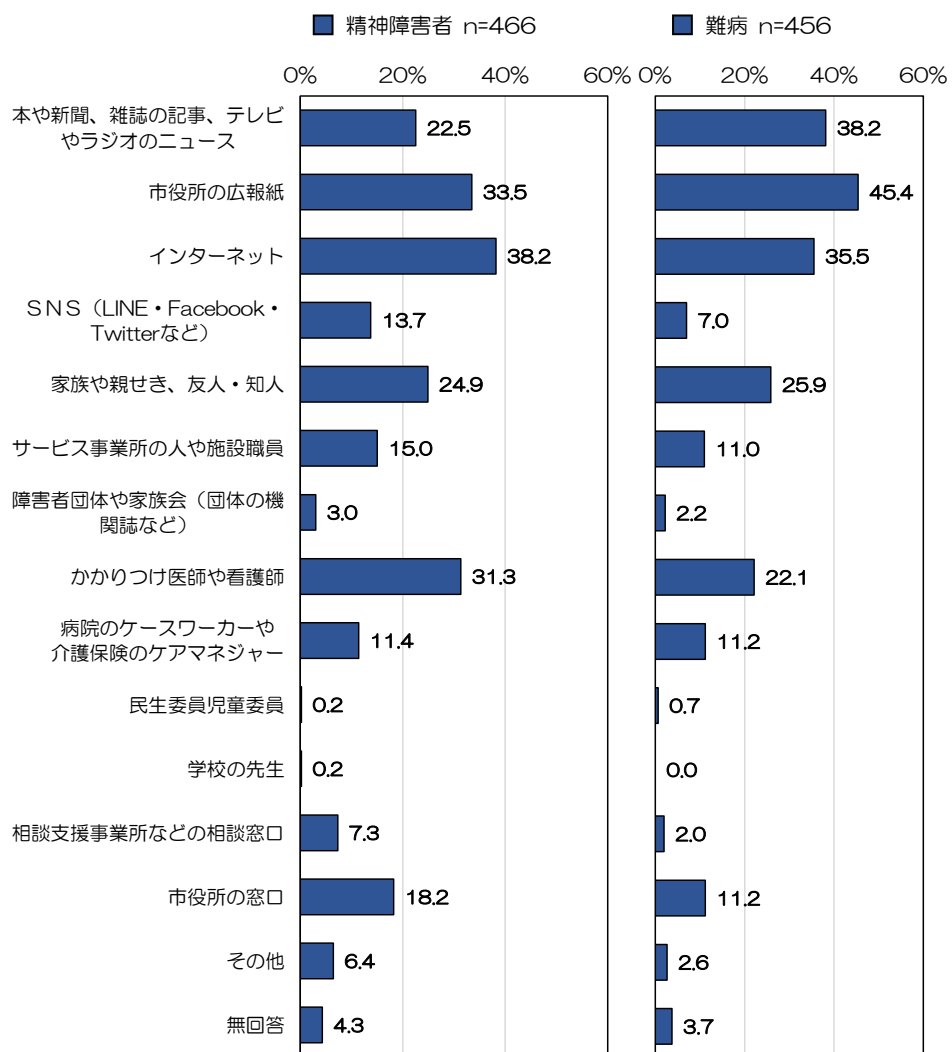
**問 17 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報をどこから知ることが多いですか。  
(〇はいくつでも)**

障害のことや福祉サービスの情報の入手先については、全体では「市役所の広報紙」が41.9%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が32.8%、「家族や親せき、友人・知人」が28.4%となっています。

障害種別で見ると、身体障害者では「市役所の広報紙」が45.5%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が36.0%となっています。知的障害者では「家族や親せき、友人・知人」が39.4%で最も高く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」が37.0%となっています。精神障害者では「インターネット」が38.2%で最も高く、次いで「市役所の広報紙」が33.5%となっています。難病では「市役所の広報紙」が45.4%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が38.2%となっています。



## II 障害者調査

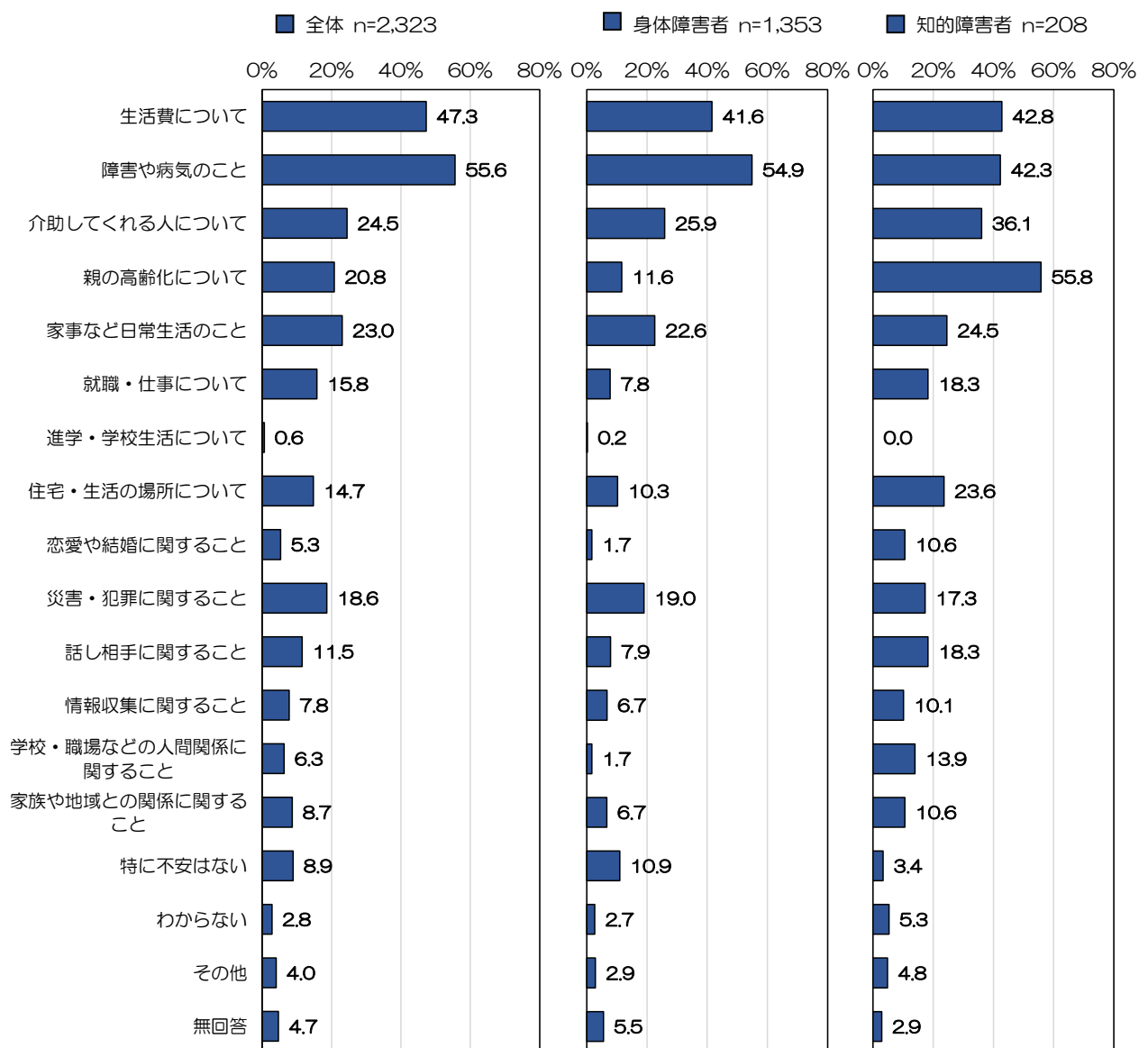


**問 18 あなたは、現在や今後の生活で不安に思っていることはありますか。(〇はいくつでも)**

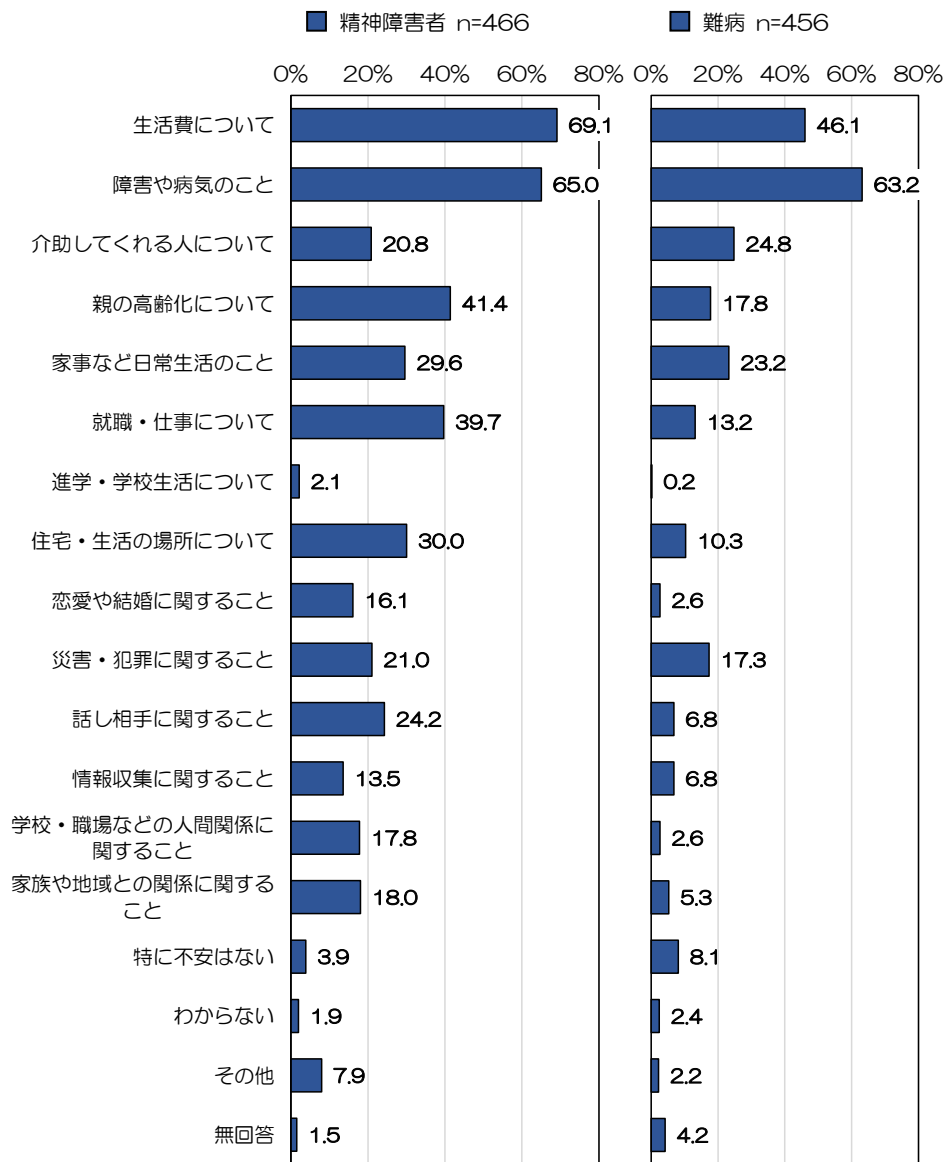
現在や今後の生活で不安に思っていることについては、全体では「障害や病気のこと」が55.6%で最も高く、次いで「生活費について」が47.3%、「介助してくれる人について」が24.5%、「家事など日常生活のこと」が23.0%、「親の高齢化について」が20.8%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「障害や病気のこと」が54.9%で最も高く、次いで「生活費について」が41.6%となっています。知的障害者では「親の高齢化について」が55.8%で最も高く、次いで「生活費について」が42.8%となっています。精神障害者では「生活費について」が69.1%で最も高く、次いで「障害や病気のこと」が65.0%となっています。難病では「障害や病気のこと」が63.2%で最も高く、次いで「生活費について」が46.1%となっています。

他の種別と比べると、知的障害者においては「親の高齢化について」、精神障害者においては「親の高齢化について」「就職・仕事について」の割合が高くなっています。



## II 障害者調査



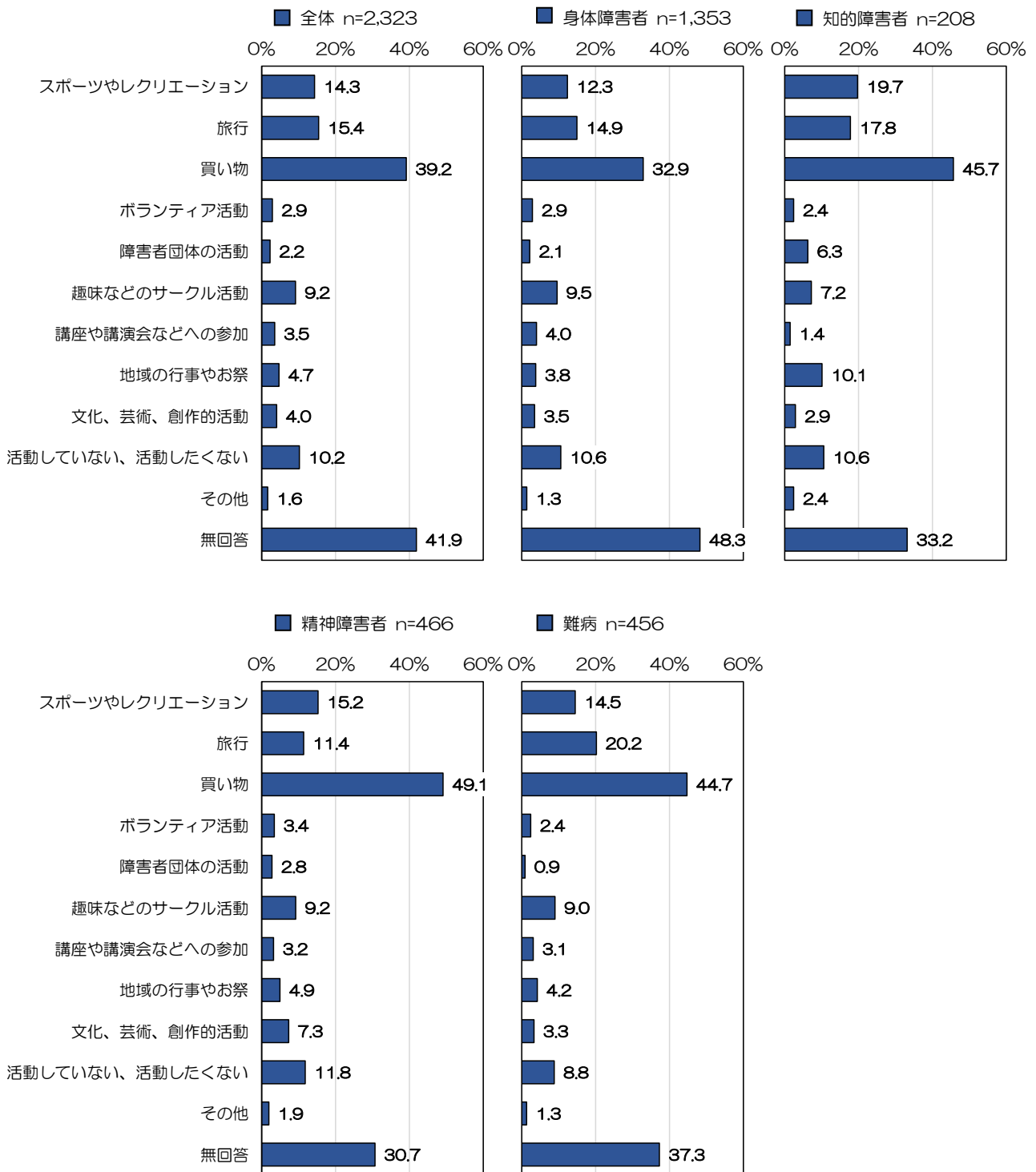


問 19 あなたの現在行っている活動、また、今後したい活動は何ですか。  
(それぞれ〇はいくつでも)

◆現在行っている活動について

現在行っている活動については、全体では「買い物」が 39.2%で最も高く、次いで「旅行」が 15.4%、「スポーツやレクリエーション」が 14.3%となっています。

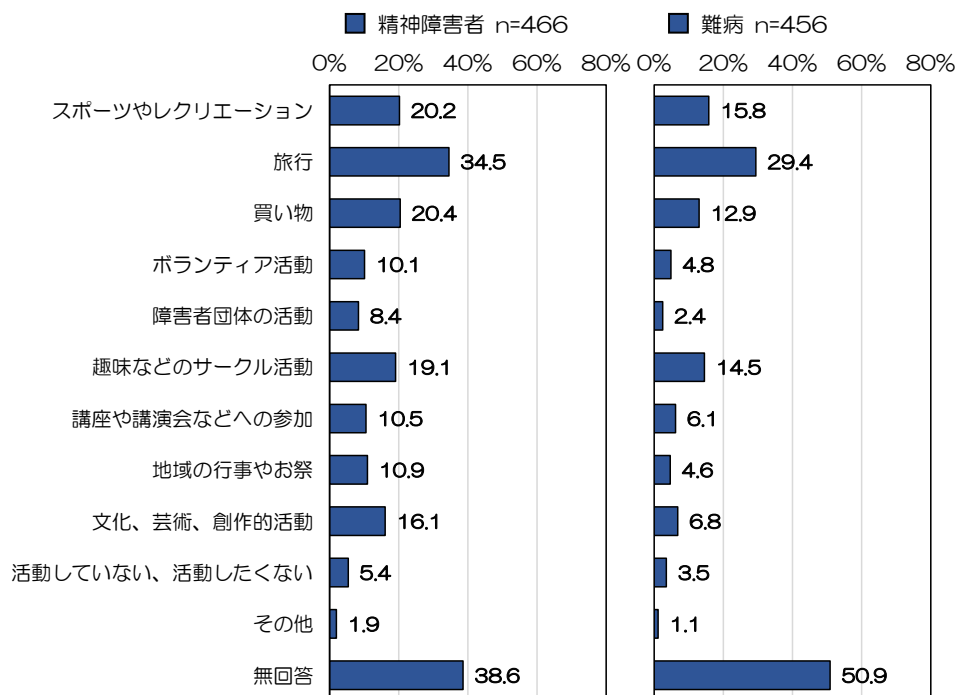
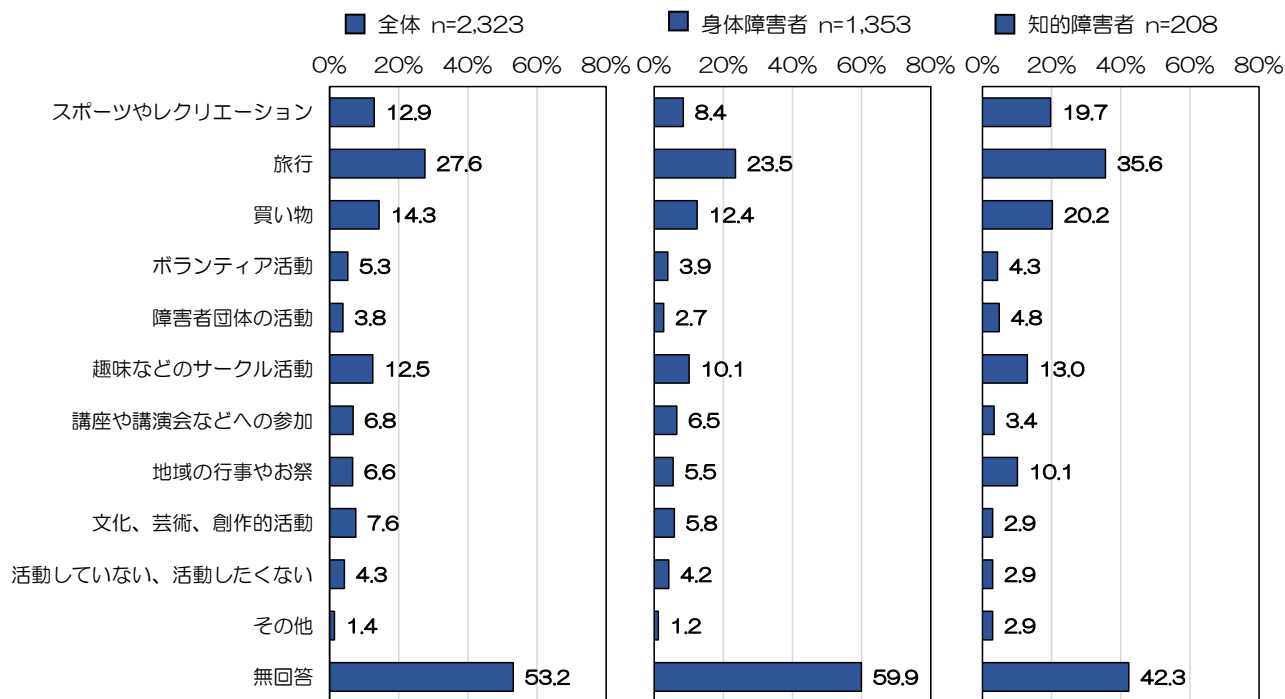
障害種別でみると、すべての種別で「スポーツやレクリエーション」「旅行」「買い物」の割合が高くなっています。



◆今後活動したいことについて

今後活動したいことについては、全体では「旅行」が 27.6%で最も高く、次いで「買い物」が 14.3%、「スポーツやレクリエーション」が 12.9%となっています。

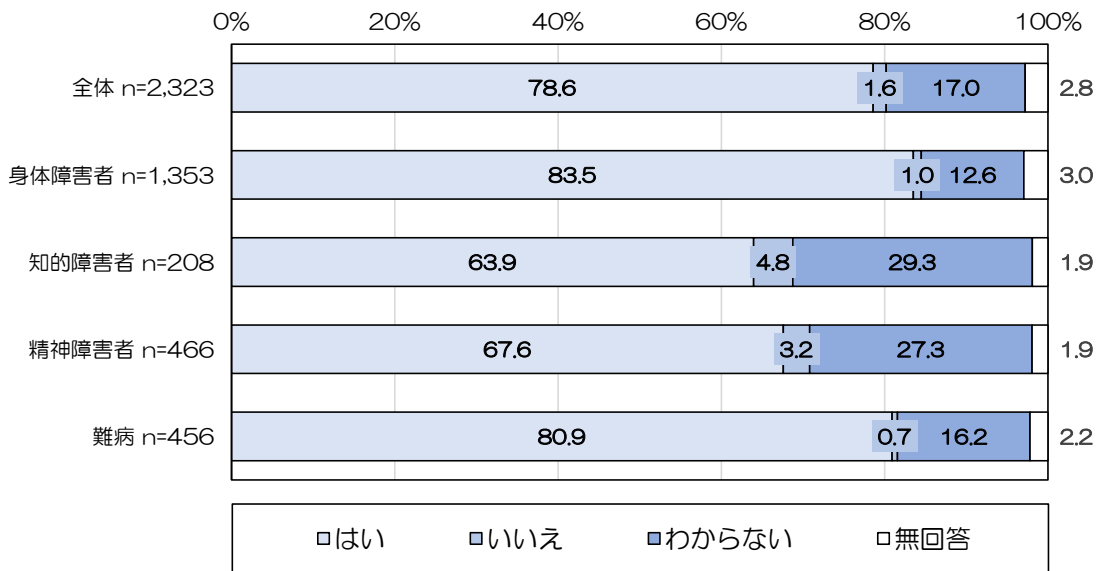
障害種別でみると、すべての種別で「旅行」が最も高い割合を占めています。知的障害者においては「地域の行事やお祭」、精神障害者においては「趣味などのサークル活動」「地域の行事やお祭」「文化、芸術、創作的活動」の割合が他の種別と比べて高くなっています。



**問 20 あなたは、今後も朝霞市に暮らし続けたいですか。(〇は1つ)**

今後も朝霞市に暮らし続けたいかについては、全体では「はい」が78.6%で最も高く、次いで「わからない」が17.0%、「いいえ」が1.6%となっています。

障害種別で「はい」の割合をみると、身体障害者では83.5%、知的障害者では63.9%、精神障害者では67.6%、難病では80.9%と、知的障害者が他の種別と比べて低くなっています。また、「いいえ」の割合も知的障害者において、他の種別と比べて高くなっています。



## 6 障害福祉サービス等の利用について

問 21 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いませんか。  
(項目ごとに1~4のうち、1つに○を付けてください)

### ◆全体 n=2,323

障害福祉サービスについては、利用状況、利用意向ともに「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も高くなっています。「居宅介護（ホームヘルプ）」の利用状況に対する利用意向の割合は、9.9ポイント高く、他のサービスと比べてもその差は大きくなっています。また、「短期入所（ショートステイ）」は利用状況では上位5項目に入っていませんが、利用意向としては4番目に高くなっています。

地域生活支援事業については、利用状況で2番目に高い「相談支援事業（一般的な相談）」が、利用意向では最も高くなっています。差をみると、利用意向が10.0ポイント高くなっており、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。

### 障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	7.9	1	日常生活用具給付事業	3.9
2	計画相談支援	7.3	2	相談支援事業(一般的な相談)	3.7
3	生活介護	6.6	2	移動支援事業	3.7
4	施設入所支援	5.2	4	地域活動支援センター事業	1.8
5	自立訓練(機能訓練)	4.8	5	日中一時支援事業	1.4

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

### 障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	17.8	1	相談支援事業(一般的な相談)	13.7
2	生活介護	15.2	2	移動支援事業	11.9
3	計画相談支援	13.6	3	日常生活用具給付事業	10.4
4	短期入所(ショートステイ)	13.5	4	日中一時支援事業	8.1
5	施設入所支援	11.9	5	地域活動支援センター事業	7.2
5	自立訓練(機能訓練)	11.9			

◆全体 現在の利用状況及び今後の利用意向

単位：%

n=2,323	現在利用しており、今後も利用したい	現在利用していないが、3年以内には利用したい	現在利用しているが、今後は利用しない	現在利用しておらず、今後も利用しない	無回答
<b>障害福祉サービス</b>					
①居宅介護(ホームヘルプ)	7.6	10.2	0.3	<b>52.7</b>	29.1
②重度訪問介護	1.3	5.6	0.2	<b>57.9</b>	35.0
③重度障害者等包括支援	1.5	6.3	0.2	<b>56.8</b>	35.2
④短期入所(ショートステイ)	4.0	9.5	0.2	<b>54.0</b>	32.2
⑤自立生活援助	3.4	8.0	0.1	<b>54.5</b>	33.9
⑥同行援護	1.7	7.0	0.3	<b>56.0</b>	35.0
⑦行動援護	1.4	8.0	0.2	<b>55.1</b>	35.4
⑧生活介護	6.5	8.7	0.1	<b>52.3</b>	32.3
⑨療養介護	1.9	6.8	0.2	<b>55.5</b>	35.6
⑩共同生活援助(グループホーム)	2.9	4.9	0.3	<b>56.7</b>	35.1
⑪施設入所支援	4.9	7.0	0.3	<b>55.2</b>	32.6
⑫自立訓練(機能訓練)	4.6	7.3	0.2	<b>53.6</b>	34.3
⑬自立訓練(生活訓練)	2.6	7.1	0.3	<b>54.8</b>	35.2
⑭宿泊型自立訓練	0.6	4.3	0.1	<b>58.7</b>	36.3
⑮就労移行支援	1.5	5.3	0.2	<b>56.5</b>	36.5
⑯就労継続支援(A型)	0.6	4.0	0.2	<b>58.0</b>	37.2
⑰就労継続支援(B型)	3.7	3.9	0.3	<b>56.3</b>	35.9
⑱就労定着支援	1.5	5.3	0.3	<b>55.7</b>	37.1
⑲計画相談支援	7.0	6.6	0.3	<b>50.7</b>	35.5
⑳地域移行支援・地域定着支援	0.9	4.4	0.1	<b>57.3</b>	37.2
<b>地域生活支援事業</b>					
㉑障害者理解促進研修・啓発事業	0.3	5.0	0.3	<b>57.0</b>	37.3
㉒相談支援事業(一般的な相談)	3.3	10.4	0.4	<b>50.1</b>	35.8
㉓成年後見制度利用支援事業	0.8	5.4	0.3	<b>57.1</b>	36.4
㉔手話通訳者等派遣事業	0.6	1.2	0.1	<b>61.1</b>	37.0
㉕要約筆記者派遣事業	0.4	1.9	0.1	<b>60.7</b>	36.9
㉖日常生活用具給付事業	3.7	6.7	0.2	<b>54.1</b>	35.3
㉗移動支援事業	3.5	8.4	0.2	<b>52.5</b>	35.4
㉘地域活動支援センター事業	1.8	5.4	0.0	<b>56.2</b>	36.6
㉙日中一時支援事業	1.3	6.8	0.1	<b>55.7</b>	36.1

◆**身体障害者 n=1,353**

障害福祉サービスについては、利用状況、利用意向ともに「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も高くなっています。「居宅介護（ホームヘルプ）」の利用状況に対する利用意向の割合は、12.5ポイント高く、他のサービスと比べてもその差は大きくなっています。また、「生活介護」「短期入所（ショートステイ）」についても、利用状況に対する利用意向の割合が、10ポイント以上高くなっています。

地域生活支援事業については、利用状況、利用意向ともに「日常生活用具給付事業」「移動支援事業」「相談支援事業（一般的な相談）」の順で高くなっています。また、「日中一時支援事業」は利用状況では上位5項目に入っていないが、利用意向としては4番目に高くなっています。

**障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況**

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用しているが、今後は利用しない」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	8.7	1	日常生活用具給付事業	5.6
2	自立訓練（機能訓練）	6.2	2	移動支援事業	3.5
3	生活介護	4.8	3	相談支援事業（一般的な相談）	2.4
4	施設入所支援	4.2	4	地域活動支援センター事業	1.6
5	短期入所（ショートステイ）	3.9	5	手話通訳者等派遣事業	1.0

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

**障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向**

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	21.2	1	日常生活用具給付事業	13.8
2	生活介護	15.4	2	移動支援事業	12.7
3	短期入所（ショートステイ）	14.3	3	相談支援事業（一般的な相談）	12.3
3	自立訓練（機能訓練）	14.3	4	日中一時支援事業	7.6
5	施設入所支援	12.2	5	地域活動支援センター事業	6.3

◆身体障害者 現在の利用状況及び今後の利用意向

単位：%

n=1,353	現在利用しており、今後も利用したい	現在利用していないが、3年以内には利用したい	現在利用しているが、今後は利用しない	現在利用しておらず、今後も利用しない	無回答
<b>障害福祉サービス</b>					
①居宅介護(ホームヘルプ)	8.6	12.6	0.1	<b>47.1</b>	31.6
②重度訪問介護	1.6	7.1	0.1	<b>52.3</b>	39.0
③重度障害者等包括支援	1.7	7.6	0.1	<b>51.4</b>	39.2
④短期入所(ショートステイ)	3.8	10.5	0.1	<b>49.4</b>	36.1
⑤自立生活援助	2.8	7.8	0.0	<b>51.9</b>	37.5
⑥同行援護	1.9	7.5	0.1	<b>51.3</b>	39.2
⑦行動援護	1.2	7.9	0.0	<b>51.2</b>	39.7
⑧生活介護	4.8	10.6	0.0	<b>48.0</b>	36.5
⑨療養介護	2.3	8.2	0.1	<b>50.1</b>	39.3
⑩共同生活援助(グループホーム)	1.5	4.0	0.2	<b>54.0</b>	40.3
⑪施設入所支援	4.1	8.1	0.1	<b>50.8</b>	36.9
⑫自立訓練(機能訓練)	6.1	8.2	0.1	<b>48.0</b>	37.6
⑬自立訓練(生活訓練)	2.7	6.2	0.1	<b>51.7</b>	39.3
⑭宿泊型自立訓練	0.4	3.5	0.1	<b>55.1</b>	40.9
⑮就労移行支援	0.3	2.6	0.0	<b>55.9</b>	41.2
⑯就労継続支援(A型)	0.1	2.1	0.1	<b>55.8</b>	41.9
⑰就労継続支援(B型)	1.0	2.1	0.0	<b>55.4</b>	41.5
⑱就労定着支援	0.1	2.7	0.1	<b>55.4</b>	41.7
⑲計画相談支援	3.0	5.8	0.1	<b>50.8</b>	40.3
⑳地域移行支援・地域定着支援	0.6	3.8	0.1	<b>54.0</b>	41.5
<b>地域生活支援事業</b>					
㉑障害者理解促進研修・啓発事業	0.3	4.5	0.3	<b>53.4</b>	41.5
㉒相談支援事業(一般的な相談)	2.1	10.2	0.3	<b>47.7</b>	39.6
㉓成年後見制度利用支援事業	0.3	3.7	0.3	<b>54.5</b>	41.2
㉔手話通訳者等派遣事業	0.9	1.1	0.1	<b>56.5</b>	41.4
㉕要約筆記者派遣事業	0.6	2.2	0.0	<b>56.0</b>	41.2
㉖日常生活用具給付事業	5.5	8.3	0.1	<b>47.2</b>	38.9
㉗移動支援事業	3.3	9.4	0.2	<b>47.7</b>	39.4
㉘地域活動支援センター事業	1.6	4.7	0.0	<b>53.0</b>	40.7
㉙日中一時支援事業	0.9	6.7	0.0	<b>52.0</b>	40.5

◆知的障害者 n=208

障害福祉サービスについては、利用状況、利用意向ともに「計画相談支援」「生活介護」の順で高くなっています。また、「短期入所（ショートステイ）」は利用状況では上位5項目に入っていませんが、利用意向としては5番目に高くなっており、利用状況に対する利用意向の割合は、21.1ポイント高く、他のサービスと比べてもその差は大きくなっています。なお、利用状況に対する利用意向の割合では、「共同生活援助（グループホーム）」も18.7ポイントと差が大きくなっています。

地域生活支援事業については、利用状況と利用意向とで上位5項目が同様の内容となっています。その中でも、「成年後見制度利用支援事業」は利用状況に対する利用意向の割合が、16.3ポイント高くなっており、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。

障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用しているが、今後は利用しない」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	39.9	1	移動支援事業	15.9
2	生活介護	30.3	2	相談支援事業（一般的な相談）	14.4
3	就労継続支援（B型）	22.2	3	日中一時支援事業	6.3
4	施設入所支援	18.8	4	成年後見制度利用支援事業	3.8
5	共同生活援助（グループホーム）	14.4	5	地域活動支援センター事業	3.4

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	49.0	1	移動支援事業	31.7
2	生活介護	39.0	2	相談支援事業（一般的な相談）	27.4
3	共同生活援助（グループホーム）	33.1	3	日中一時支援事業	21.7
4	施設入所支援	32.7	4	成年後見制度利用支援事業	20.1
5	短期入所（ショートステイ）	31.2	5	地域活動支援センター事業	14.5



## ◆知的障害者 現在の利用状況及び今後の利用意向

単位：%

n=208	現在利用し ており、今後 も利用した い	現在利用し ていない が、3年以内 には利用し たい	現在利用し ているが、 今後は利用 しない	現在利用し ておらず、今 後も利用し ない	無回答
	<b>障害福祉サービス</b>				
①居宅介護(ホームヘルプ)	5.3	10.1	0.5	<b>52.4</b>	31.7
②重度訪問介護	1.0	6.3	0.0	<b>58.2</b>	34.6
③重度障害者等包括支援	1.0	7.2	0.0	<b>57.2</b>	34.6
④短期入所(ショートステイ)	9.6	21.6	0.5	<b>41.3</b>	26.9
⑤自立生活援助	3.4	12.0	0.5	<b>51.4</b>	32.7
⑥同行援護	2.9	9.6	0.5	<b>53.8</b>	33.2
⑦行動援護	4.3	19.2	0.5	<b>44.2</b>	31.7
⑧生活介護	30.3	8.7	0.0	<b>35.6</b>	25.5
⑨療養介護	1.0	4.8	0.0	<b>58.7</b>	35.6
⑩共同生活援助(グループホーム)	13.9	19.2	0.5	<b>40.9</b>	25.5
⑪施設入所支援	18.8	13.9	0.0	<b>44.2</b>	23.1
⑫自立訓練(機能訓練)	2.9	5.3	0.0	<b>57.2</b>	34.6
⑬自立訓練(生活訓練)	4.3	13.0	0.0	<b>50.5</b>	32.2
⑭宿泊型自立訓練	0.5	10.1	0.0	<b>55.8</b>	33.7
⑮就労移行支援	2.9	7.7	0.0	<b>55.8</b>	33.7
⑯就労継続支援(A型)	1.0	3.8	0.0	<b>59.1</b>	36.1
⑰就労継続支援(B型)	21.2	5.3	1.0	<b>44.2</b>	28.4
⑱就労定着支援	4.8	7.7	1.0	<b>50.5</b>	36.1
⑲計画相談支援	<b>39.4</b>	9.6	0.5	24.0	26.4
⑳地域移行支援・地域定着支援	1.9	8.7	0.0	<b>54.8</b>	34.6
<b>地域生活支援事業</b>					
㉑障害者理解促進研修・啓発事業	0.5	5.3	0.0	<b>55.8</b>	38.5
㉒相談支援事業(一般的な相談)	13.9	13.5	0.5	<b>38.0</b>	34.1
㉓成年後見制度利用支援事業	3.8	16.3	0.0	<b>46.6</b>	33.2
㉔手話通訳者等派遣事業	0.0	1.4	0.0	<b>64.4</b>	34.1
㉕要約筆記者派遣事業	0.0	1.4	0.0	<b>64.4</b>	34.1
㉖日常生活用具給付事業	1.4	4.3	0.0	<b>59.6</b>	34.6
㉗移動支援事業	15.4	16.3	0.5	<b>38.0</b>	29.8
㉘地域活動支援センター事業	3.4	11.1	0.0	<b>51.9</b>	33.7
㉙日中一時支援事業	6.3	15.4	0.0	<b>47.6</b>	30.8

◆精神障害者 n=466

障害福祉サービスについては、利用状況、利用意向ともに「計画相談支援」が最も高くなっています。また、「就労定着支援」は利用状況では上位5項目に入っていませんが、利用意向としては3番目に高くなっています。利用状況に対する利用意向の割合の差をみると、「就労移行支援」や「就労定着支援」といった就労に関するサービスが大きくなっています。

地域生活支援事業については、利用状況、利用意向ともに「相談支援事業（一般的な相談）」が最も高くなっています。「相談支援事業（一般的な相談）」の利用状況に対する利用意向の割合は、13.9ポイント高く、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。また、「障害者理解促進研修・啓発事業」は利用状況では上位5項目に入っていませんが、利用意向としては4番目に高くなっています。

障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用しているが、今後は利用しない」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	11.5	1	相談支援事業（一般的な相談）	6.5
2	居宅介護（ホームヘルプ）	8.1	2	地域活動支援センター事業	2.8
3	就労継続支援（B型）	8.0	3	移動支援事業	2.3
4	就労移行支援	6.5	4	成年後見制度利用支援事業	1.9
5	自立生活援助	6.4	5	日常生活用具給付事業	1.5

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	21.0	1	相談支援事業（一般的な相談）	20.4
2	就労移行支援	20.6	2	成年後見制度利用支援事業	11.2
3	就労定着支援	19.1	3	地域活動支援センター事業	9.3
4	就労継続支援（B型）	18.3	4	障害者理解促進研修・啓発事業	9.2
5	自立生活援助	17.1	5	移動支援事業	9.0

## ◆精神障害者 現在の利用状況及び今後の利用意向

単位：%

n=466	現在利用し ており、今後 も利用した い	現在利用し ていない が、3年以内 には利用し たい	現在利用し ているが、 今後は利用 しない	現在利用し ておらず、今 後も利用し ない	無回答
	<b>障害福祉サービス</b>				
①居宅介護(ホームヘルプ)	7.5	7.7	0.6	<b>60.7</b>	23.4
②重度訪問介護	1.5	3.6	0.2	<b>68.0</b>	26.6
③重度障害者等包括支援	1.7	5.4	0.2	<b>66.1</b>	26.6
④短期入所(ショートステイ)	2.1	6.7	0.4	<b>64.4</b>	26.4
⑤自立生活援助	6.4	10.7	0.0	<b>57.1</b>	25.8
⑥同行援護	1.5	7.7	0.4	<b>63.9</b>	26.4
⑦行動援護	1.5	8.4	0.2	<b>63.3</b>	26.6
⑧生活介護	4.3	7.1	0.2	<b>63.5</b>	24.9
⑨療養介護	0.9	5.2	0.4	<b>65.7</b>	27.9
⑩共同生活援助(グループホーム)	5.2	4.1	0.4	<b>63.5</b>	26.8
⑪施設入所支援	2.8	3.4	0.9	<b>66.5</b>	26.4
⑫自立訓練(機能訓練)	2.4	7.7	0.9	<b>62.7</b>	26.4
⑬自立訓練(生活訓練)	3.0	10.1	1.1	<b>58.8</b>	27.0
⑭宿泊型自立訓練	0.6	4.9	0.4	<b>66.1</b>	27.9
⑮就労移行支援	5.4	15.2	1.1	<b>51.3</b>	27.0
⑯就労継続支援(A型)	1.7	12.2	0.6	<b>57.5</b>	27.9
⑰就労継続支援(B型)	6.9	11.4	1.1	<b>55.8</b>	24.9
⑱就労定着支援	4.5	14.6	1.1	<b>51.7</b>	28.1
⑲計画相談支援	10.9	10.1	0.6	<b>50.4</b>	27.9
⑳地域移行支援・地域定着支援	1.9	6.2	0.2	<b>62.9</b>	28.8
<b>地域生活支援事業</b>					
㉑障害者理解促進研修・啓発事業	0.6	8.6	0.6	<b>61.6</b>	28.5
㉒相談支援事業(一般的な相談)	5.4	15.0	1.1	<b>51.3</b>	27.3
㉓成年後見制度利用支援事業	1.3	9.9	0.6	<b>61.4</b>	26.8
㉔手話通訳者等派遣事業	0.2	1.7	0.2	<b>69.1</b>	28.8
㉕要約筆記者派遣事業	0.2	1.9	0.2	<b>68.5</b>	29.2
㉖日常生活用具給付事業	1.1	5.2	0.4	<b>65.2</b>	28.1
㉗移動支援事業	2.1	6.9	0.2	<b>62.7</b>	28.1
㉘地域活動支援センター事業	2.6	6.7	0.2	<b>61.6</b>	29.0
㉙日中一時支援事業	0.6	6.2	0.2	<b>63.9</b>	29.0

◆難病 n=456

障害福祉サービスについては、利用状況、利用意向ともに「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も高くなっています。「居宅介護（ホームヘルプ）」の利用状況に対する利用意向の割合は、10.3ポイント高く、他のサービスと比べてもその差は大きくなっています。

地域生活支援事業については、利用状況で2番目に高い「移動支援事業」が、利用意向では最も高くなっています。差をみると、利用意向が8.1ポイント高くなっており、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。

障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用しているが、今後は利用しない」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	7.0	1	日常生活用具給付事業	3.7
2	自立訓練（機能訓練）	6.3	2	移動支援事業	3.3
3	短期入所（ショートステイ）	4.4	3	相談支援事業（一般的な相談）	2.9
4	生活介護	3.9	4	地域活動支援センター事業	1.5
5	自立生活援助	3.3	5	日中一時支援事業	1.1

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合）

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	17.3	1	移動支援事業	11.4
2	生活介護	13.1	2	相談支援事業（一般的な相談）	10.1
3	短期入所（ショートステイ）	12.8	2	日常生活用具給付事業	10.1
4	自立訓練（機能訓練）	12.0	4	日中一時支援事業	6.8
5	自立生活援助	10.1	5	地域活動支援センター事業	5.9

◆難病 現在の利用状況及び今後の利用意向

単位：%

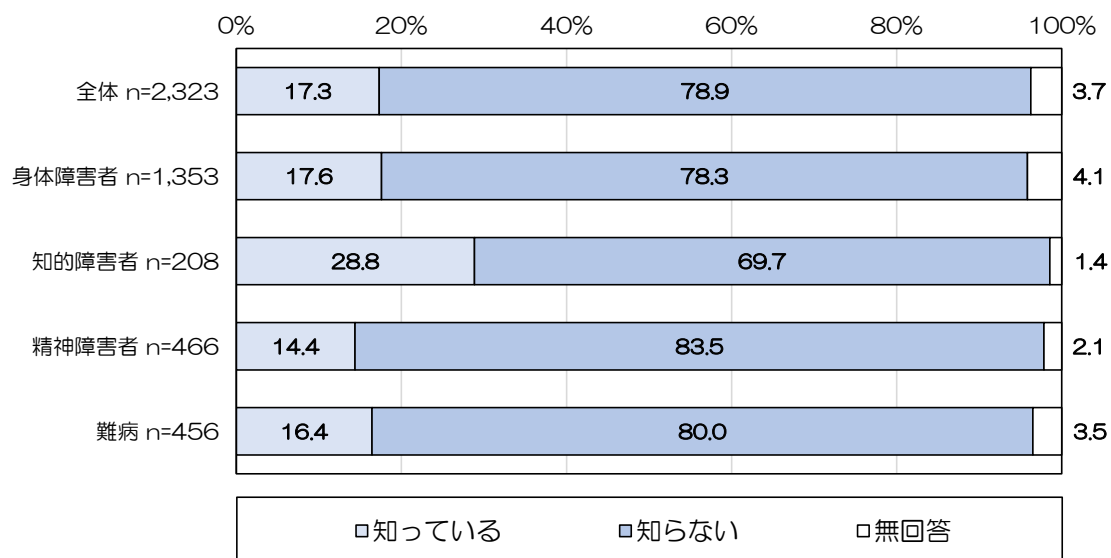
n=456	現在利用し ており、今後 も利用した い	現在利用し ていない が、3年以内 には利用し たい	現在利用し ているが、 今後は利用 しない	現在利用し ておらず、今 後も利用し ない	無回答
	<b>障害福祉サービス</b>				
①居宅介護(ホームヘルプ)	6.8	10.5	0.2	<b>57.7</b>	24.8
②重度訪問介護	1.5	7.5	0.2	<b>60.5</b>	30.3
③重度障害者等包括支援	0.4	7.9	0.4	<b>60.5</b>	30.7
④短期入所(ショートステイ)	4.2	8.6	0.2	<b>60.1</b>	27.0
⑤自立生活援助	3.1	7.0	0.2	<b>61.2</b>	28.5
⑥同行援護	1.3	6.6	0.4	<b>61.6</b>	30.0
⑦行動援護	0.4	6.8	0.4	<b>61.6</b>	30.7
⑧生活介護	3.7	9.4	0.2	<b>57.9</b>	28.7
⑨療養介護	1.3	7.5	0.7	<b>60.3</b>	30.3
⑩共同生活援助(グループホーム)	0.4	3.9	0.7	<b>64.0</b>	30.9
⑪施設入所支援	2.6	6.1	0.4	<b>61.0</b>	29.8
⑫自立訓練(機能訓練)	6.1	5.9	0.2	<b>58.1</b>	29.6
⑬自立訓練(生活訓練)	2.6	5.0	0.2	<b>61.6</b>	30.5
⑭宿泊型自立訓練	0.4	3.5	0.0	<b>64.7</b>	31.4
⑮就労移行支援	0.0	2.4	0.0	<b>65.6</b>	32.0
⑯就労継続支援(A型)	0.0	1.5	0.0	<b>66.4</b>	32.0
⑰就労継続支援(B型)	0.9	2.0	0.0	<b>65.4</b>	31.8
⑱就労定着支援	0.0	3.3	0.0	<b>64.0</b>	32.7
⑲計画相談支援	2.4	6.6	0.2	<b>59.2</b>	31.6
⑳地域移行支援・地域定着支援	1.1	2.9	0.0	<b>63.8</b>	32.2
<b>地域生活支援事業</b>					
㉑障害者理解促進研修・啓発事業	0.4	3.9	0.2	<b>63.4</b>	32.0
㉒相談支援事業(一般的な相談)	2.2	7.9	0.7	<b>58.8</b>	30.5
㉓成年後見制度利用支援事業	0.2	3.1	0.2	<b>64.7</b>	31.8
㉔手話通訳者等派遣事業	0.2	1.5	0.2	<b>66.2</b>	31.8
㉕要約筆記者派遣事業	0.2	2.2	0.0	<b>66.0</b>	31.6
㉖日常生活用具給付事業	3.3	6.8	0.4	<b>58.8</b>	30.7
㉗移動支援事業	3.1	8.3	0.2	<b>58.1</b>	30.3
㉘地域活動支援センター事業	1.5	4.4	0.0	<b>62.3</b>	31.8
㉙日中一時支援事業	0.7	6.1	0.4	<b>61.4</b>	31.4

## 7 権利擁護について

### 問 22 あなたは、「障害者虐待防止センター」をご存じですか。(〇は1つ)

障害者虐待防止センターの認知度については、全体では「知っている」が17.3%、「知らない」が78.9%と、「知らない」が61.6ポイント上回っています。なお、「知っている」は前回（令和2年度）調査時の16.5%から0.8ポイント増加しています。

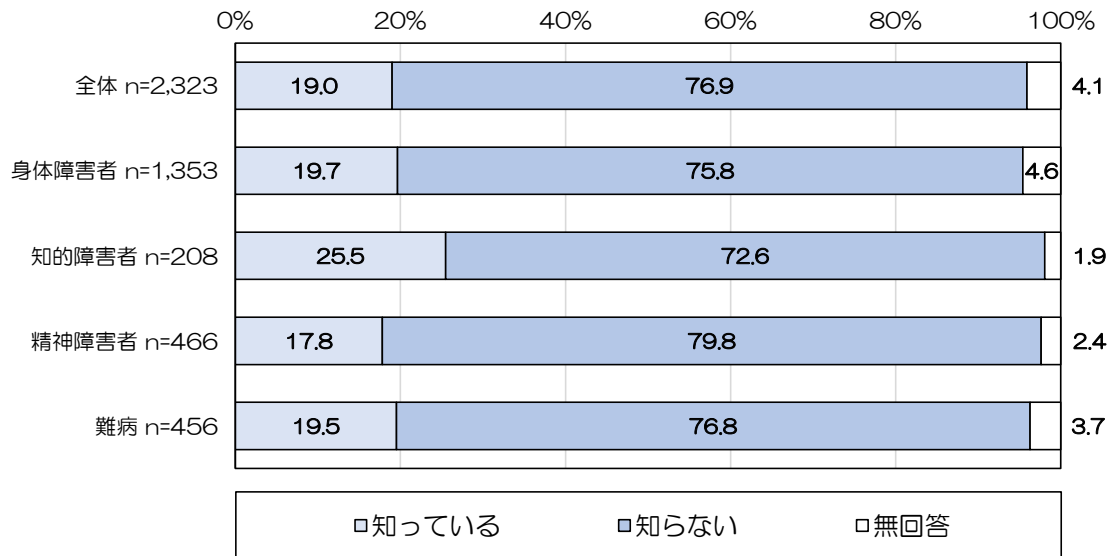
障害種別で「知らない」の割合をみると、身体障害者では78.3%、知的障害者では69.7%、精神障害者では83.5%、難病では80.0%と、精神障害者が他の種別と比べて高くなっています。



**問 23 あなたは、「障害者差別解消法」をご存じですか。(〇は1つ)**

障害者差別解消法の認知度については、全体では「知っている」が19.0%、「知らない」が76.9%と、「知らない」が57.9ポイント上回っています。なお、「知っている」は前回(令和2年度)調査時の17.0%から2.0ポイント増加しています。

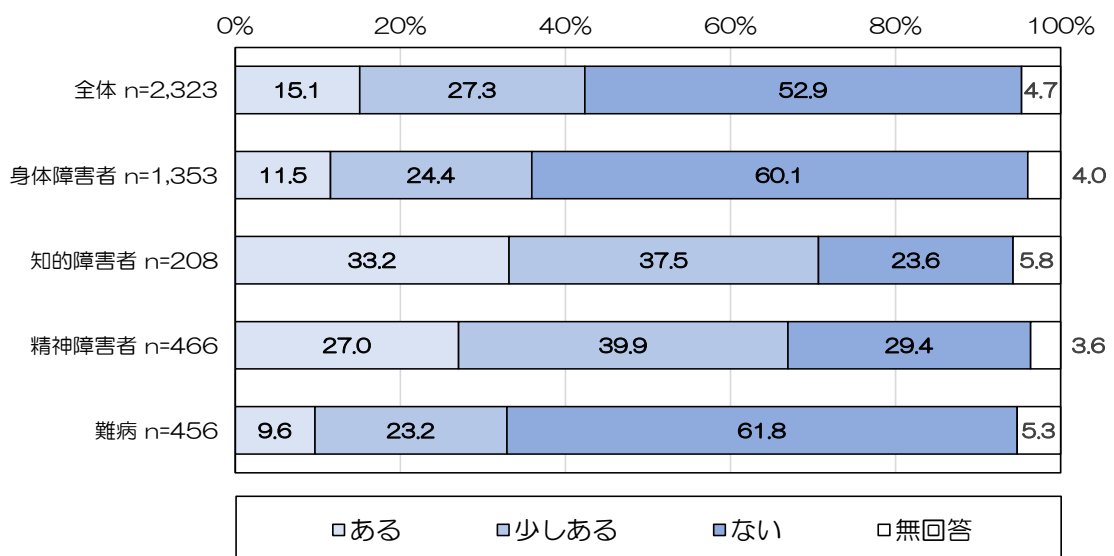
障害種別で「知らない」の割合をみると、身体障害者では75.8%、知的障害者では72.6%、精神障害者では79.8%、難病では76.8%と、精神障害者が他の種別と比べて高くなっています。



**問 24 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(〇は1つ)**

障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがあるかについては、全体では「ない」が52.9%で最も高く、次いで「少しある」が27.3%、「ある」が15.1%となっています。なお、「ある」と「少しある」を合わせた割合は前回(令和2年度)調査時の44.4%から2.0ポイント減少しています。

障害種別でみると、知的障害者と精神障害者で「ある」の割合が他の種別と比べて高くなっています。

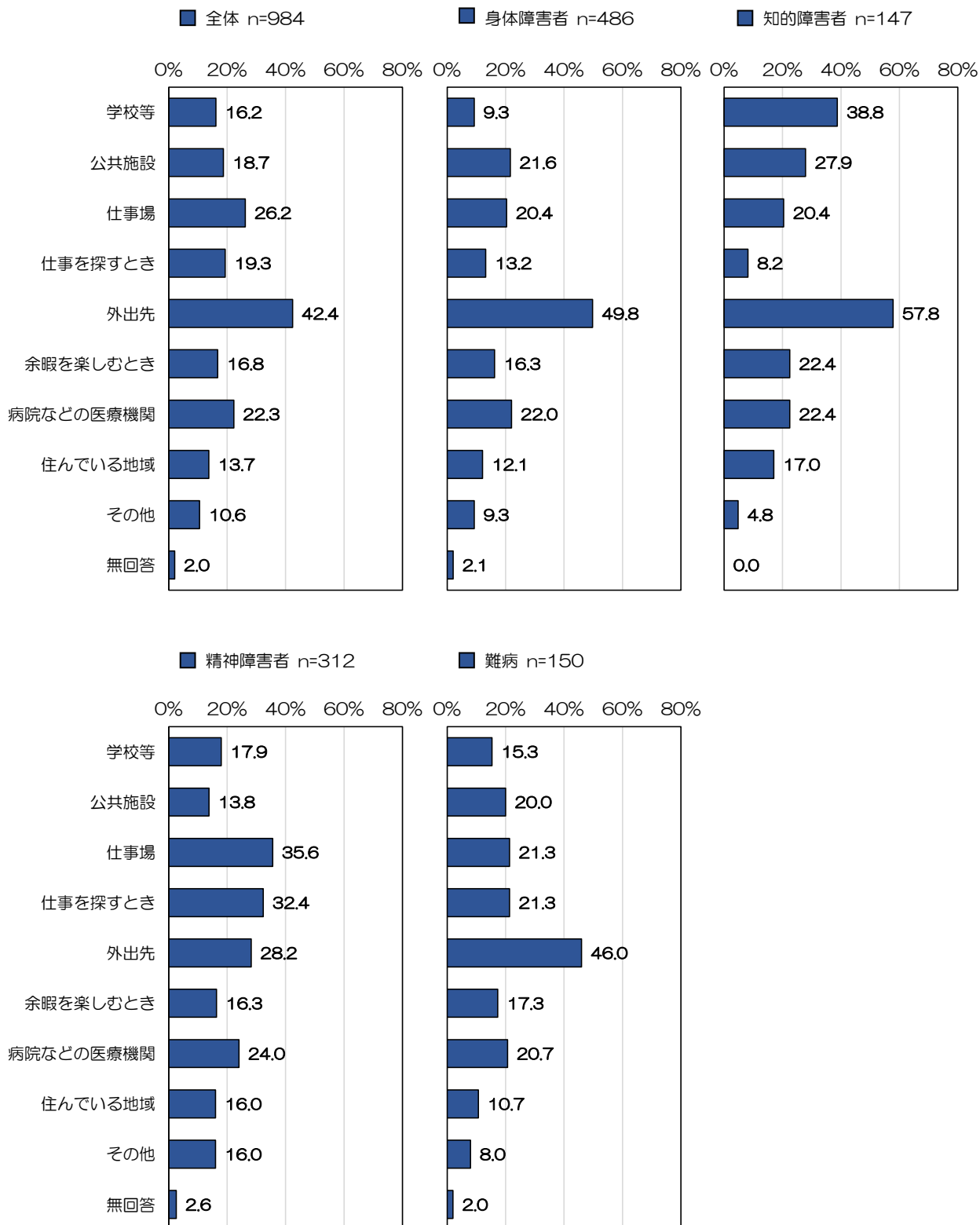


【問 24 で「ある」または「少しある」と回答した方にお伺いします。】

問 24-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(〇はいくつでも)

差別や嫌な思いをした場所については、全体では「外出先」が42.4%で最も高く、次いで「仕事場」が26.2%、「病院などの医療機関」が22.3%となっています。

障害種別でみると、精神障害者を除いて「外出先」が最も高い割合を占めています。精神障害者では「仕事場」が35.6%で最も高くなっています。また、知的障害者においては「学校等」、精神障害者においては「仕事を探するとき」の割合が他の種別と比べて高くなっています。

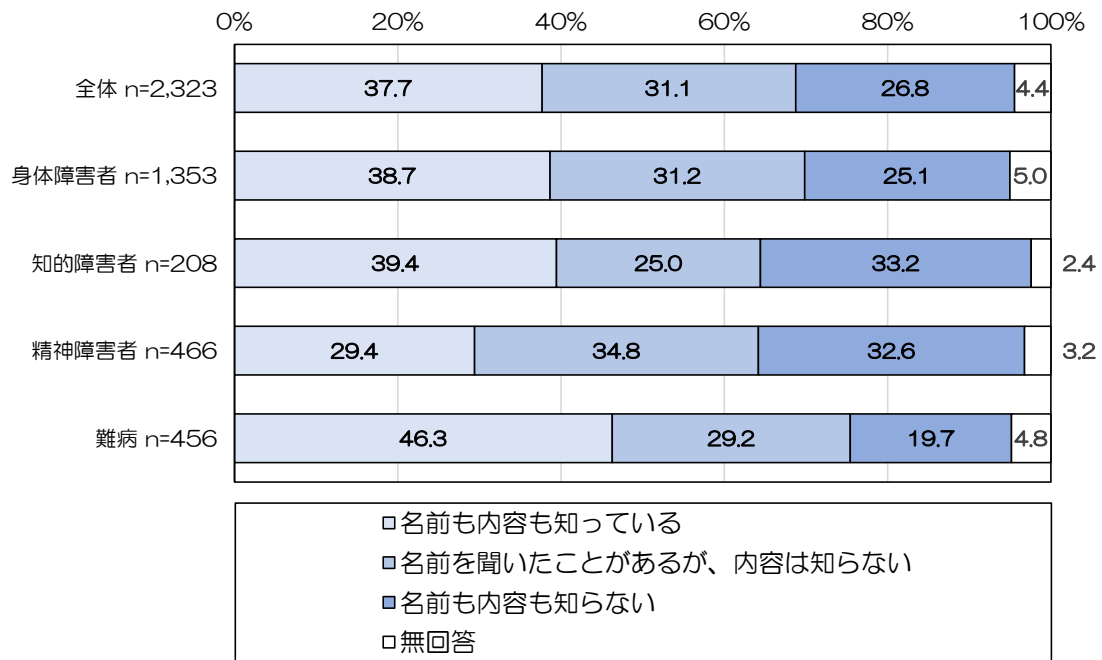




**問 25 あなたは、「成年後見制度」をご存じですか。(〇は1つ)**

成年後見制度の認知度については、全体では「名前も内容も知っている」が 37.7%で最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 31.1%、「名前も内容も知らない」が 26.8%となっています。なお、「名前も内容も知っている」は前回(令和2年度)調査時の 32.0%から 5.7ポイント増加しています。

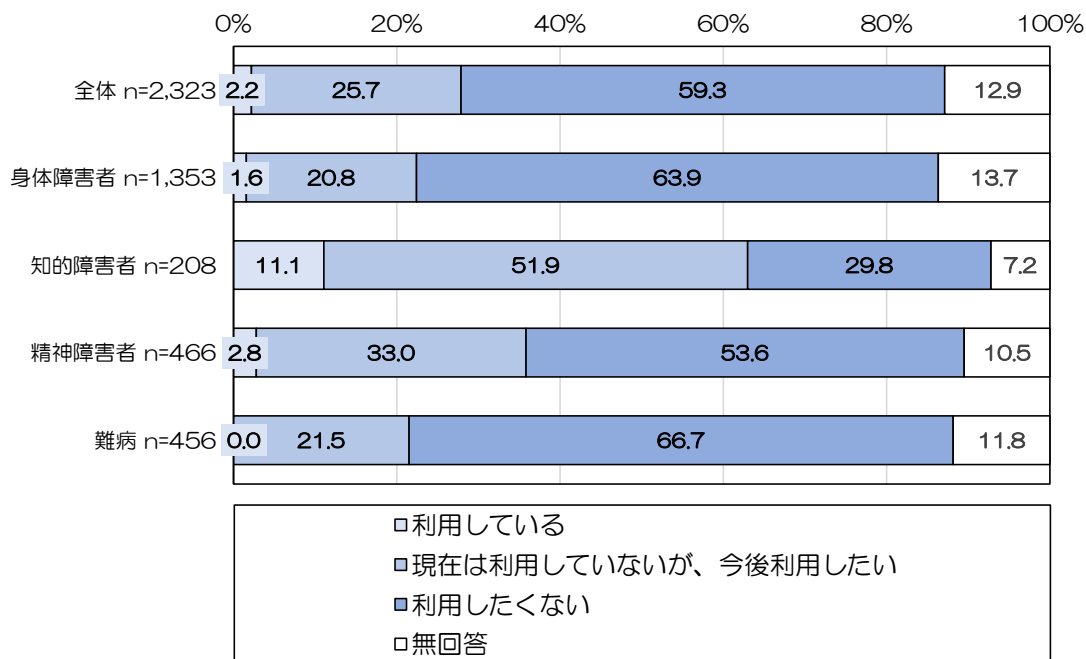
障害種別で「名前も内容も知らない」の割合をみると、身体障害者では 25.1%、知的障害者では 33.2%、精神障害者では 32.6%、難病では 19.7%と、知的障害者と精神障害者が他の種別と比べて高くなっています。



問 26 「成年後見制度」の利用について (〇は1つ)

成年後見制度の利用については、全体では「利用したくない」が59.3%で最も高く、次いで「現在は利用していないが、今後利用したい」が25.7%、「利用している」が2.2%となっています。

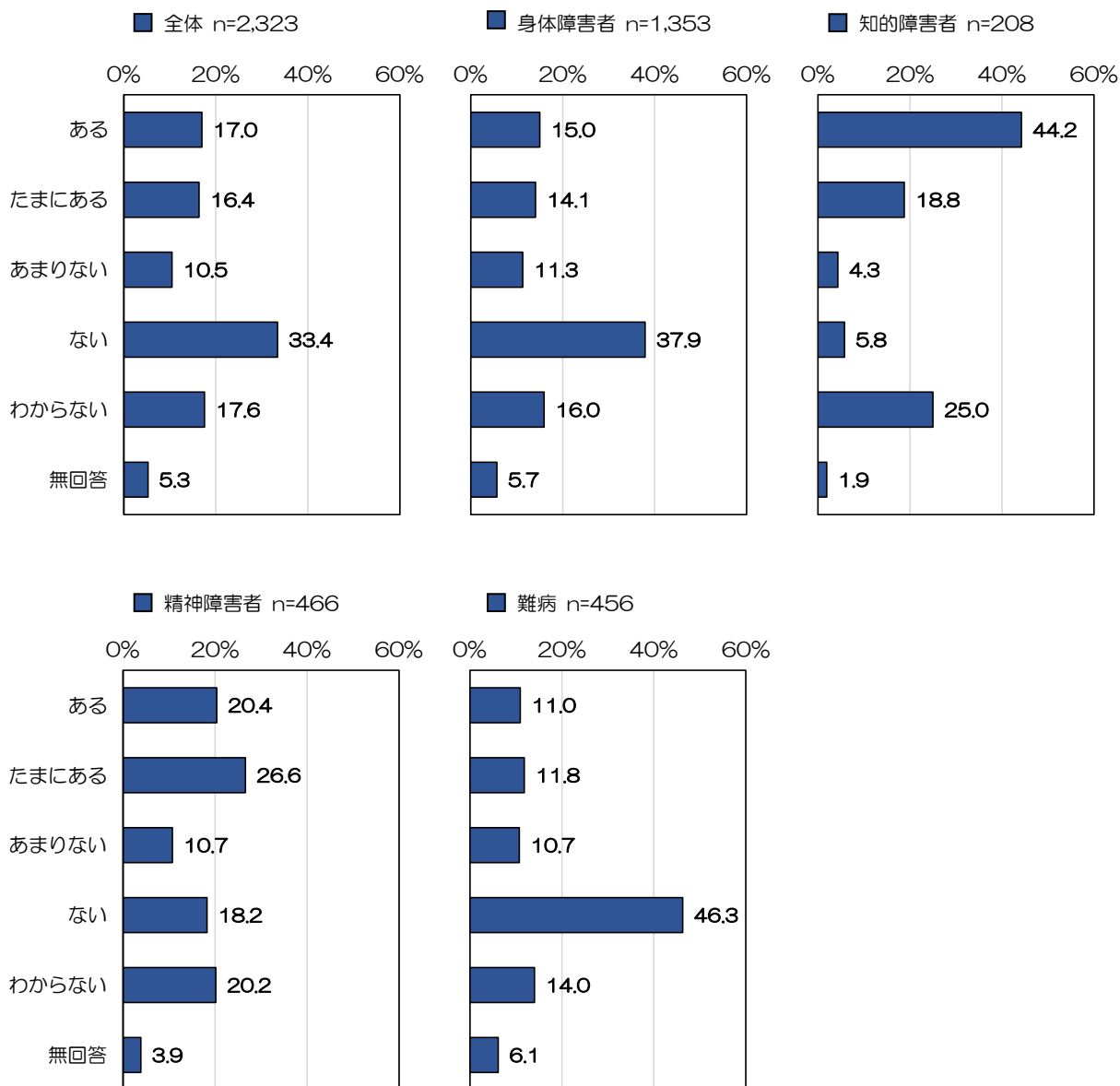
障害種別で「現在は利用していないが、今後利用したい」の割合をみると、身体障害者では20.8%、知的障害者では51.9%、精神障害者では33.0%、難病では21.5%と、知的障害者が他の種別と比べて非常に高くなっています。



**問 27 あなたは、自らの意思が反映された生活を送ることができるように、物事を決めるための手伝いが必要だと感じることはありますか。(〇は1つ)**

意思決定における支援が必要だと感じることの有無については、全体では「ない」が33.4%で最も高く、次いで「わからない」が17.6%、「ある」が17.0%となっています。

障害種別で「ある」と「たまにある」の合計の割合をみると、身体障害者では29.1%、知的障害者では63.0%、精神障害者では47.0%、難病では22.8%と、知的障害者と精神障害者が他の種別と比べて非常に高くなっています。

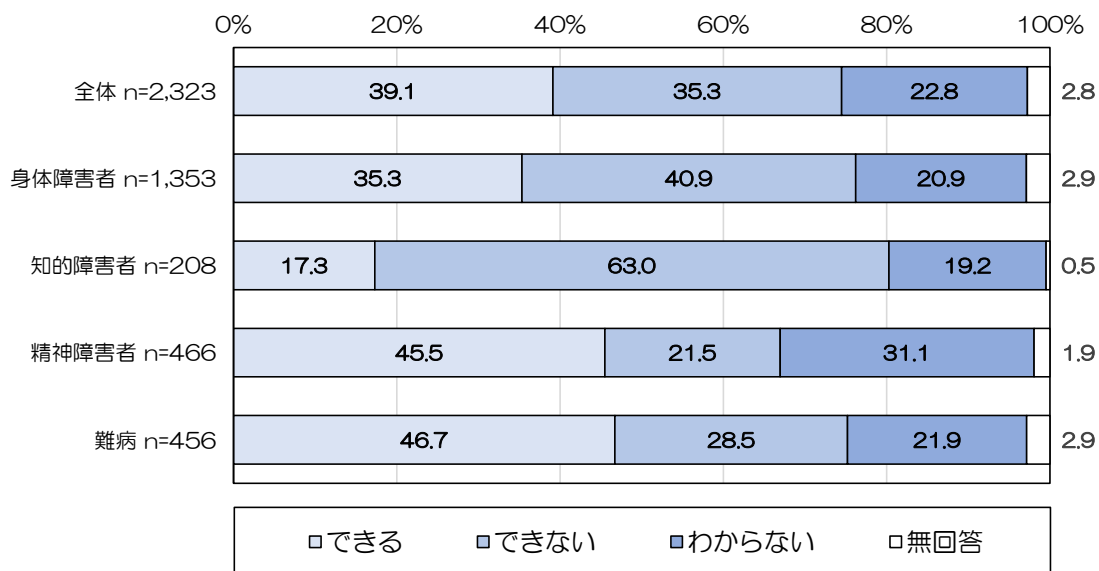


## 8 災害時の避難等について

### 問 28 あなたは、地震や水害等の災害時に一人で避難できますか。(〇は1つ)

地震や水害等の災害時に一人で避難できるかについては、全体では「できる」が39.1%で最も高く、次いで「できない」が35.3%、「わからない」が22.8%となっています。

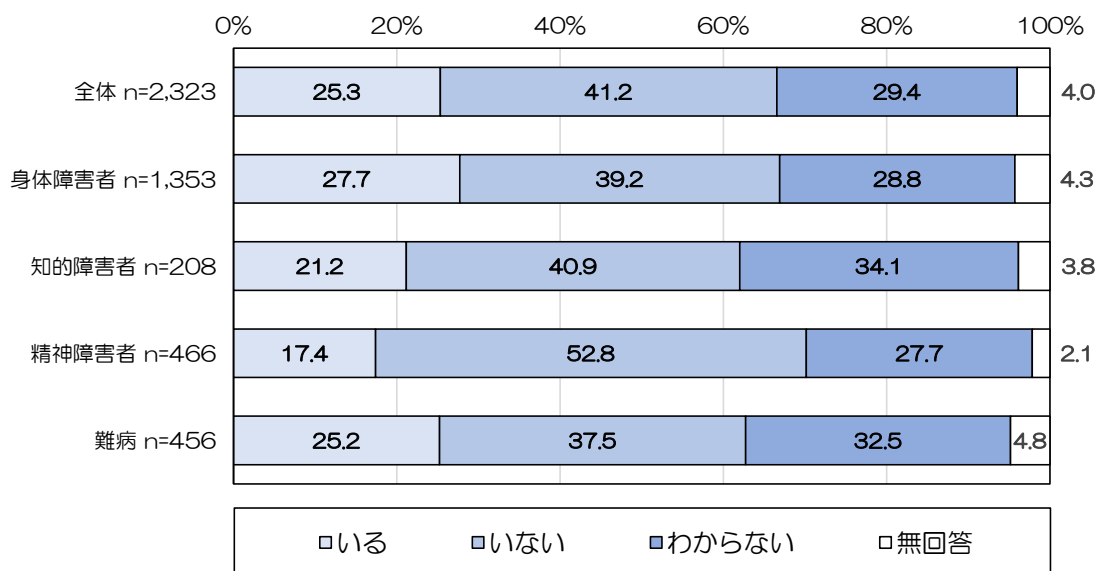
障害種別で「できない」の割合をみると、身体障害者では40.9%、知的障害者では63.0%、精神障害者では21.5%、難病では28.5%と、知的障害者が他の種別と比べて非常に高くなっています。



問 29 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。  
(〇は1つ)

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人の有無については、全体では「いない」が41.2%で最も高く、次いで「わからない」が29.4%、「いる」が25.3%となっています。

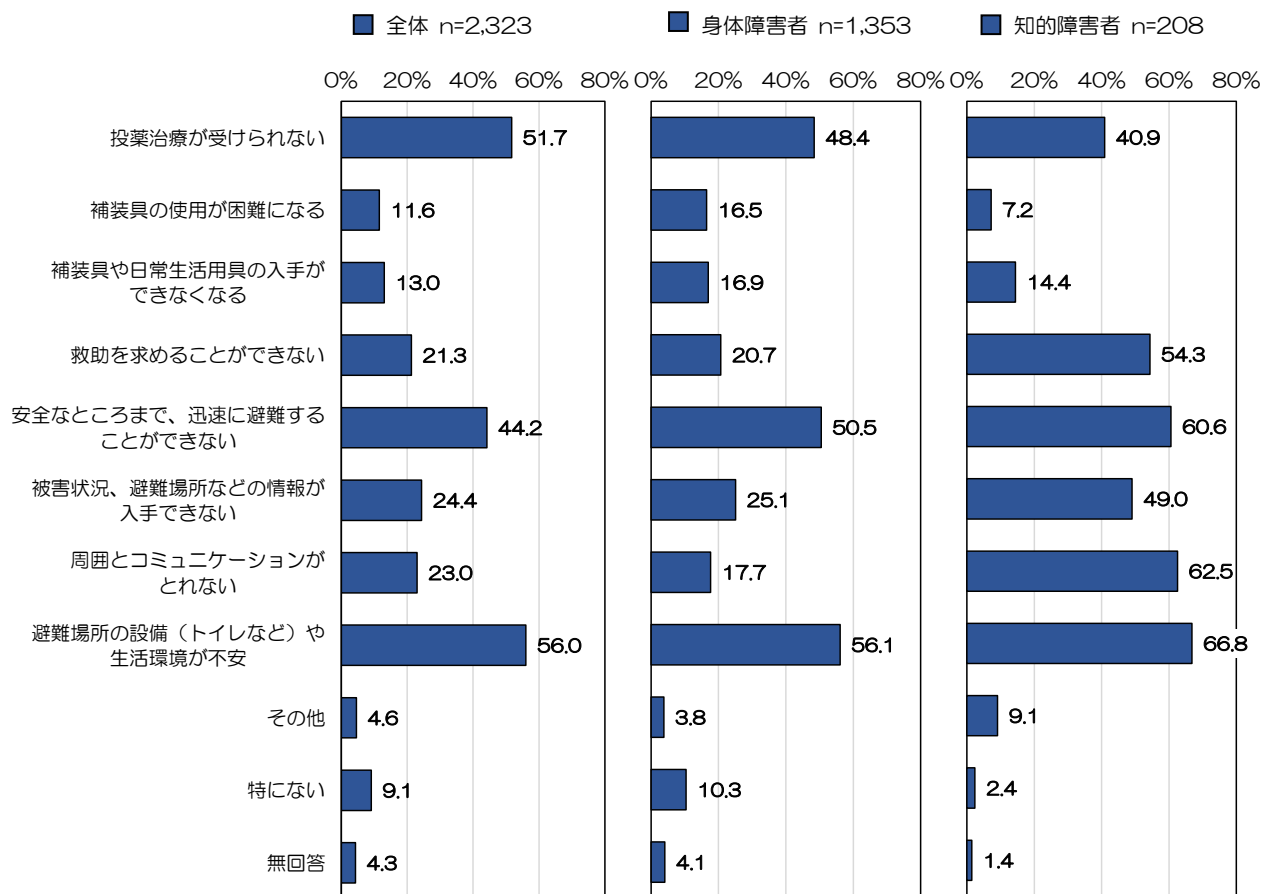
障害種別で「いない」の割合をみると、身体障害者では39.2%、知的障害者では40.9%、精神障害者では52.8%、難病では37.5%と、精神障害者が他の種別と比べて高くなっています。

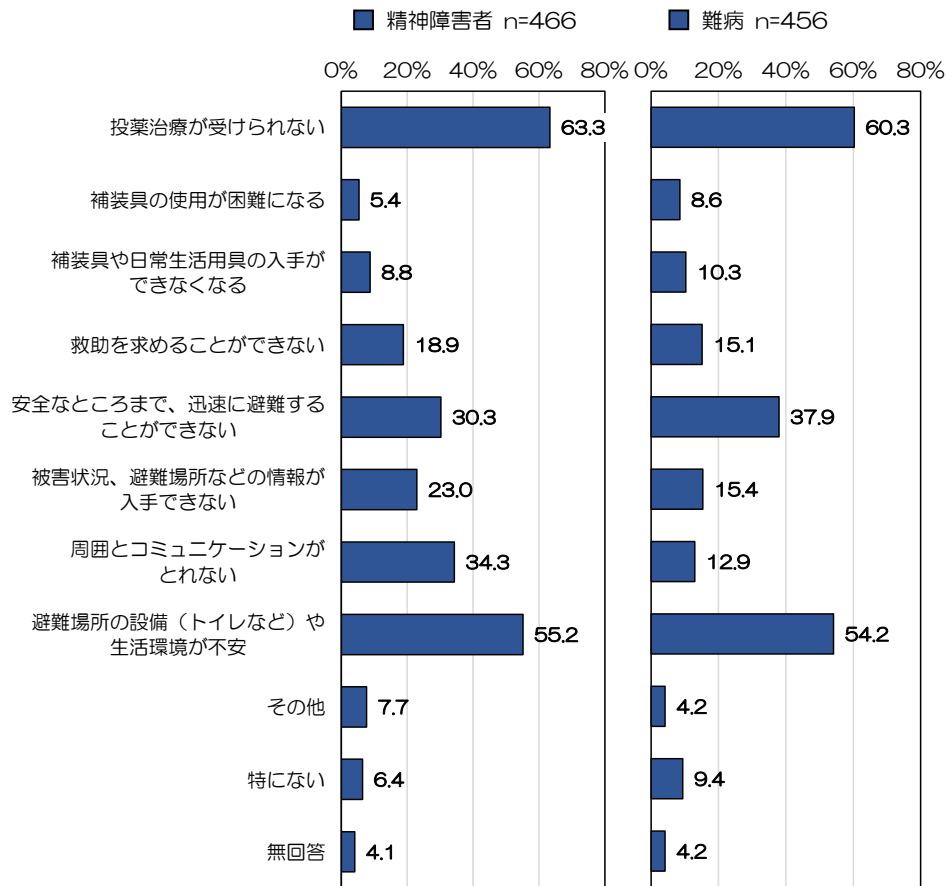


問 30 地震や水害等の災害時に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

地震や水害等の災害時に困ることについては、全体では「避難場所の設備や生活環境が不安」が56.0%で最も高く、次いで「投薬治療が受けられない」が51.7%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が44.2%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「避難場所の設備や生活環境が不安」が56.1%で最も高く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が50.5%となっています。知的障害者では「避難場所の設備や生活環境が不安」が66.8%で最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が62.5%となっています。また、知的障害者においては「救助を求めることができない」「安全なところまで、迅速に避難することができない」「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」の割合も高くなっています。精神障害者では「投薬治療が受けられない」が63.3%で最も高く、次いで「避難場所の設備や生活環境が不安」が55.2%となっています。難病では「投薬治療が受けられない」が60.3%で最も高く、次いで「避難場所の設備や生活環境が不安」が54.2%となっています。

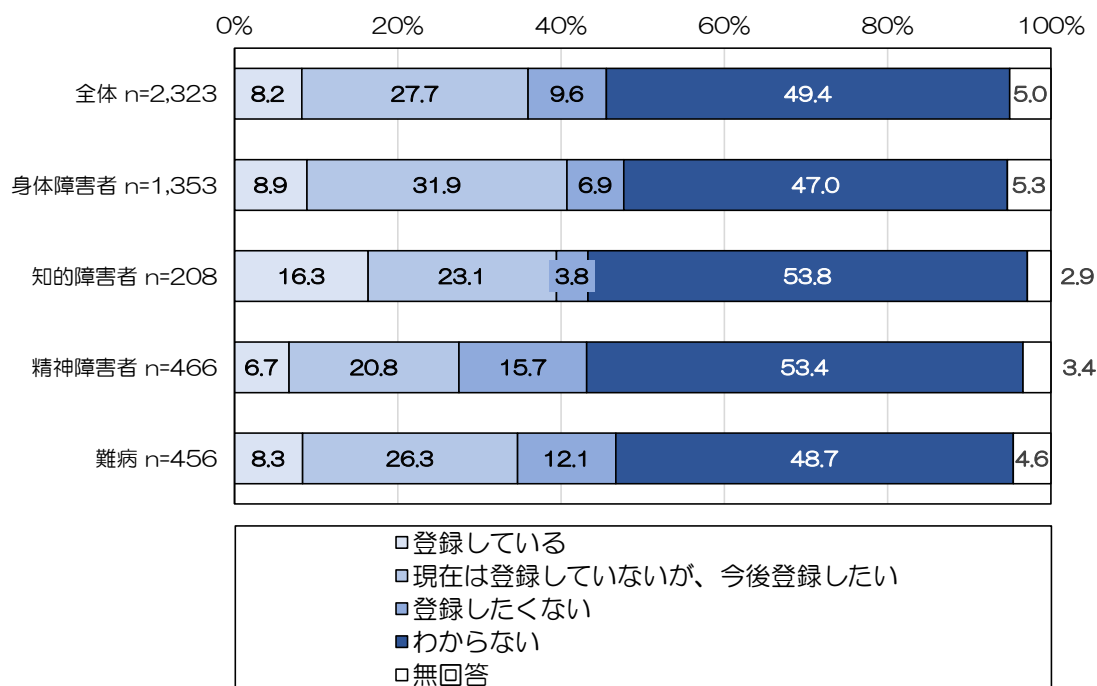




問31 市が実施する避難行動要支援者台帳登録制度について（〇は1つ）

避難行動要支援者名簿登録制度については、全体では「わからない」が49.4%で最も高く、次いで「現在は登録していないが、今後登録したい」が27.7%、「登録したくない」が9.6%となっています。

障害種別でみると、すべての障害種別において「現在は登録していないが、今後登録したい」の割合が2割を超えています。精神障害者においては「登録したくない」の割合が他の種別と比べて高くなっています。





## 9 朝霞市のまちづくりについて

問 32 障害のある人の住みやすいまちづくりについて、①から⑧のそれぞれについて、「満足度」と「今後の重要性」の両方にお答えください。(番号に○)

満足度 「満足」

No.	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病
1	【1位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実(7.6)	【1位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実(8.1)	【1位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実(7.7)	【1位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実(10.3)	【1位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実(5.0)
2	【2位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実(7.1)	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実(7.9)	【2位】 働く場の確保(6.3)	【2位】 地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備(8.8)	【2位】 地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備(4.6)
3	【3位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実(6.6)	【3位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実(6.9)	【2位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備(6.3)	【2位】 障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境(8.8)	【3位】 リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備(4.4)
4	【4位】 障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる(6.2)	【4位】 障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる(6.7)	【2位】 福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化(6.3)	【4位】 生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる(8.6)	【3位】 障害のある人のための住まいの確保・供給(4.4)
5	【5位】 地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備(5.6)	【5位】 地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備(5.5)	【5位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実(5.8)	【5位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実(8.4)	【3位】 障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる(4.4)
6	【5位】 障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境(5.6)	【5位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備(5.5)	【5位】 障害のある人のための教育の充実(5.8)		
7		【5位】 障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境(5.5)	【5位】 障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組(5.8)		
8		【5位】 生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる(5.5)			

※括弧内の数字は、構成比(%)

満足度 「不満」

No.	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病
1	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (25.8)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (26.6)	【1位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (38.9)	【1位】 働く場の確保 (31.8)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (32.9)
2	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (19.8)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (16.9)	【2位】 グループホームなど地域での生活の場の整備 (34.1)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (28.8)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (18.9)
3	【3位】 働く場の確保 (18.7)	【3位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (16.0)	【3位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (32.2)	【3位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (24.5)	【3位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (17.3)
4	【4位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (17.1)	【4位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (15.0)	【4位】 働く場の確保 (28.8)	【4位】 悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実 (22.3)	【4位】 働く場の確保 (16.2)
5	【5位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (16.5)	【5位】 働く場の確保 (13.8)	【5位】 参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備 (25.5)	【5位】 福祉分野の専門的な人材の確保・養成 (21.7)	【5位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (15.6)
6					【5位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実 (15.6)

※括弧内の数字は、構成比（％）

## 今後の重要性 「重要」

No.	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病
1	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (65.2)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (65.5)	【1位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (71.2)	【1位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (66.3)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (71.5)
2	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (58.6)	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (58.4)	【2位】 働く場の確保 (68.3)	【2位】 働く場の確保 (63.5)	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (65.1)
3	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (58.1)	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (57.9)	【3位】 グループホームなど地域での生活の場の整備 (66.8)	【2位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (63.5)	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (61.4)
4	【4位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (57.6)	【4位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (55.9)	【4位】 福祉分野の専門的な人材の確保・養成 (66.3)	【4位】 障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境 (63.3)	【4位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実 (60.7)
5	【5位】 リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 (56.0)	【5位】 リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 (55.2)	【5位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (65.4)	【5位】 悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実 (60.1)	【5位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (60.1)

※括弧内の数字は、構成比(%)

## ◆全体 満足度 n=2,323

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	7.1	<b>64.8</b>	11.0	17.2
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	5.6	<b>62.6</b>	12.4	19.3
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	7.6	<b>61.8</b>	10.6	20.0
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	4.0	<b>57.3</b>	16.5	22.2
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	4.3	<b>60.2</b>	13.0	22.5
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	5.4	<b>59.9</b>	13.5	21.2
⑦障害のある人のための教育の充実	3.7	<b>61.8</b>	11.1	23.4
⑧働く場の確保	3.6	<b>52.9</b>	18.7	24.8
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	4.1	<b>60.4</b>	12.3	23.2
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	3.7	<b>61.0</b>	12.4	22.9
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	5.3	<b>49.4</b>	25.8	19.5
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	5.3	<b>51.0</b>	19.8	23.9
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	4.7	<b>53.8</b>	17.1	24.4
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	4.9	<b>55.1</b>	15.5	24.5
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	4.3	<b>55.0</b>	15.5	25.2
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	5.1	<b>55.1</b>	14.2	25.6
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	6.6	<b>54.2</b>	14.9	24.4
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	3.8	<b>59.4</b>	10.4	26.4
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	4.8	<b>58.2</b>	11.5	25.5
⑳保育所等での障害児療育の推進	4.4	<b>58.9</b>	9.4	27.3
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	5.6	<b>55.0</b>	13.6	25.8
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	5.5	<b>57.0</b>	12.2	25.3
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	6.2	<b>57.3</b>	11.3	25.1
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	4.6	<b>57.1</b>	12.1	26.1

## ◆全体 今後の重要性 n=2,323

単位：%

	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	57.6	21.5	0.7	20.3
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	52.8	25.1	0.9	21.2
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	58.6	20.1	0.7	20.6
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	58.1	21.0	0.6	20.4
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	51.5	26.3	1.3	21.0
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	56.0	22.6	0.7	20.7
⑦障害のある人のための教育の充実	49.2	27.7	1.0	22.1
⑧働く場の確保	54.0	21.8	1.5	22.6
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	45.4	30.4	2.8	21.5
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	40.8	34.4	3.4	21.5
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	65.2	15.2	0.7	19.0
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	55.6	19.9	1.2	23.2
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	54.2	21.6	1.2	22.9
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	54.4	21.8	1.3	22.5
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	54.9	21.0	0.8	23.3
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	45.8	27.5	2.7	23.9
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	55.8	20.2	1.0	22.9
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	40.4	32.6	2.2	24.8
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	52.3	23.2	1.0	23.5
⑳保育所等での障害児療育の推進	46.9	26.5	1.2	25.4
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	52.8	22.5	1.0	23.7
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	50.5	24.4	1.3	23.8
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	49.4	25.5	1.3	23.8
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	43.1	29.9	2.5	24.5

## ◆身体障害者 満足度 n=1,353

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	8.1	<b>63.7</b>	9.7	18.5
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	5.5	<b>61.6</b>	11.2	21.7
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	7.9	<b>60.0</b>	9.9	22.2
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	4.2	<b>55.7</b>	15.0	25.1
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	4.2	<b>60.4</b>	10.0	25.4
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	5.4	<b>57.7</b>	12.6	24.2
⑦障害のある人のための教育の充実	3.3	<b>61.6</b>	8.8	26.4
⑧働く場の確保	3.4	<b>54.5</b>	13.8	28.3
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	4.2	<b>59.1</b>	10.6	26.1
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	3.8	<b>60.8</b>	9.8	25.5
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	5.5	<b>46.6</b>	26.6	21.3
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	5.0	<b>51.3</b>	16.9	26.9
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	4.7	<b>52.4</b>	16.0	26.8
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	5.0	<b>54.9</b>	13.3	26.8
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	4.5	<b>54.7</b>	12.9	27.9
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	5.3	<b>53.7</b>	12.6	28.3
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	6.9	<b>52.9</b>	13.2	27.0
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	3.7	<b>57.6</b>	9.4	29.3
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	4.9	<b>57.4</b>	9.4	28.4
⑳保育所等での障害児療育の推進	4.7	<b>57.0</b>	8.1	30.2
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	5.5	<b>54.8</b>	10.9	28.8
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	5.5	<b>55.7</b>	10.6	28.1
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	6.7	<b>55.4</b>	10.4	27.6
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	4.6	<b>54.9</b>	11.6	28.9

## ◆身体障害者 今後の重要性 n=1,353

単位：%

	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	55.9	21.4	0.4	22.3
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	51.6	24.3	0.8	23.3
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	58.4	18.8	0.4	22.4
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	57.9	19.4	0.5	22.2
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	48.6	27.2	1.3	23.0
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	55.2	21.9	0.6	22.3
⑦障害のある人のための教育の充実	46.6	28.2	0.9	24.2
⑧働く場の確保	48.0	24.5	2.0	25.4
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	43.5	30.3	2.7	23.5
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	38.4	34.7	3.2	23.7
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	65.5	13.5	0.5	20.5
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	52.4	20.8	1.2	25.6
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	53.3	21.0	1.0	24.8
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	51.4	22.9	0.8	24.8
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	51.7	22.1	0.4	25.7
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	43.5	28.4	2.1	26.0
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	53.7	20.8	0.8	24.8
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	38.8	32.9	1.5	26.8
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	49.1	24.3	0.8	25.8
⑳保育所等での障害児療育の推進	45.0	26.2	0.9	27.9
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	49.2	23.9	1.0	25.9
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	48.0	24.8	1.2	26.0
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	47.3	25.5	1.3	25.9
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	40.7	30.1	2.3	26.9



## ◆知的障害者 満足度 n=208

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	5.3	<b>58.2</b>	20.7	15.9
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	3.4	<b>61.5</b>	19.7	15.4
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	5.8	<b>60.1</b>	14.9	19.2
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	2.4	<b>42.3</b>	38.9	16.3
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	3.4	<b>45.7</b>	34.1	16.8
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	5.3	<b>56.3</b>	21.6	16.8
⑦障害のある人のための教育の充実	5.8	<b>57.7</b>	18.3	18.3
⑧働く場の確保	6.3	<b>46.6</b>	28.8	18.3
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	4.3	<b>52.9</b>	25.5	17.3
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	4.8	<b>53.4</b>	23.6	18.3
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	6.3	<b>53.8</b>	22.6	17.3
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	5.3	<b>43.8</b>	32.2	18.8
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	4.3	<b>52.4</b>	22.1	21.2
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	4.3	<b>55.3</b>	18.3	22.1
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	4.8	<b>49.5</b>	24.0	21.6
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	6.3	<b>55.8</b>	16.3	21.6
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	7.7	<b>53.8</b>	20.2	18.3
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	2.9	<b>59.1</b>	14.9	23.1
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	5.8	<b>55.3</b>	16.8	22.1
⑳保育所等での障害児療育の推進	3.8	<b>57.7</b>	14.9	23.6
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	5.3	<b>49.5</b>	22.1	23.1
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	3.8	<b>58.7</b>	14.4	23.1
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	5.3	<b>58.2</b>	13.0	23.6
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	4.3	<b>61.5</b>	9.6	24.5



## ◆知的障害者 今後の重要性 n=208

単位：%

	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	<b>64.9</b>	18.3	0.5	16.3
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	<b>57.7</b>	26.0	0.5	15.9
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	<b>57.7</b>	25.0	1.0	16.3
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	<b>71.2</b>	15.4	0.5	13.0
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	<b>66.8</b>	16.8	1.0	15.4
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	<b>62.0</b>	20.7	1.0	16.3
⑦障害のある人のための教育の充実	<b>57.2</b>	25.0	1.0	16.8
⑧働く場の確保	<b>68.3</b>	14.4	0.5	16.8
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	<b>54.3</b>	27.9	1.4	16.3
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	<b>51.0</b>	30.8	2.4	15.9
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	<b>63.0</b>	19.7	1.9	15.4
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	<b>65.4</b>	14.9	1.4	18.3
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	<b>61.1</b>	20.2	0.5	18.3
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	<b>61.5</b>	18.8	1.4	18.3
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	<b>66.3</b>	14.4	1.4	17.8
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	<b>47.1</b>	29.8	2.4	20.7
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	<b>62.0</b>	18.3	1.4	18.3
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	<b>44.7</b>	30.8	2.9	21.6
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	<b>62.0</b>	18.3	1.0	18.8
⑳保育所等での障害児療育の推進	<b>50.0</b>	28.4	1.4	20.2
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	<b>59.6</b>	18.3	1.4	20.7
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	<b>50.5</b>	27.4	1.4	20.7
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	<b>48.1</b>	28.8	1.9	21.2
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	<b>41.3</b>	35.1	1.9	21.6

## ◆精神障害者 満足度 n=466

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	7.3	<b>65.5</b>	15.2	12.0
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	8.8	<b>60.9</b>	16.3	13.9
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	10.3	<b>62.2</b>	13.7	13.7
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	5.4	<b>63.5</b>	16.5	14.6
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	6.7	<b>62.9</b>	15.2	15.2
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	7.1	<b>64.2</b>	15.0	13.7
⑦障害のある人のための教育の充実	6.0	<b>62.2</b>	16.7	15.0
⑧働く場の確保	5.4	<b>46.4</b>	31.8	16.5
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	6.2	<b>61.8</b>	16.1	15.9
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	5.2	<b>60.9</b>	18.0	15.9
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	6.7	<b>53.9</b>	24.5	15.0
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	7.5	<b>48.9</b>	28.8	14.8
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	6.7	<b>56.0</b>	20.8	16.5
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	6.2	<b>55.8</b>	22.3	15.7
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	5.6	<b>56.4</b>	21.7	16.3
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	6.4	<b>56.7</b>	20.0	17.0
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	8.4	<b>55.8</b>	20.0	15.9
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	5.8	<b>63.3</b>	13.1	17.8
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	6.2	<b>59.9</b>	18.0	15.9
⑳保育所等での障害児療育の推進	5.8	<b>63.1</b>	12.9	18.2
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	8.8	<b>54.3</b>	21.2	15.7
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	8.6	<b>56.7</b>	19.1	15.7
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	8.2	<b>60.1</b>	16.1	15.7
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	7.7	<b>59.7</b>	16.7	15.9

## ◆精神障害者 今後の重要性 n=466

単位：%

	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	59.9	23.2	1.1	15.9
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	55.4	27.7	0.9	16.1
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	56.0	25.8	1.3	17.0
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	54.5	27.5	0.9	17.2
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	53.6	29.2	1.3	15.9
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	55.6	27.3	0.9	16.3
⑦障害のある人のための教育の充実	54.9	26.6	1.7	16.7
⑧働く場の確保	63.5	18.7	1.3	16.5
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	47.2	32.0	4.5	16.3
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	43.3	35.4	5.6	15.7
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	63.5	21.0	0.6	14.8
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	66.3	16.5	1.1	16.1
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	54.1	26.4	2.8	16.7
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	60.1	22.5	1.7	15.7
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	58.8	23.4	1.1	16.7
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	50.6	27.7	4.5	17.2
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	59.2	22.5	1.5	16.7
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	41.4	36.1	4.5	18.0
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	58.2	23.6	1.3	17.0
⑳保育所等での障害児療育の推進	51.5	28.8	1.7	18.0
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	63.3	18.9	1.1	16.7
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	57.5	24.5	1.3	16.7
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	54.1	28.1	0.9	17.0
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	47.4	31.1	4.3	17.2

## ◆難病 満足度 n=456

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	4.2	<b>71.3</b>	9.0	15.6
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	4.6	<b>66.2</b>	11.4	17.8
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	5.0	<b>66.2</b>	10.3	18.4
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	3.1	<b>61.2</b>	15.6	20.2
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	3.1	<b>63.8</b>	12.3	20.8
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	4.4	<b>61.8</b>	14.0	19.7
⑦障害のある人のための教育の充実	2.4	<b>65.4</b>	9.9	22.4
⑧働く場の確保	2.0	<b>60.5</b>	16.2	21.3
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	2.2	<b>64.7</b>	11.2	21.9
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	2.2	<b>66.7</b>	10.1	21.1
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	3.9	<b>46.3</b>	32.9	16.9
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	4.4	<b>53.9</b>	18.9	22.8
⑬災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施	2.6	<b>56.8</b>	17.3	23.2
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	2.9	<b>59.9</b>	13.6	23.7
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	2.0	<b>59.2</b>	14.5	24.3
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	3.5	<b>57.0</b>	15.4	24.1
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	3.3	<b>58.1</b>	15.6	23.0
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	2.6	<b>62.3</b>	10.1	25.0
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	2.9	<b>62.1</b>	10.5	24.6
⑳保育所等での障害児療育の推進	2.9	<b>62.1</b>	9.4	25.7
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	3.7	<b>57.9</b>	14.0	24.3
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	3.1	<b>63.6</b>	9.4	23.9
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	4.4	<b>64.3</b>	8.1	23.2
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	3.3	<b>63.2</b>	9.6	23.9

## ◆難病 今後の重要性 n=456

単位：%

	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	<b>60.1</b>	23.0	0.9	16.0
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	<b>55.9</b>	24.6	1.8	17.8
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	<b>65.1</b>	17.1	0.7	17.1
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	<b>61.4</b>	21.1	0.7	16.9
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	<b>53.7</b>	25.9	1.8	18.6
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	<b>59.2</b>	21.9	1.1	17.8
⑦障害のある人のための教育の充実	<b>51.5</b>	30.0	0.9	17.5
⑧働く場の確保	<b>58.1</b>	21.7	1.3	18.9
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	<b>46.3</b>	33.1	2.4	18.2
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	<b>42.3</b>	37.1	2.9	17.8
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	<b>71.5</b>	11.4	1.1	16.0
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	<b>54.6</b>	21.3	2.4	21.7
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	<b>58.1</b>	19.5	2.0	20.4
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	<b>57.0</b>	21.3	2.0	19.7
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	<b>57.0</b>	20.6	1.3	21.1
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	<b>50.7</b>	25.2	2.2	21.9
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	<b>60.7</b>	17.3	1.3	20.6
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	<b>46.1</b>	29.2	2.4	22.4
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	<b>56.1</b>	20.8	1.8	21.3
⑳保育所等での障害児療育の推進	<b>51.8</b>	23.9	2.0	22.4
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	<b>53.1</b>	23.7	1.3	21.9
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	<b>52.6</b>	22.4	2.4	22.6
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	<b>52.4</b>	24.1	2.0	21.5
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	<b>47.8</b>	28.1	2.0	22.1

障害福祉サービスやご自分の生活上のこと、その他朝霞市の障害福祉施策全般について、何かご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

アンケート調査の最後に、自由記述欄を設け、588 人の方より 707 件の貴重なご意見をいただきました。

結果報告書では、同様のご意見を整理し、17 項目に分類しました。

No.	項目	件数
1	アンケートについて	98
2	道路、施設のバリアフリー、交通機関の充実について	84
3	経済的な内容について	82
4	市役所の手続き等に関することについて	57
5	障害者施設の充実・設備・定員増などに関することについて	46
6	障害福祉サービスについて	45
7	就労について	29
8	情報提供について	28
9	各種障害に関することについて	28
10	障害者理解、交流について	27
11	今後の不安について	26
12	相談支援体制について	25
13	「親亡き後」や「老老介護」、病気・医療に関することについて	17
14	災害時への対応等について	9
15	権利擁護について	4
16	教育、進路等について	1
17	その他	101
合計		707

### ◆自由記述の内容（抜粋）

#### 【1 アンケートについて】

- このアンケートは障害者にとってはとても難しいのではと思います。障害福祉サービス等は自分で決定できる状態ではないと思いますし、もう少し簡単にしていただかないといけないと思います。正直、家族も本人もどのサービスを使っているか、どれがどのサービスかもよくわからない状態です。
- ページの裏の情報（サービス一覧）が必要でとっておきたいのにこの状態では一緒に返信しなくてはなりません。今後このような時は切り離せるようにして下さると良いです。
- 障害者プラン、障害福祉計画作成のためにアンケート調査がされていますが、調査結果がどのように反映されているのか分からない。アンケートだけでは見えない事も多いのではと感じます。当事者や家族に対してヒアリングし具体的な要望を聞くことも必要ではないでしょうか。
- 今後は広報に限らずアンケートの電子化に力を入れて頂けるとありがたいです。アナログとデジタルが選択できると一番だと思います。

## 【2 道路、施設のバリアフリー、交通機関の充実について】

- 武蔵野線の北朝霞駅と、東武東上線の朝霞台駅のエレベーターの設置や再開発の検討をしてほしい。
- 足が悪いため、歩道が整備されていないと歩行がこわい。道路をもう少しきれいにして欲しいと常を感じる。自転車の逆走、歩道の走行がとてもこわい。もう少しきっちり取り締まりをしてほしい。
- わくわく号の本数がもう少し増えたらうれしいです。市役所や保健所が遠いので、何か手続きのたびに行くのが大変です。
- 視覚障がい者には夜暗くなってからは見えづらいため、もう少し外灯の数が多かったり照明が明るいと助かります。
- タクシー代がばかになりません。バス停まで行くのが大変なので、バス通路が多くあったら嬉しいです。

## 【3 経済的な内容について】

- 障害者手当金月 8,000 円が 5,000 円に減額されたのには、時代の流れに逆らっているとしか考えられない。色々物価等も上がっている中での減額はおかしいのではないですか。
- 障害者の医療費がかからないのは命に関わるのでありがたい。今後も継続して欲しい。
- 通院で高齢者等移送サービスを使いすぎてしまいます。デイサービスを月に3回利用していますが、自費で1回往復 3,000 円かかります。障害者生活サポート事業を利用したくても、どこも一杯で断られました。もう少し介護タクシーをお手頃な価格で利用できたらうれしいです。
- 難病のため定期的に通院し毎日薬を服用し治療を続けています。薬代が高額なので補助金があるといいなと思います。
- 自立の出来る給料が欲しいです。

## 【4 市役所の手続き等に関する事について】

- 各種手続きに際して、市役所に出向かずリモート、電話、FAX、郵送でもできるようにして欲しい。行くことが困難ということを理解して欲しい。
- 市役所まで遠いので、朝霞台出張所で利用できる内容を多くして下さい。
- 自立支援を申請しているが、1年毎にやるのが本当に大変なので、せめて2年毎とかに期限を延ばしてほしいです。
- 障害者手帳の有効期限切れ防止のための通知や案内があると助かる。

## 【5 障害者施設の充実・設備・定員増などに関する事について】

- 朝霞市にもう少しグループホームを作って欲しいと思っています。親が年を取った時に子どもも年齢が上がってくる訳で、ひとりで出来る間は大丈夫だと思いますが、子どもも他の人との関わりを持てる場所があるととても楽しく過ごせるかと思っています。
- 軽度、中度のグループホームは増えてきているように感じるが、重度のグループホームが足りないように感じる。施設も満床であり、親亡き後の支援の整備を充実させてほしい。
- 重度知的障害者や強度行動障害者の入所施設が不足している。地域で生活したいが受け入れ先がなく、親が高齢になってくるのに不安しかない。親亡き後、遠方の入所施設への入所しか現状ではなく、情報等確認が出来ないため、遠方へ入所しなくても地域で暮らせる様になって欲しい。



## II 障害者調査

- ・児童発達支援や放課後等デイサービスなど、社会資源は増えてきたが、重度障害者や強度行動障害のある人の受け入れ先が圧倒的に少ない。障害者グループホームも強度行動障害のある人、支援区分が5ないし6の人の受け入れは少ない。もっと選択肢を増やす意味でも、公的な施設運営（例えば社協で）も考えて欲しい。ニーズがないのではなく、諦めて声が上がらないだけで、そうした障害の重い人達の保護者の高齢化は明らかです。

### 【6 障害福祉サービスについて】

- ・サービスの区分が細かく、また重複している部分もたくさんあってわかりづらい。
- ・色々サービスを作って欲しい。家で介護している人は大変なのでサービスをして欲しい。
- ・ヘルパーさんが不足しているため、移動支援が思うように依頼できなくなりました。コロナもあったからだと思いますが、今だと1つ1つ業者に連絡をとって確認をとらないといけないので、途中で諦めてしまいました。依頼可能な業者がリアルタイムで分かるととても助かると思います。
- ・障害を患っていて外出は難しいが病院以外でも外出したい。1人では出来ないから、そういったサービスや支援があると、社会から孤立してないように感じることが出来ると思う。

### 【7 就労について】

- ・就労継続支援A型・B型の施設が朝霞市には少ないと思います。隣の市のB型事業所を利用している状況です。やはり自分の住んでいる市の事業所を利用したいので、今後検討していただきたいと思います。
- ・障害者が働く上での給料が低いのと、働く場所を増やしてほしい。給料に関しては、一般の人と変わらない方がいいと思う。
- ・市役所やハローワークや郵便局や保健センターなどの障害者雇用を促進して欲しい。朝霞市が障害者の取り組みのモデルとなる事で、埼玉や東京の意識が変わるような市のモデルとなる事を希望します。
- ・精神障害者向けの職業訓練、求人の拡充をして欲しいです。

### 【8 情報提供について】

- ・知っている人だけが、福祉サービスを使うのではなくて全体に周知をお願いします。広報誌だけでは不十分だと思います。私も突然障害者になって情報を整理するのが大変でした。
- ・福祉だけではないが市はこちらから問い合わせない限り色々あるサービスを教えてくれない。もっと障害者、高齢者にわかるように情報提供して欲しい。
- ・通知ではなく、メールでお知らせを送ってほしい。デジタル化してほしい。PDFだと読み上げできないので、ワードとかのほうがいい。

### 【9 各種障害に関することについて】

- ・障害として認定されない持病があるのですが、そちらの方が生活を圧迫しており、結果として精神障害者として助けを求めらるしかありませんでした。支援して頂ける病気の数が増えることを望んでいます。
- ・難病指定を受けていますが、障害者手帳をいただけないのですが、難病指定者にも発行していただける様希望します。



- 社会のあらゆる分野でデジタル化が急速に進んでいるが、アナログ世代の高齢者や、私のような視覚障害を抱える人間にとっては、むしろ生活における不自由さが増している。ネット社会で取り残される人々がいることを配慮した障害者福祉を行ってほしい。

#### 【10 障害者理解、交流について】

- 高齢福祉、子育て支援に比べて障害福祉は全般的に周知、支援が遅れていると思います。障がいがあっても住みやすい地域づくりを考えてもらいたい。もっと社会参加出来る仕組みが出来ることを望みます。小さい頃から障がいを持つ子とふれあう機会が増え個性ととらえてもらえるようになれば、いじめや差別も減るのではないかと思います。
- 私は家にいて人との関わりがありません。人と交流する場所やレクリエーションの場を作ってほしいです。
- 自分と同じ様な病気を経験した方と話し合うことが出来る場が、分かりやすく提供されると良いと思います。今後同様の病になってしまった方に、自分の経験を話して安心してもらえる様な情報を提供できると良いなと考えています。

#### 【11 今後の不安について】

- 子育てをしている障害者およびその子どもたちへの支援も、より充実させてほしいです。私にも●歳の子どもがいるのですが、今は心身ともに比較的安定しているので何とか育てられています。今後私の障害が悪化した時、誰がこの子を支えてくれるだろうかと不安になることがあります。親子ともに支援してくれる制度があると安心できるので、是非ご検討をお願いします。
- 私は難病指定を受けて、持薬で普通に生活できておりますが、1人暮らしのため、急死した場合、気づいてもらえない不安を抱えて生活しています。

#### 【12 相談支援体制について】

- 夫婦だけで生活していますが、だんだん年をとり体力が弱ってきていますが、今はなんとか生活しています。相談窓口を一本化にして24時間相談にのってくれるところがあったらと思います。夜間が不安で助ける力を貸してくれるところをお願いします。
- 障害福祉課がもっと積極的に障害者一人一人に対して理解と状況把握に取り組んでほしい。障害者から申請したり相談したり難しいこともある。市役所まで行くことが難しい人には訪問する等してほしい。
- 現在1人住まいで特に人手を用することも無い生活を過ごしているが、今後必ず助けられながらの生活が来る事を思うと、気軽な気持ちで相談出来る場所があれば望ましいと思っている。

#### 【13 「親亡き後」や「老老介護」、病気・医療に関することについて】

- 将来の心配として親が亡くなった後、一人で生活していけるか（収入面含めて）、生活していく上で発生してくる手続き等が処理できるかなど心配でなりません。
- 私の母は昨年7月に人口肛門になり、ストーマをつけました。母は●●歳、私は●●歳で、母と二人で生きています。私が今体調悪く、私になにかあったら母を守れない心配と不安だらけです。

**【14 災害時への対応等について】**

- マンション、アパートは各々独立しており、災害時の協力はゼロと判断します。地域差が大きく昔から住み続けている区域は顔なじみで助け合いが可能ですが、駅近の地域は人の移り変わりが激しく災害時は不安が大きいですね。
- 災害時の避難場所の環境設備について、より具体的事案をもとに対策していて欲しい。個人での準備も大切で、しているつもりだが、有事の時はやはり行政の力を頼りたい。

**【15 権利擁護について】**

- 身寄りがないのでいずれ成年後見人制度を利用したいと思っています。それには高額な費用がかかり監督人まで必要と聞いた事があります。悪徳業者に騙されないように行政が責任を持って障害者の味方になって頂きたいです。

**【16 教育、進路等について】**

- 障害や福祉については、学校教育等、小さい頃から認知、理解が必要と考えられます。そのためには知識が必要なので、すべての人が簡単に知識を得られるような取り組みがある事を望みます。

### Ⅲ 障害児及び保護者調査



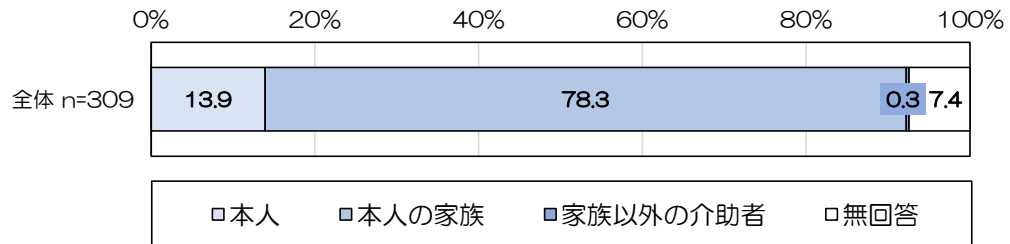
### Ⅲ 障害児及び保護者調査

#### 【 本人票 】

#### ● お答えいただく方について

##### 問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つ)

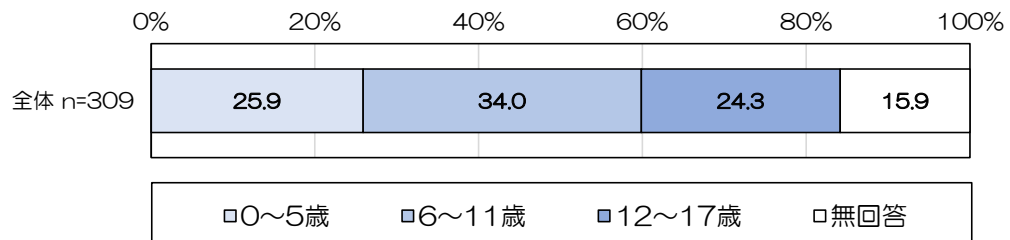
本調査への回答者については、「本人の家族」が78.3%で最も高く、次いで「本人」が13.9%となっています。



#### 1 あなたご自身のことについて

##### 問2 あなたの年齢をお答えください。

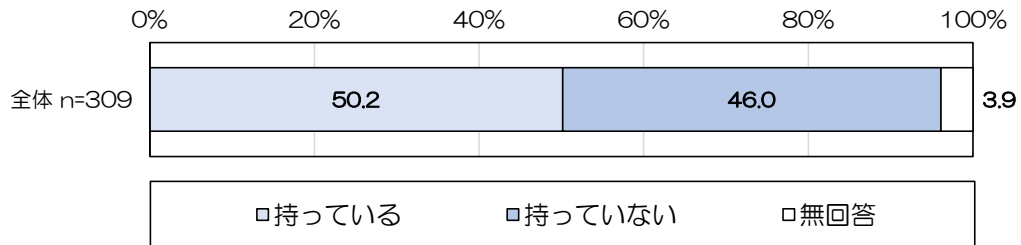
年齢については、「6～11歳」が34.0%で最も高く、次いで「0～5歳」が25.9%、「12～17歳」が24.3%となっています。



## 2 あなたの障害の状況について

### 問3 あなたは、障害者手帳を持っていますか。(〇は1つ)

障害者手帳の所有状況については、「持っている」が50.2%、「持っていない」が46.0%と、「持っている」が4.2ポイント上回っています。

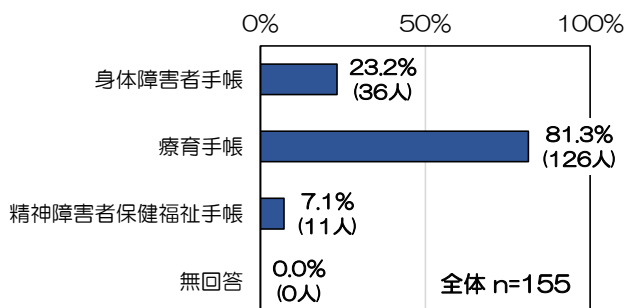


【問3で「障害者手帳」を持っていると回答した方にお伺いします。】

### 問3-1 あなたがお持ちの障害者手帳の種類と障害の程度をお答えください。 (あてはまる障害者手帳と障害の程度に〇を付けてください。)

#### ◆障害者手帳の種類

障害者手帳の種類については、「身体障害者手帳」が23.2% (36人)、「療育手帳」が81.3% (126人)、「精神障害者保健福祉手帳」が7.1% (11人)となっています。

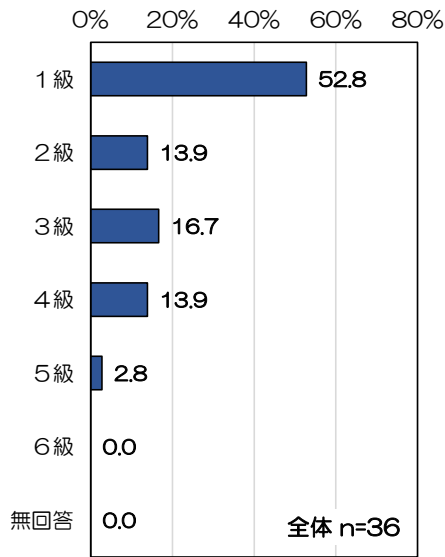


#### ◆障害の重複状況について

- ・「身体」のみ：20人
- ・「知的」のみ：108人
- ・「精神」のみ：9人
- ・「身体」と「知的」：16人
- ・「身体」と「精神」：0人
- ・「知的」と「精神」：2人
- ・「身体」と「知的」と「精神」：0人

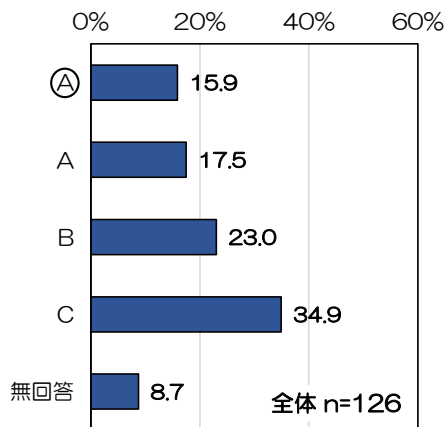
◆身体障害者手帳所持者の等級内訳

身体障害者手帳所持者の等級内訳については、「1級」が 52.8%で最も高く、次いで「3級」が 16.7%、「2級」「4級」がともに 13.9%となっています。



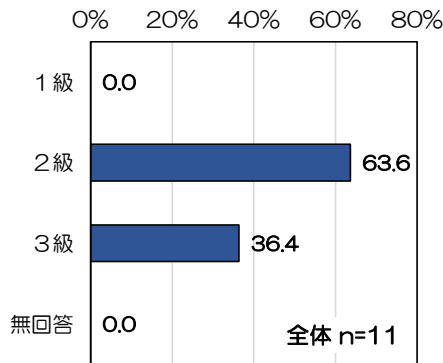
◆療育手帳所持者の等級内訳

療育手帳所持者の等級内訳については、「C」が 34.9%で最も高く、次いで「B」が 23.0%、「A」が 17.5%となっています。



◆精神障害者保健福祉手帳所持者の等級内訳

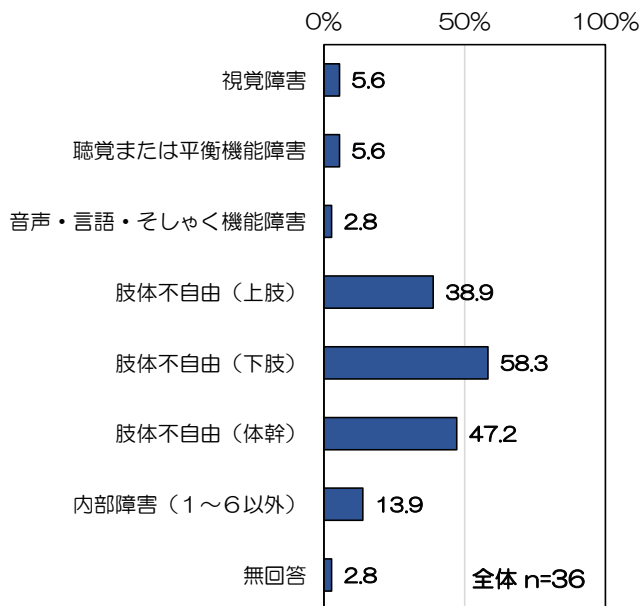
精神障害者保健福祉手帳所持者の等級内訳については、「2級」が63.6%で最も高く、次いで「3級」が36.4%となっています。



【問3-1で「身体障害者手帳」を持っていると回答した方にお伺いします。】

問3-2 障害の種別をお答えください。(〇はいくつでも)

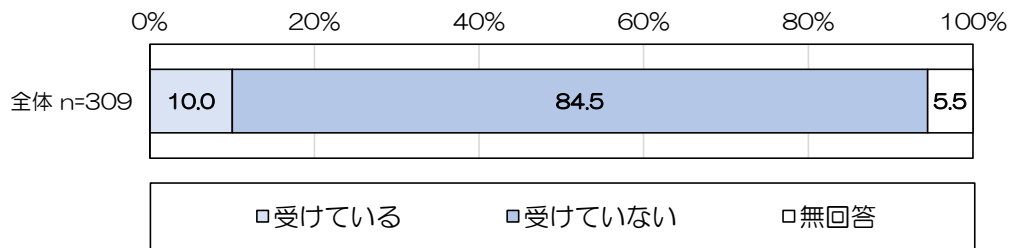
身体障害者手帳所持者の主たる障害については、「肢体不自由（下肢）」が58.3%で最も高く、次いで「肢体不自由（体幹）」が47.2%、「肢体不自由（上肢）」が38.9%となっています。





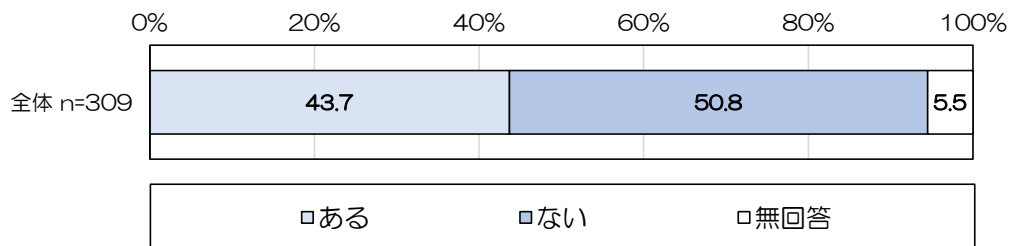
**問4 あなたは、難病（指定難病）の認定を受けていますか。（〇は1つ）**

難病の認定状況については、「受けている」が10.0%（31人）、「受けていない」が84.5%となっています。



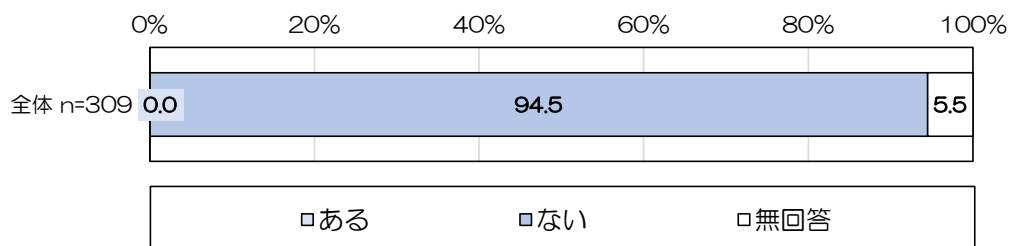
**問5 あなたは、発達障害であると診断をされたことがありますか。（〇は1つ）**

発達障害の診断の有無については、「ある」が43.7%（135人）、「ない」が50.8%となっています。



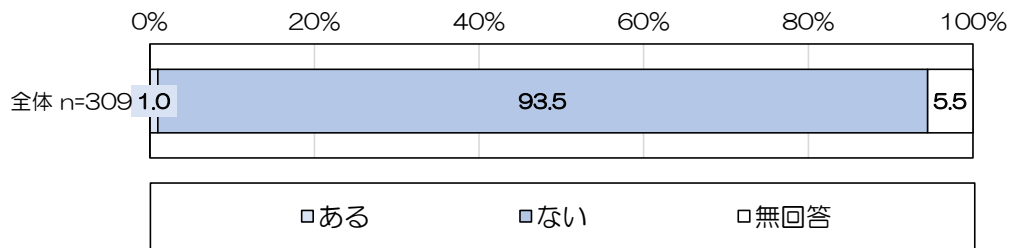
**問6 あなたは、高次脳機能障害であると診断をされたことがありますか。（〇は1つ）**

高次脳機能障害の診断の有無については、「ある」が0.0%、「ない」が94.5%となっています。



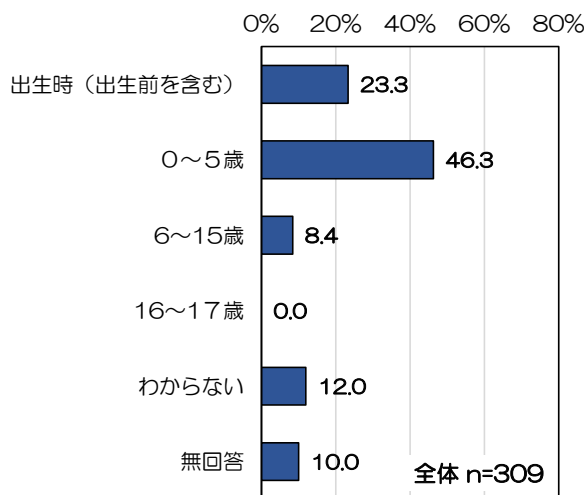
**問7 あなたは、遷延性意識障害の状態にありますか。(〇は1つ)**

遷延性意識障害の状態にあるかについては、「ある」が1.0%（3人）、「ない」が93.5%となっています。



**問8 あなたが現在の障害の状態になったのはいつごろですか。(〇は1つ)**

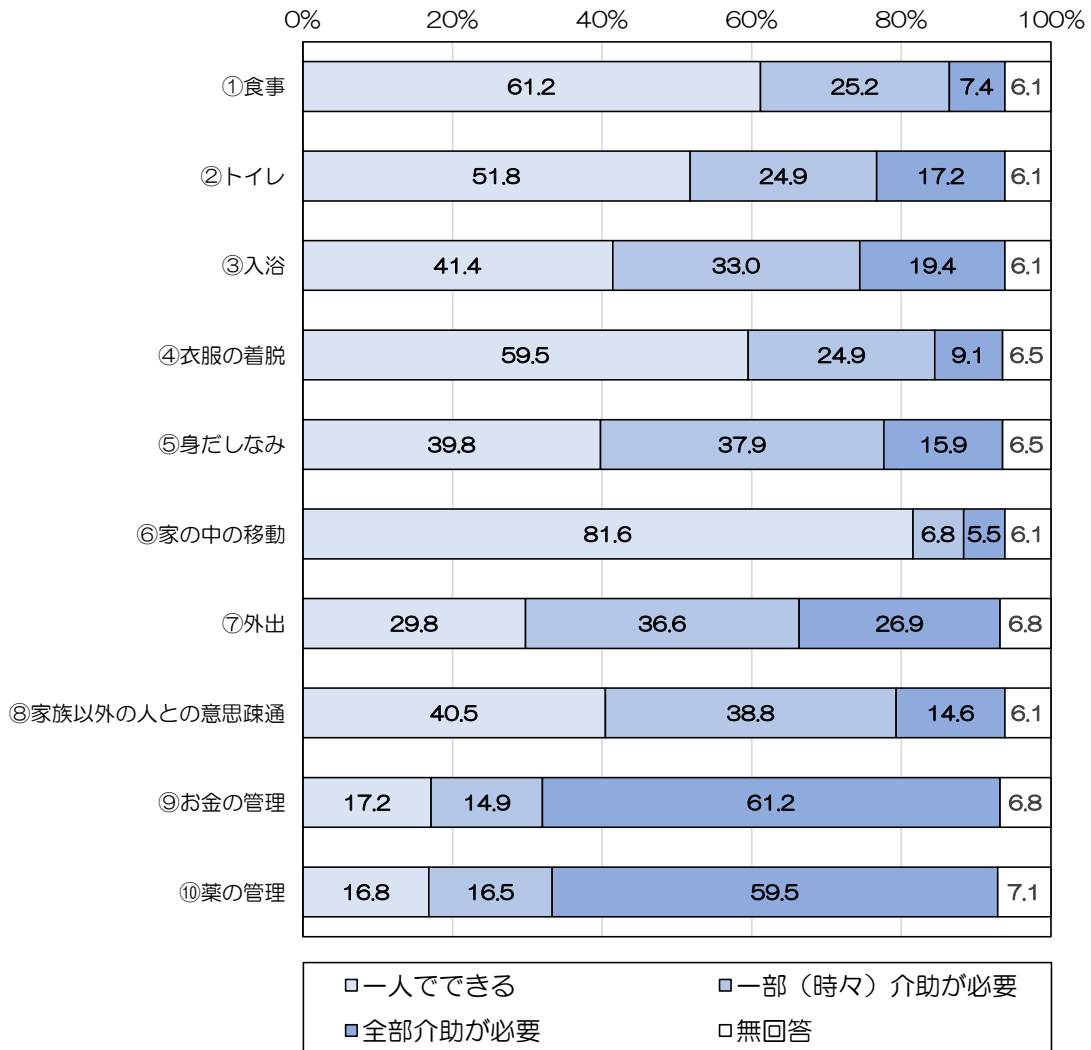
障害の状態になった時期については、「0～5歳」が46.3%で最も高く、次いで「出生時」が23.3%となっています。



### 3 あなたの介助について

問9 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。  
 (①から⑩についてそれぞれ〇は1つ)

日常生活の介助の状況について、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」と合わせた“介助が必要”の割合をみると、『⑨お金の管理』が76.1%で最も高く、次いで『⑩薬の管理』が76.0%、『⑦外出』が63.5%となっています。



◆ “介助が必要(「一部介助が必要」+「全部介助が必要」)”

	①	②	③	④	⑤
	食事	トイレ	入浴	衣服の着脱	身だしなみ
全体	32.6	42.1	52.4	34.0	53.8

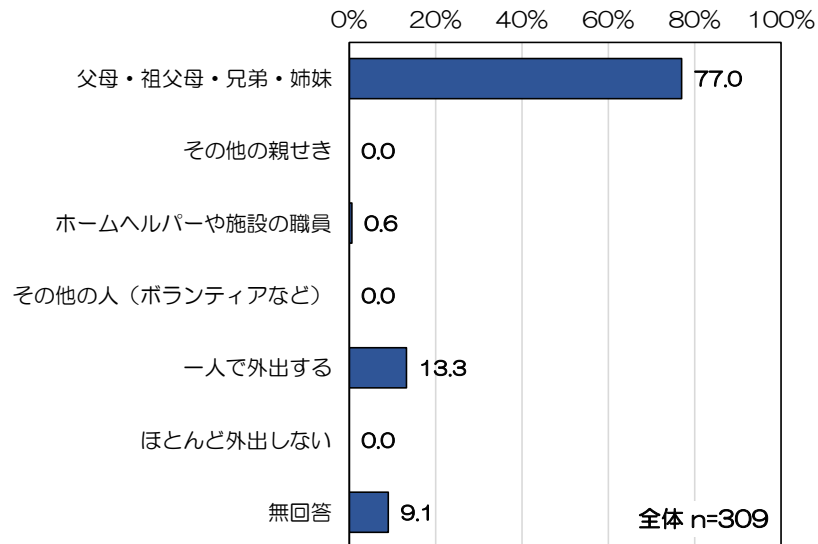
  

	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	家の中の移動	外出	家族以外の人との意思疎通	お金の管理	薬の管理
全体	12.3	63.5	53.4	76.1	76.0

## 4 日中活動について

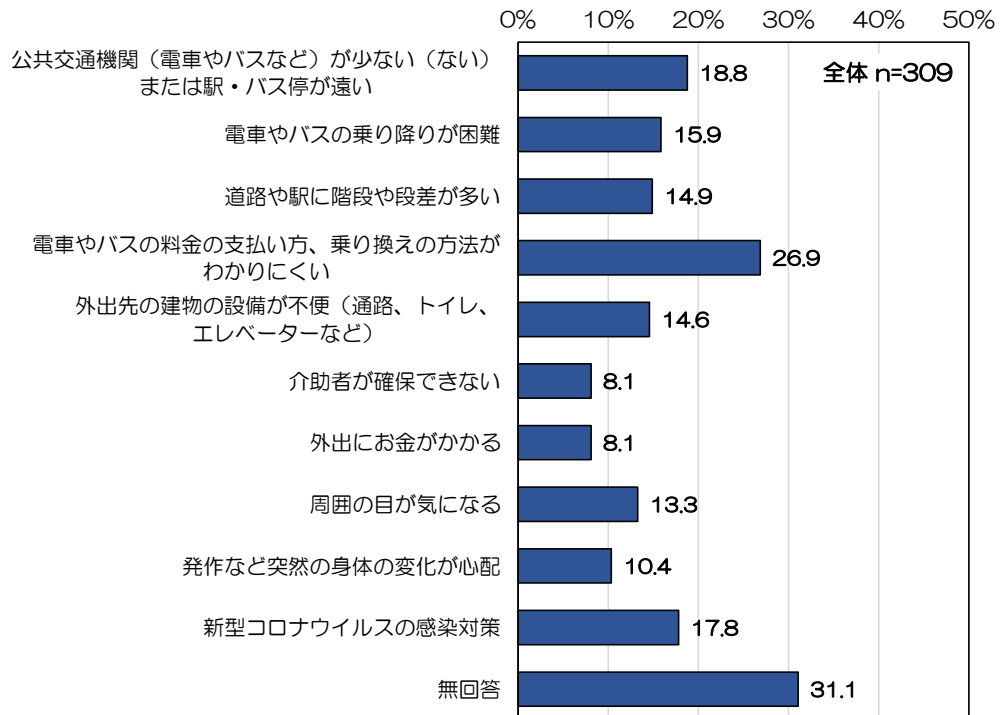
### 問 10 あなたが、外出する際の主な同伴者はどなたですか。(〇は1つ)

外出する際の主な介助者については、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が77.0%で最も高く、次いで「一人で外出する」が13.3%となっています。



**問 11 あなたが外出する際、困ることは何ですか。(〇はいくつでも)**

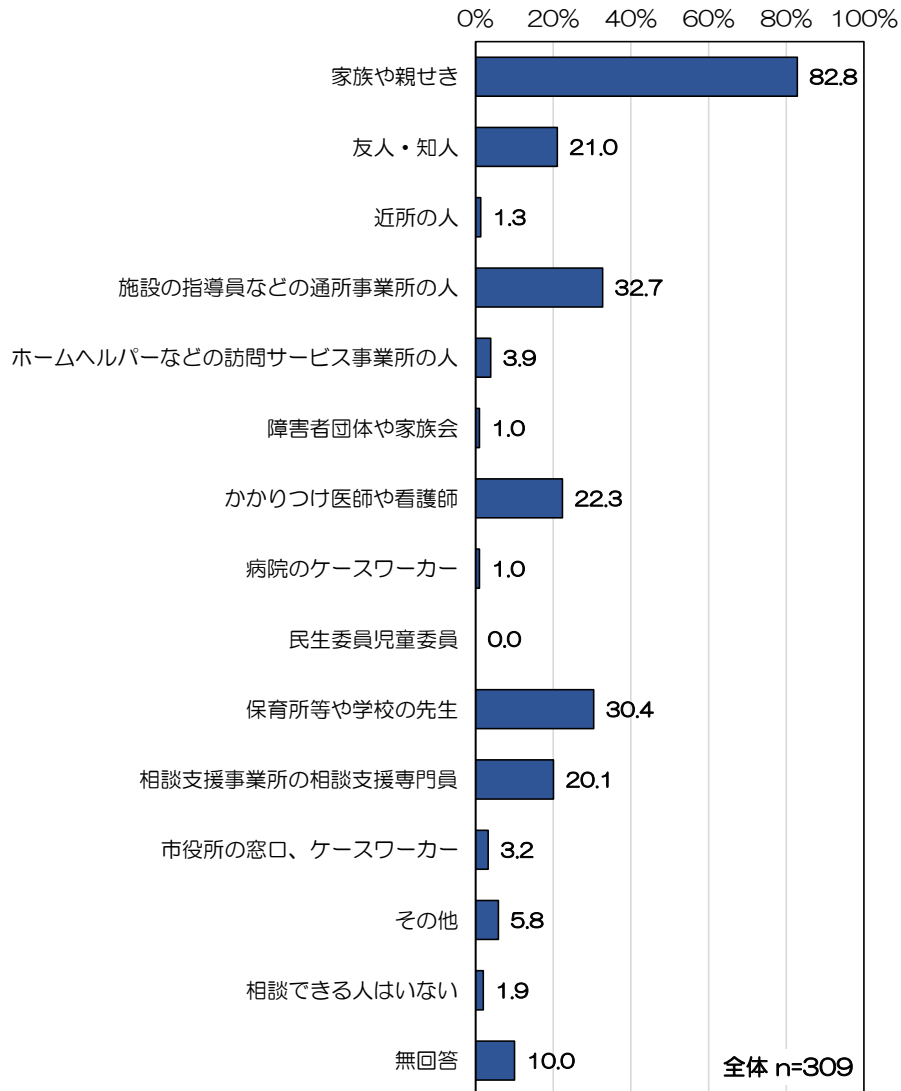
外出する際の困りごとについては、「電車やバスの料金の支払い方、乗り換えの方法がわかりにくい」が26.9%で最も高く、次いで「公共交通機関が少ない、または駅・バス停が遠い」が18.8%、「新型コロナウイルスの感染対策」が17.8%となっています。



## 5 生活全般・社会参加について

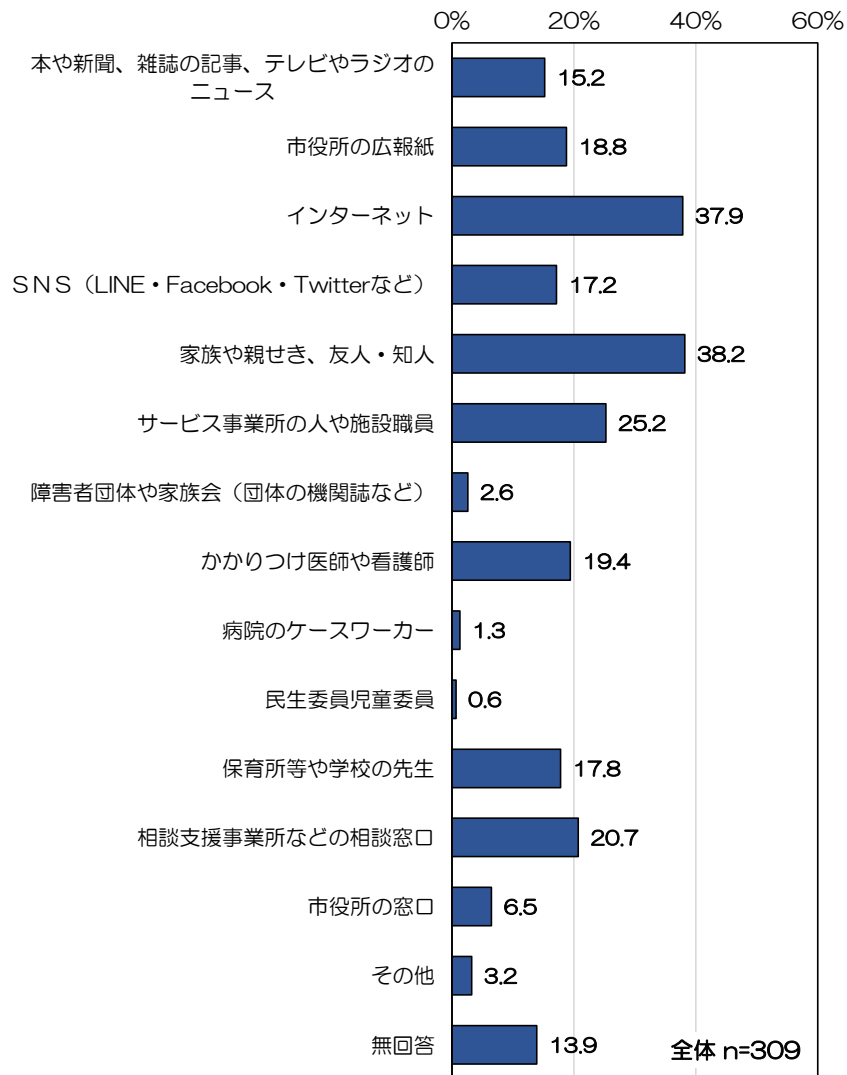
問 12 あなたは、普段、悩みごとや困ったことがあるとき、どなたに相談していますか。  
(〇はいくつでも)

普段の悩みごとや困りごとの相談先については、「家族や親せき」が 82.8%で最も高く、次いで「施設の指導員などの通所事業所の人」が 32.7%、「保育所等や学校の先生」が 30.4%となっています。



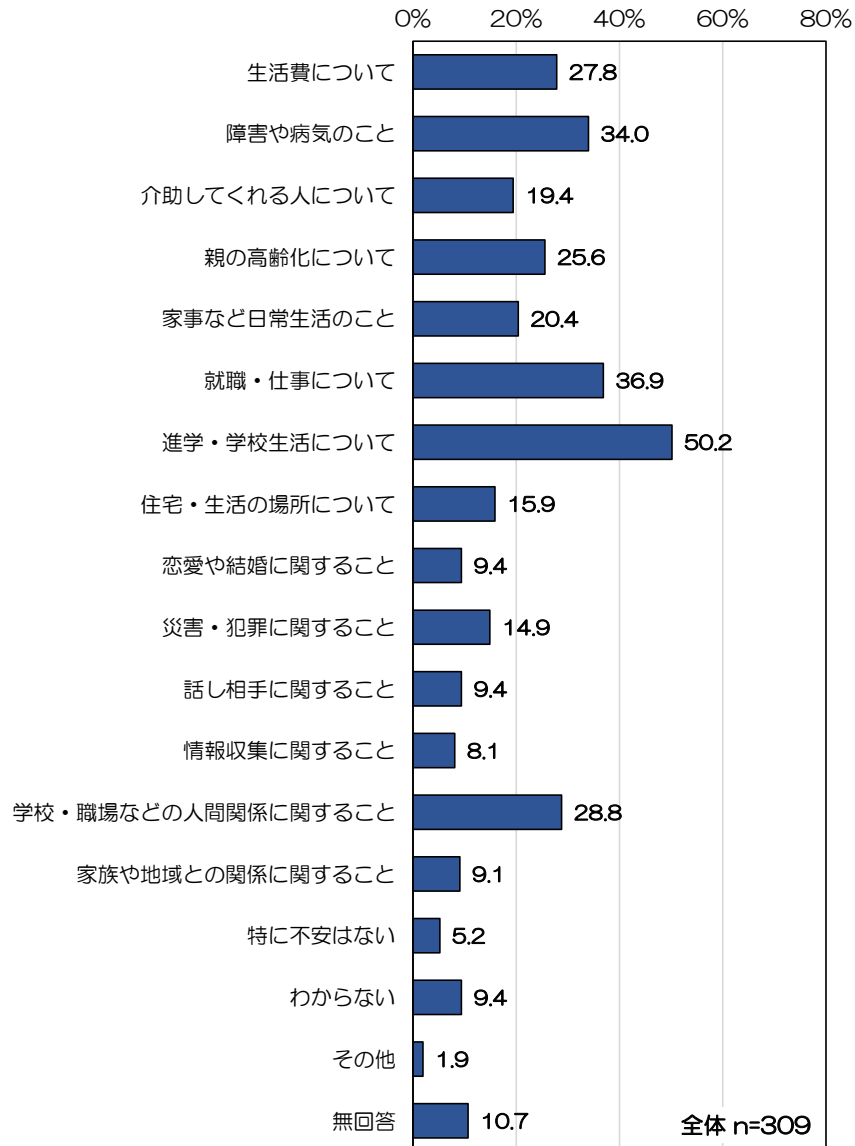
**問 13 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報をどこから知ることが多いですか。  
(〇はいくつでも)**

障害のことや福祉サービスの情報の入手先については、「家族や親せき、友人・知人」が 38.2%で最も高く、次いで「インターネット」が 37.9%、「サービス事業所の人や施設職員」が 25.2%となっています。



**問 14 あなたは、現在や今後の生活で不安に思っていることはありますか。(〇はいくつでも)**

現在や今後の生活で不安に思っていることについては、「進学・学校生活について」が 50.2%で最も高く、次いで「就職・仕事について」が 36.9%、「障害や病気のこと」が 34.0%となっています。

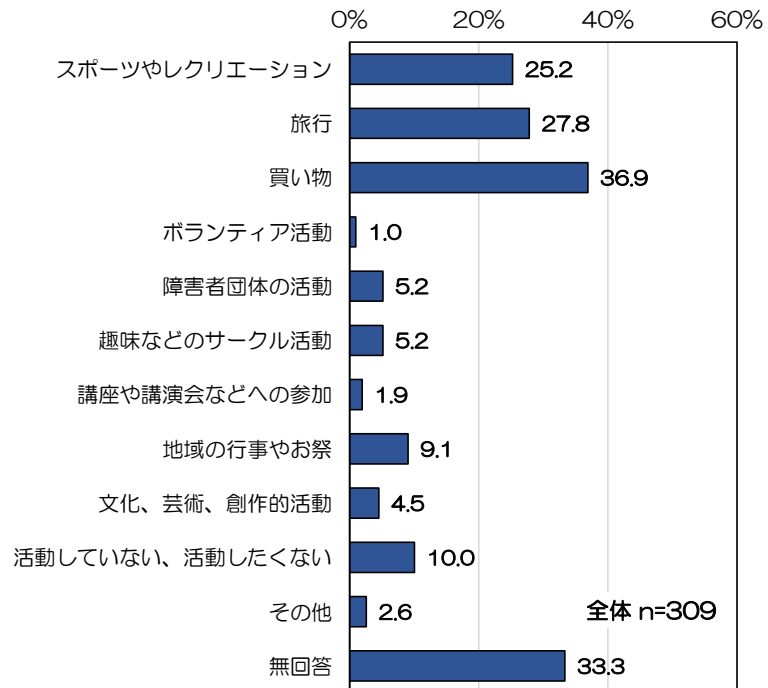




問 15 あなたの現在行っている活動、また、今後したい活動は何ですか。  
(それぞれ〇はいくつでも)

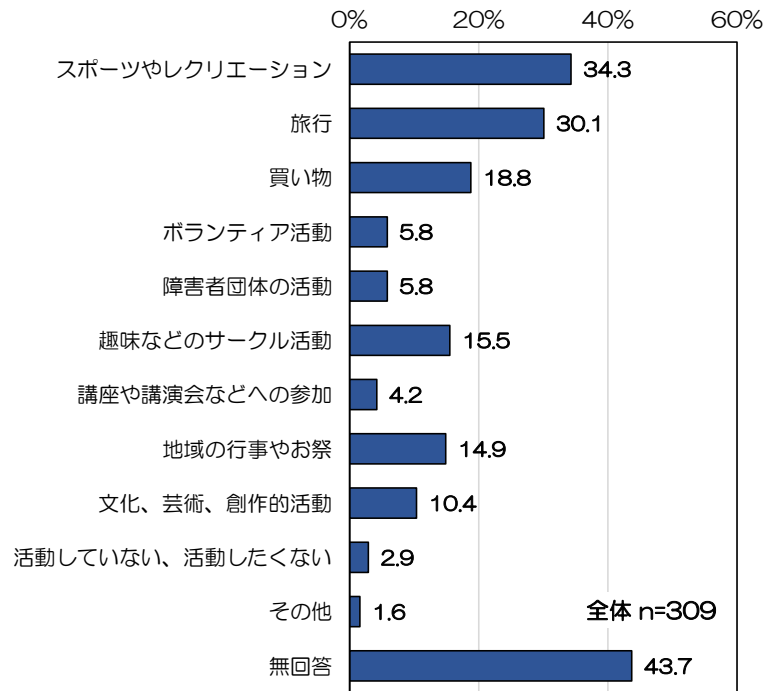
◆現在行っている活動について

現在行っている活動については、「買い物」が36.9%で最も高く、次いで「旅行」が27.8%、「スポーツやレクリエーション」が25.2%となっています。



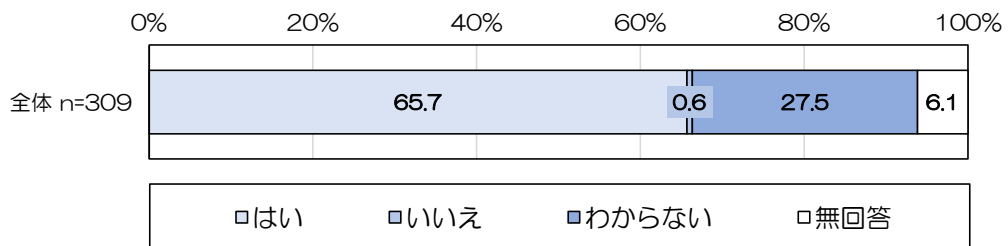
◆今後活動したいことについて

今後活動したいことについては、「スポーツやレクリエーション」が 34.3%で最も高く、次いで「旅行」が 30.1%、「買い物」が 18.8%となっています。



問 16 あなたは、今後も朝霞市に暮らし続けたいですか。(〇は1つ)

今後も朝霞市に暮らし続けたいかについては、「はい」が 65.7%で最も高く、次いで「わからない」が 27.5%、「いいえ」が 0.6%となっています。



## 6 障害福祉サービス等の利用について

問 17 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。  
(項目ごとに1~4のうち、1つに○を付けてください)

### ◆全体 n=309

障害(児)福祉サービスについては、利用状況で3番目に高い「放課後等デイサービス」が、利用意向では最も高くなっています。差をみると、利用意向が23.7ポイント高くなっており、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。

地域生活支援事業については、利用状況、利用意向ともに「相談支援事業(一般的な相談)」が最も高くなっています。「相談支援事業(一般的な相談)」の利用状況に対する利用意向の割合は、14.9ポイント高く、他の事業と比べてもその差は大きくなっています。また、「移動支援事業」「日中一時支援事業」についても、利用状況に対する利用意向の割合が、10ポイント以上高くなっています。

### 障害(児)福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害(児)福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	障害児相談支援(計画相談支援)	44.0	1	相談支援事業(一般的な相談)	10.0
2	児童発達支援	42.7	2	日常生活用具給付事業	5.5
3	放課後等デイサービス	41.7	3	移動支援事業	2.5
4	保育所等訪問支援	15.6	4	日中一時支援事業	0.9
5	居宅介護(ホームヘルプ)	2.9	5	成年後見制度利用支援事業	0.6
			5	地域活動支援センター事業	0.6

※上位5項目を抜粋(以下、同様)

### 障害(児)福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害(児)福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	放課後等デイサービス	65.4	1	相談支援事業(一般的な相談)	24.9
2	障害児相談支援(計画相談支援)	52.5	2	移動支援事業	12.6
3	児童発達支援	43.0	3	日中一時支援事業	11.9
4	保育所等訪問支援	23.7	4	日常生活用具給付事業	8.7
5	行動援護	10.3	4	地域活動支援センター事業	8.7

◆全体 現在の利用状況及び今後の利用意向

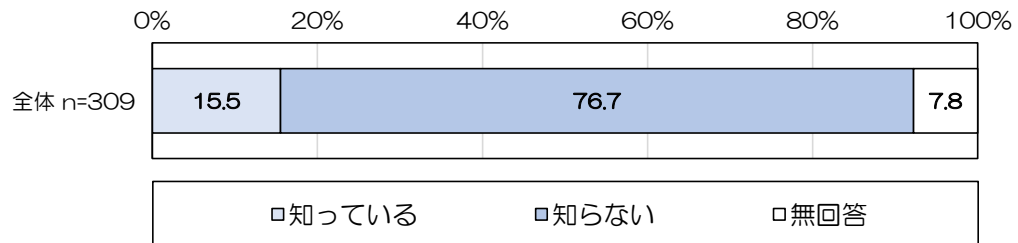
単位：％

n=309	現在利用しており、今後も利用したい	現在利用していないが、3年以内には利用したい	現在利用しているが、今後は利用しない	現在利用しておらず、今後も利用しない	無回答
<b>障害（児）福祉サービス</b>					
①児童発達支援	38.8	4.2	3.9	33.7	19.4
②居宅訪問型児童発達支援	1.3	3.2	0.6	62.8	32.0
③医療型児童発達支援	1.6	6.8	0.0	58.9	32.7
④放課後等デイサービス	41.1	24.3	0.6	19.1	14.9
⑤保育所等訪問支援	13.3	10.4	2.3	46.6	27.5
⑥福祉型障害児入所施設	0.0	2.9	0.0	64.7	32.4
⑦医療型障害児入所施設	0.3	1.9	0.0	65.7	32.0
⑧障害児相談支援（⑭計画相談支援）	43.4	9.1	0.6	23.0	23.9
⑨居宅介護（ホームヘルプ）	2.6	4.9	0.3	60.2	32.0
⑩重度障害者等包括支援	0.0	4.5	0.0	62.5	33.0
⑪短期入所（ショートステイ）	1.3	8.4	0.6	57.3	32.4
⑫同行援護	0.0	7.1	0.6	59.9	32.4
⑬行動援護	0.3	10.0	0.6	56.3	32.7
<b>地域生活支援事業</b>					
⑮障害者理解促進研修・啓発事業	0.0	6.8	0.3	59.9	33.0
⑯相談支援事業（一般的な相談）	9.7	15.2	0.3	43.0	31.7
⑰成年後見制度利用支援事業	0.3	7.4	0.3	57.9	34.0
⑱手話通訳者等派遣事業	0.0	0.0	0.0	67.3	32.7
⑲要約筆記者派遣事業	0.3	0.3	0.0	66.3	33.0
⑳日常生活用具給付事業	5.5	3.2	0.0	59.2	32.0
㉑移動支援事業	1.9	10.7	0.6	54.7	32.0
㉒地域活動支援センター事業	0.3	8.4	0.3	57.3	33.7
㉓日中一時支援事業	0.6	11.3	0.3	55.3	32.4

## 7 権利擁護について

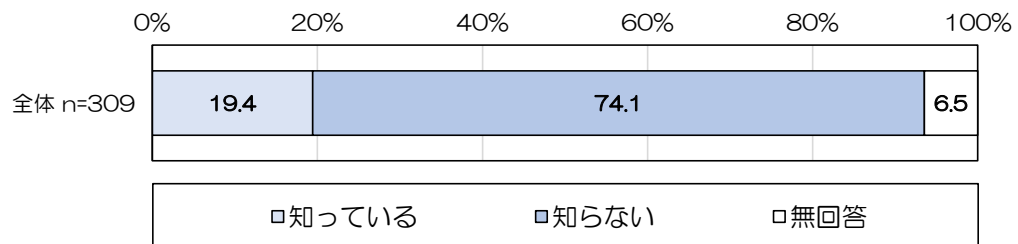
### 問 18 あなたは、「障害者虐待防止センター」をご存じですか。(〇は1つ)

障害者虐待防止センターの認知度については、「知っている」が15.5%、「知らない」が76.7%と、「知らない」が61.2ポイント上回っています。なお、「知っている」は前回(令和2年度)調査時の13.2%から2.3ポイント増加しています。



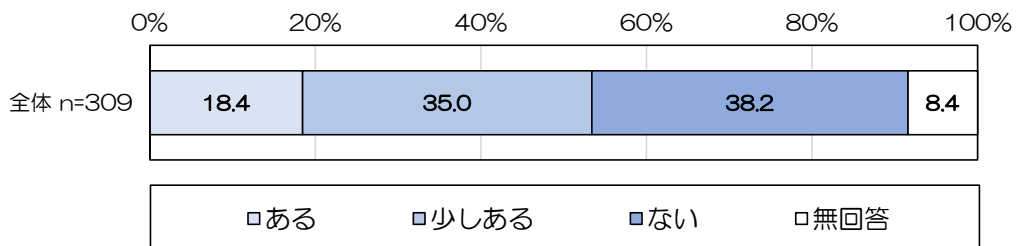
### 問 19 あなたは、「障害者差別解消法」をご存じですか。(〇は1つ)

障害者差別解消法の認知度については、「知っている」が19.4%、「知らない」が74.1%と、「知らない」が54.7ポイント上回っています。なお、「知っている」は前回(令和2年度)調査時の22.4%から3.0ポイント減少しています。



### 問 20 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(〇は1つ)

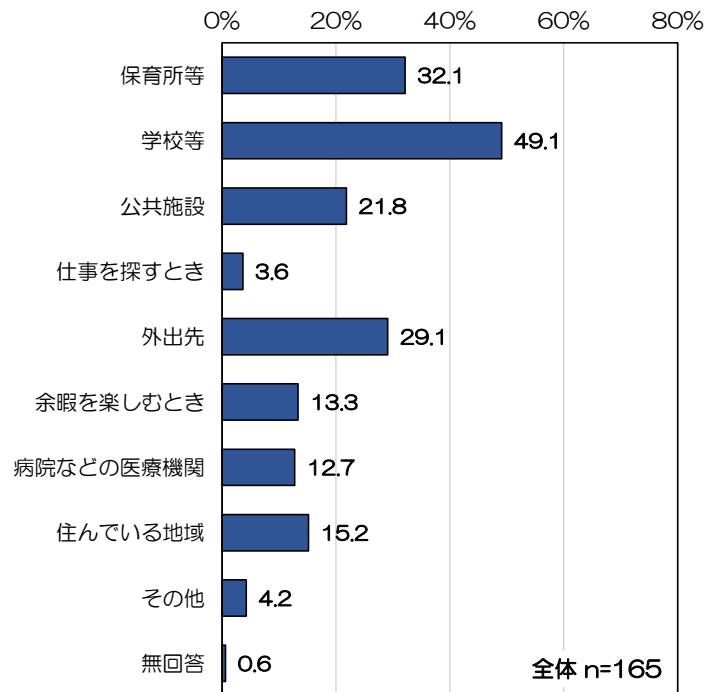
障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがあるかについては、「ない」が38.2%で最も高く、次いで「少しある」が35.0%、「ある」が18.4%となっています。なお、「ある」と「少しある」を合わせた割合は前回(令和2年度)調査時の66.5%から13.1ポイント減少しています。



【問 20 で「ある」または「少しある」と回答した方にお伺いします。】

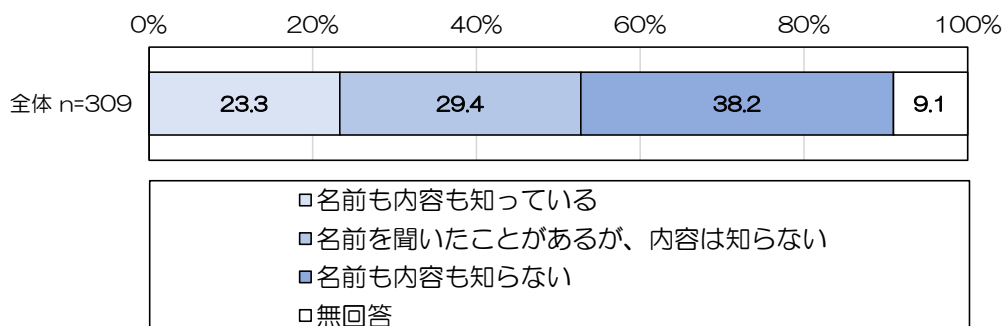
問 20-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(〇はいくつでも)

差別や嫌な思いをした場所については、「学校等」が 49.1%で最も高く、次いで「保育所等」が 32.1%、「外出先」が 29.1%となっています。



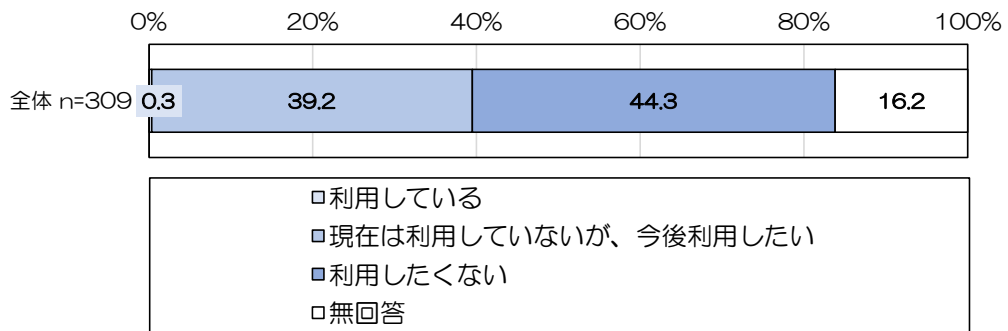
問 21 あなたは、「成年後見制度」をご存じですか。(〇は1つ)

成年後見制度の認知度については、「名前も内容も知らない」が 38.2%で最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 29.4%、「名前も内容も知っている」が 23.3%となっています。なお、「名前も内容も知っている」は前回（令和2年度）調査時の 23.0%から 0.3 ポイント増加しています。



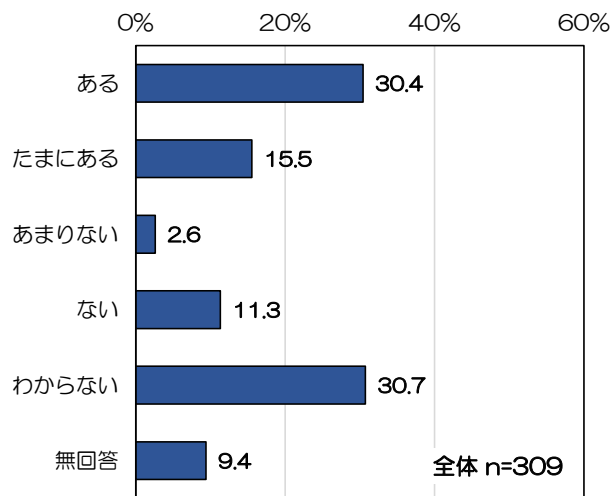
**問 22 「成年後見制度」の利用について (〇は1つ)**

成年後見制度の利用については、「利用したくない」が 44.3%で最も高く、次いで「現在は利用していないが、今後利用したい」が 39.2%、「利用している」が 0.3%となっています。



**問 23 あなたは、自らの意思が反映された生活を送ることができるように、物事を決めるための手伝いが必要だと感じることはありますか。(〇は1つ)**

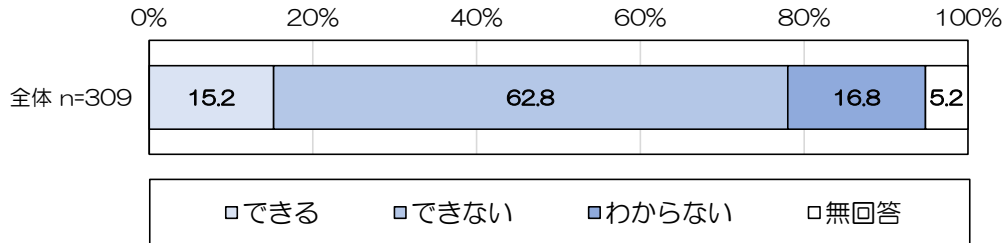
意思決定における支援が必要だと感じることの有無については、「わからない」が 30.7%で最も高く、次いで「ある」が 30.4%、「たまにある」が 15.5%となっています。



## 8 災害時の避難等について

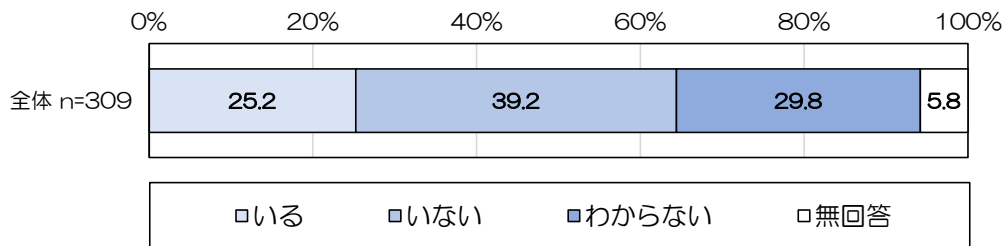
### 問 24 あなたは、地震や水害等の災害時に一人で避難できますか。(〇は1つ)

地震や水害等の災害時に一人で避難できるかについては、「できない」が 62.8%で最も高く、次いで「わからない」が 16.8%、「できる」が 15.2%となっています。



### 問 25 家族が不在の場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つ)

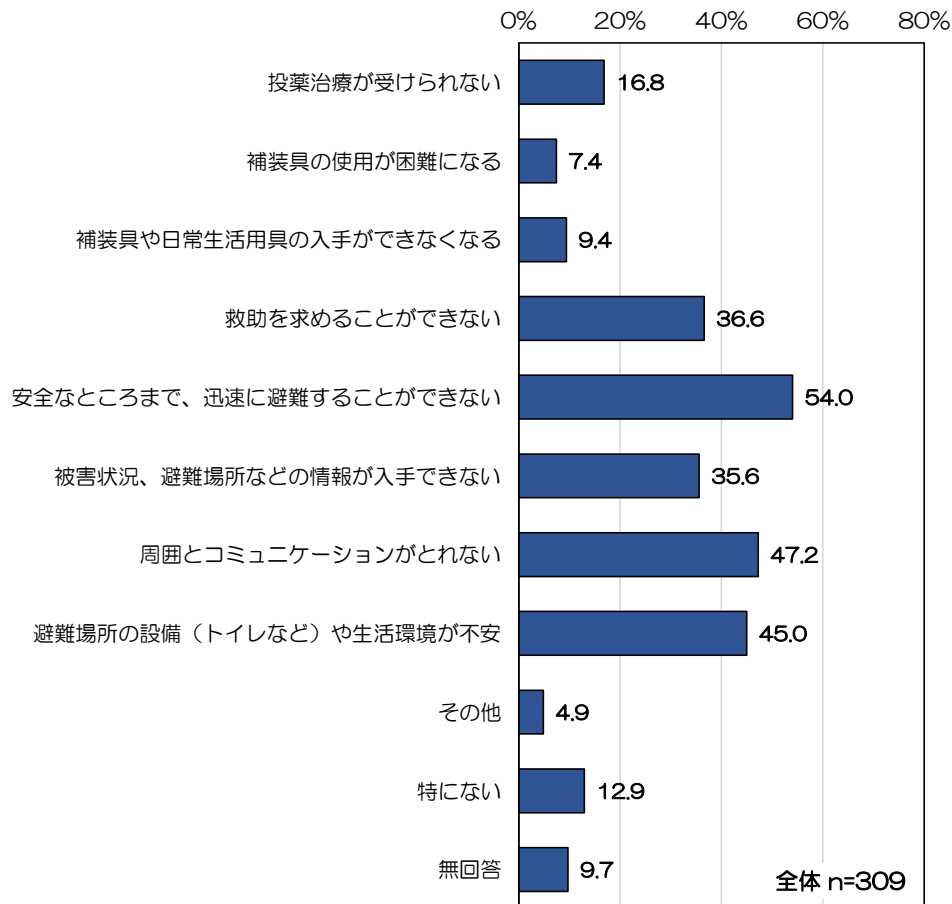
家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人の有無については、「いない」が 39.2%で最も高く、次いで「わからない」が 29.8%、「いる」が 25.2%となっています。





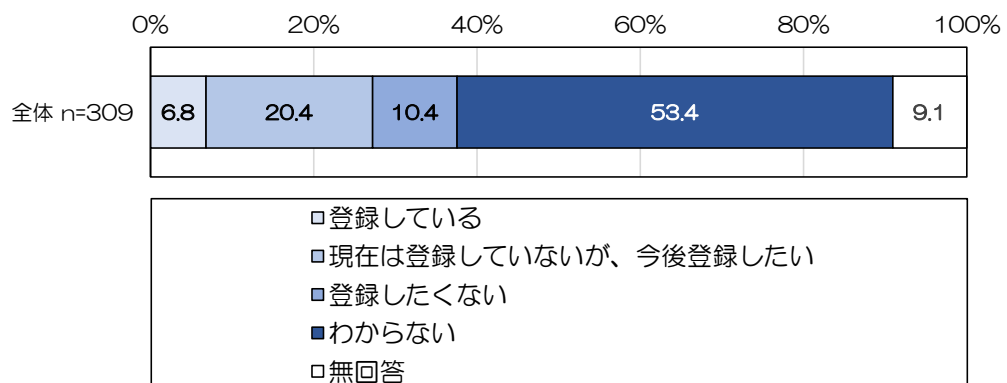
**問 26 地震や水害等の災害時に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)**

地震や水害等の災害時に困ることについては、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が54.0%で最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が47.2%、「避難場所の設備や生活環境が不安」が45.0%となっています。



**問 27 市が実施する避難行動要支援者台帳登録制度について (〇は1つ)**

避難行動要支援者名簿登録制度については、「わからない」が53.4%で最も高く、次いで「現在は登録していないが、今後登録したい」が20.4%、「登録したくない」が10.4%となっています。



## 9 朝霞市のまちづくりについて

問 28 障害のある人の住みやすいまちづくりについて、①から④のそれぞれについて、「満足度」と「今後の重要性」の両方にお答えください。(番号に○)

◆全体 n=309

満足度 「満足」

No.	項目	%
1	障害のある人のための教育の充実	6.5
1	保育所等での障害児療育の推進	6.5
3	障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	4.9
4	障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	4.5
4	障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	4.5

満足度 「不満」

No.	項目	%
1	障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	30.4
2	福祉分野の専門的な人材の確保・養成	30.1
3	福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	29.4
4	保育所等での障害児療育の推進	28.8
5	働く場の確保	27.2

今後の重要性 「重要」

No.	項目	%
1	障害のある人のための教育の充実	75.1
1	働く場の確保	75.1
3	障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	73.1
4	福祉分野の専門的な人材の確保・養成	71.2
5	保育所等での障害児療育の推進	70.2

## ◆全体 満足度 n=309

単位：%

	満足	普通	不満	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	4.5	<b>63.1</b>	18.8	13.6
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	3.9	<b>65.0</b>	16.8	14.2
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	2.9	<b>64.4</b>	16.2	16.5
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	1.6	<b>61.8</b>	19.1	17.5
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	1.9	<b>60.2</b>	21.0	16.8
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	2.3	<b>59.2</b>	21.7	16.8
⑦障害のある人のための教育の充実	6.5	<b>52.8</b>	24.9	15.9
⑧働く場の確保	2.6	<b>53.1</b>	27.2	17.2
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	3.2	<b>63.8</b>	17.2	15.9
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	2.6	<b>62.8</b>	19.1	15.5
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	4.5	<b>49.2</b>	30.4	15.9
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	1.9	<b>59.5</b>	22.3	16.2
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	3.2	<b>62.1</b>	17.8	16.8
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	2.3	<b>66.0</b>	14.9	16.8
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	3.2	<b>51.1</b>	30.1	15.5
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	3.6	<b>51.5</b>	29.4	15.5
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	4.9	<b>52.8</b>	26.2	16.2
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	3.2	<b>66.3</b>	12.0	18.4
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	1.0	<b>66.3</b>	16.2	16.5
⑳保育所等での障害児療育の推進	6.5	<b>48.9</b>	28.8	15.9
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	3.6	<b>54.0</b>	26.5	15.9
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	3.6	<b>63.1</b>	17.5	15.9
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	4.2	<b>65.7</b>	13.6	16.5
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	2.9	<b>67.3</b>	12.9	16.8

◆全体 今後の重要性 n=309

単位：%

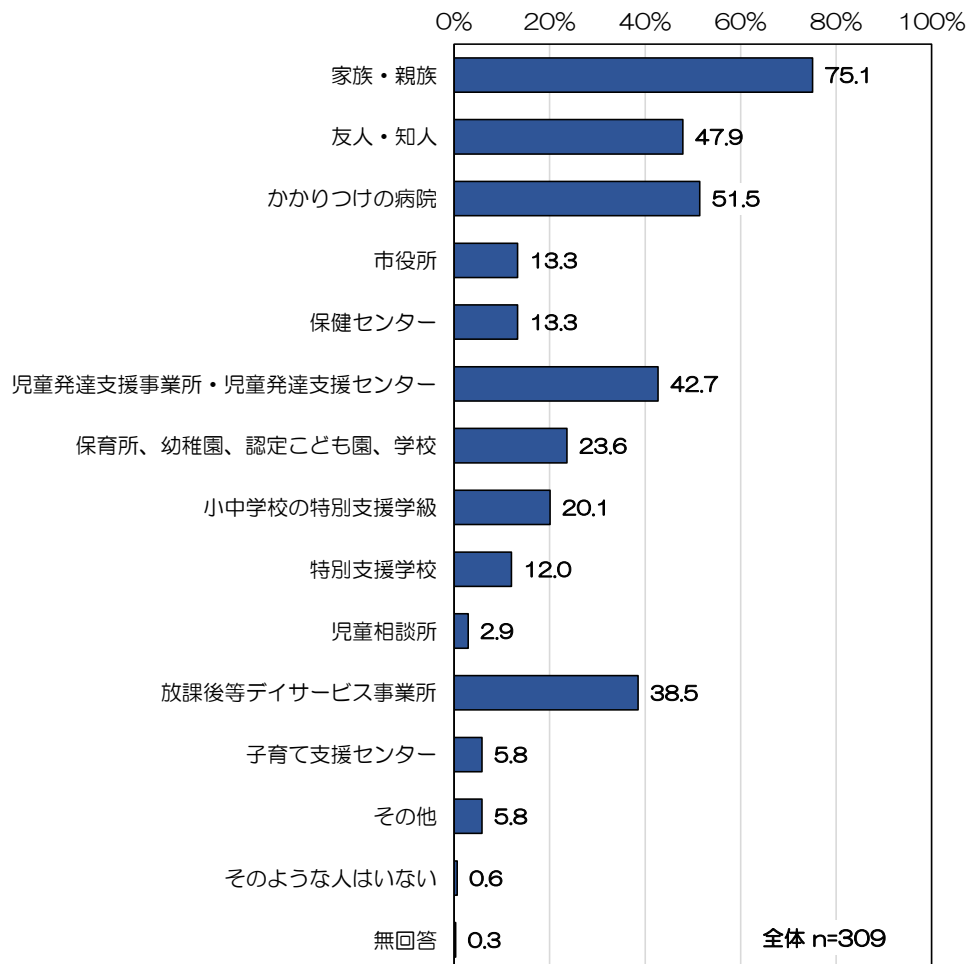
	重要	どちらでもない	重要ではない	無回答
①障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実	67.6	18.1	0.3	13.9
②地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	63.1	21.4	0.6	14.9
③福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実	59.2	24.6	0.3	15.9
④重度の障害のある人のための入所施設の整備	59.5	23.9	0.6	15.9
⑤グループホームなど地域での生活の場の整備	59.9	23.3	1.0	15.9
⑥リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	67.6	17.2	0.3	14.9
⑦障害のある人のための教育の充実	75.1	10.0	0.3	14.6
⑧働く場の確保	75.1	10.7	0.6	13.6
⑨参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備	58.3	25.9	1.0	14.9
⑩障害のある人とない人が交流する場の充実	46.9	36.9	1.9	14.2
⑪障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	73.1	11.7	0.3	14.9
⑫障害のある人のための住まいの確保・供給	61.2	23.6	0.6	14.6
⑬災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施	64.1	21.0	0.6	14.2
⑭悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実	62.8	22.0	1.3	13.9
⑮福祉分野の専門的な人材の確保・養成	71.2	14.6	0.3	13.9
⑯福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	59.2	25.2	0.6	14.9
⑰障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実	65.7	19.4	0.3	14.6
⑱ボランティアの育成とネットワーク化	46.3	36.9	1.3	15.5
⑲障害のある人に対する差別解消及び虐待防止の取組	64.1	21.0	0.6	14.2
⑳保育所等での障害児療育の推進	70.2	16.2	0.6	12.9
㉑障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境	69.9	15.9	0.3	13.9
㉒生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる	60.5	24.6	0.6	14.2
㉓障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる	54.4	30.4	1.3	13.9
㉔高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用	47.2	35.3	2.9	14.6

## 【 保護者票 】

### 1 相談について

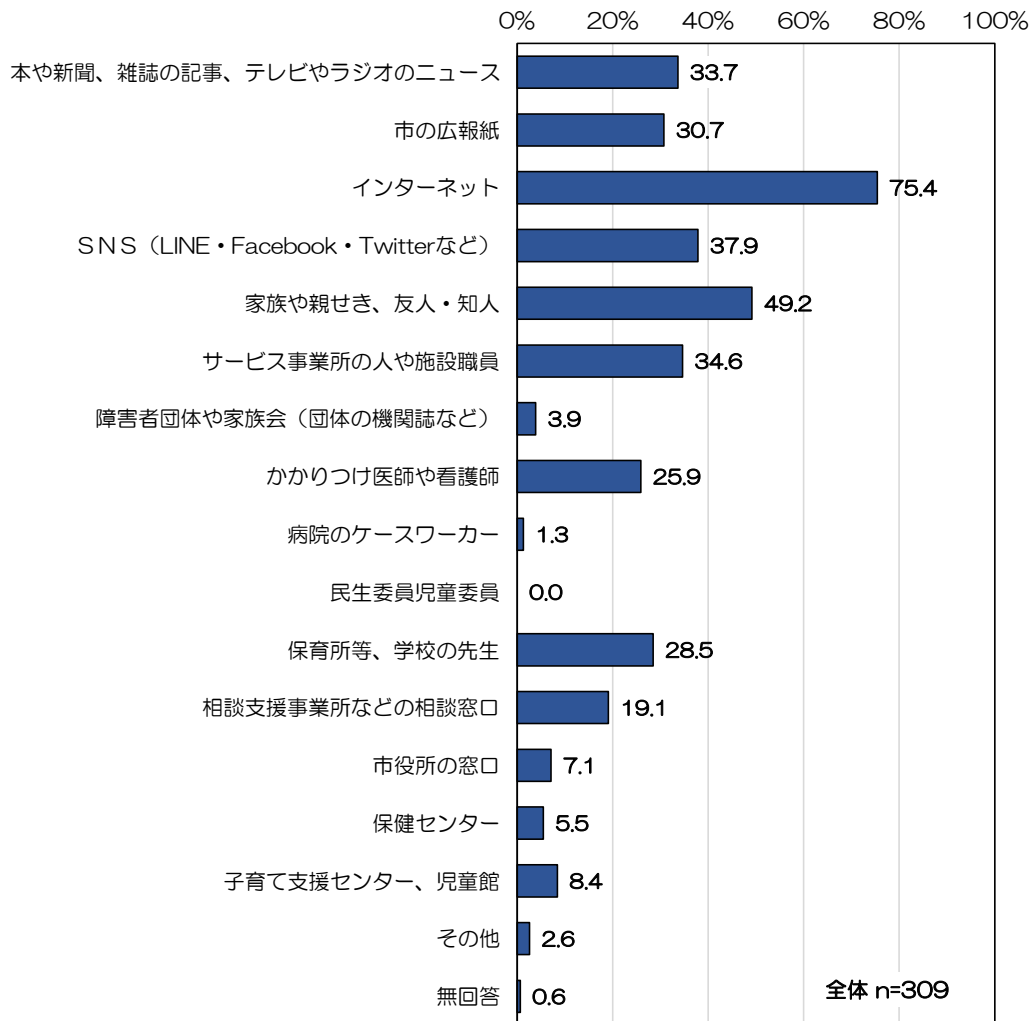
問1 お子さんの子育てをする上で、不安になったとき、誰に（どこに）相談しますか。  
（〇はいくつでも）

お子さんの子育てをする上で、不安になったときの相談先については、「家族・親族」が 75.1%で最も高く、次いで「かかりつけの病院」が51.5%、「友人・知人」が47.9%となっています。



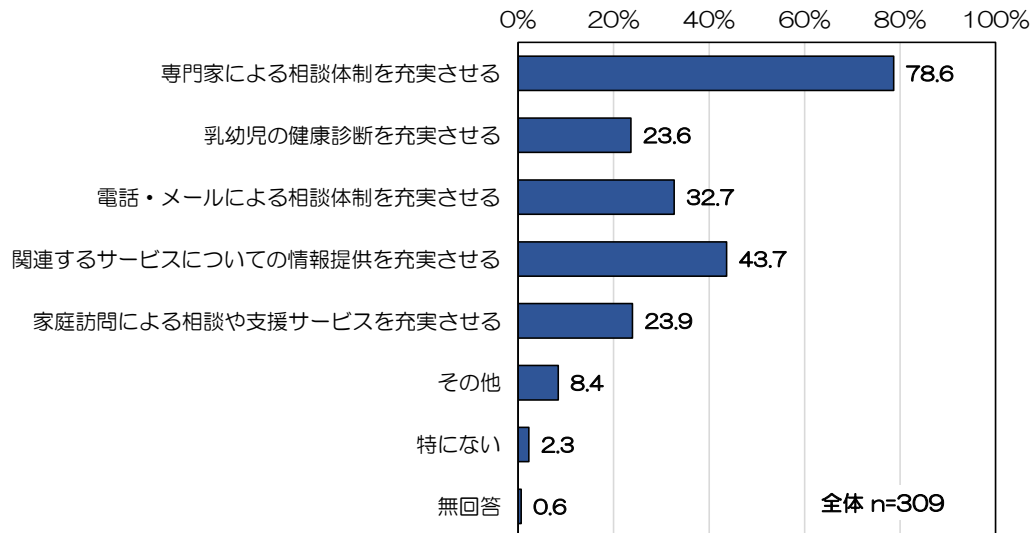
問2 子育てに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(〇はいくつでも)

子育て関連の情報の入手先については、「インターネット」が 75.4%で最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が 49.2%、「SNS」が 37.9%となっています。



**問3 子育てをする上で、不安になったとき、早期に適切な支援を受けるために必要なことは何だ  
と思いますか。(〇はいくつでも)**

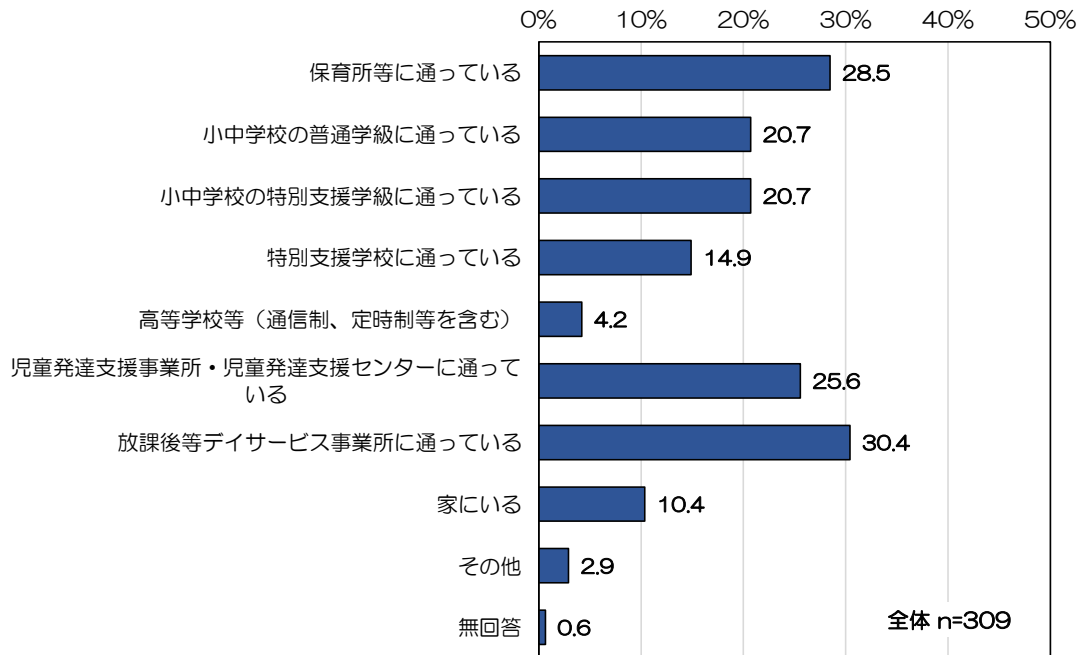
子育てをする上で、不安になったとき、早期に適切な支援を受けるために必要なことについては、「専門家による相談体制を充実させる」が78.6%で最も高く、次いで「関連するサービスについての情報提供を充実させる」が43.7%、「電話・メールによる相談体制を充実させる」が32.7%となっています。



## 2 お子さんの日中活動・教育について

### 問4 お子さんは、平日の日中、どのように過ごしていますか。(〇はいくつでも)

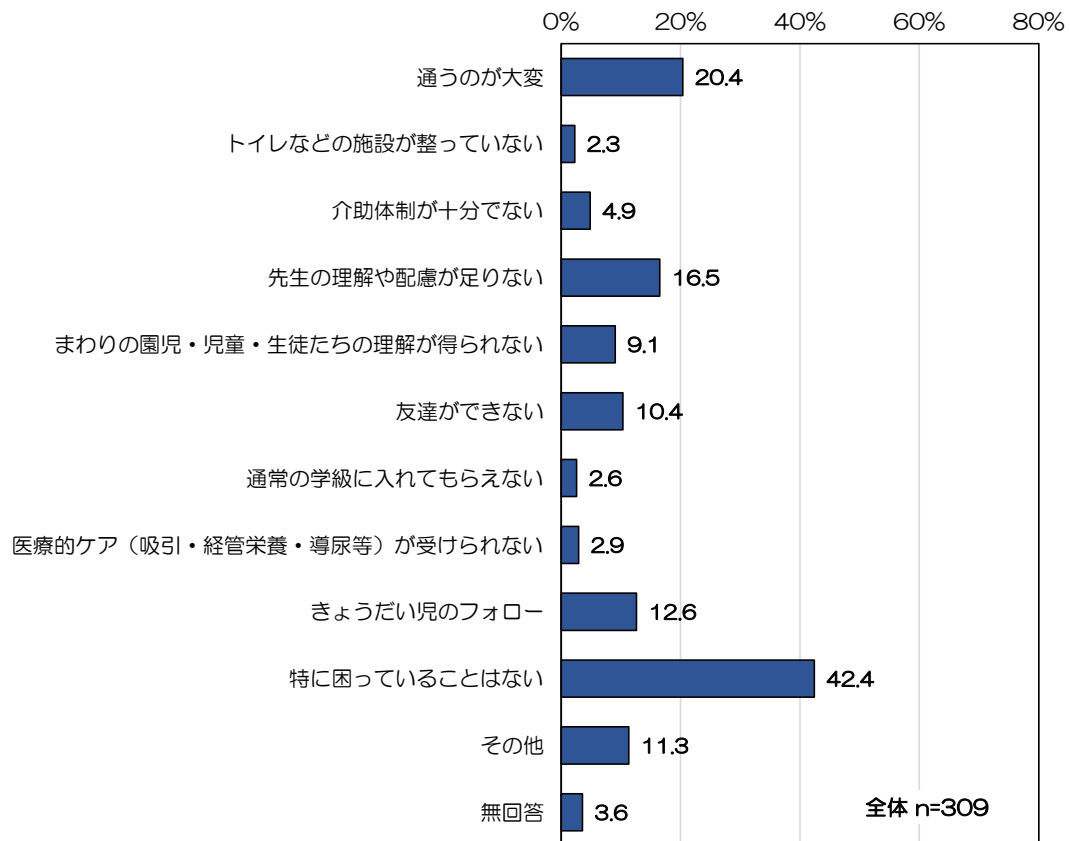
お子さんの平日の日中の過ごし方については、「放課後等デイサービス事業所に通っている」が30.4%で最も高く、次いで「保育所等に通っている」が28.5%、「児童発達支援事業所・児童発達支援センターに通っている」が25.6%となっています。





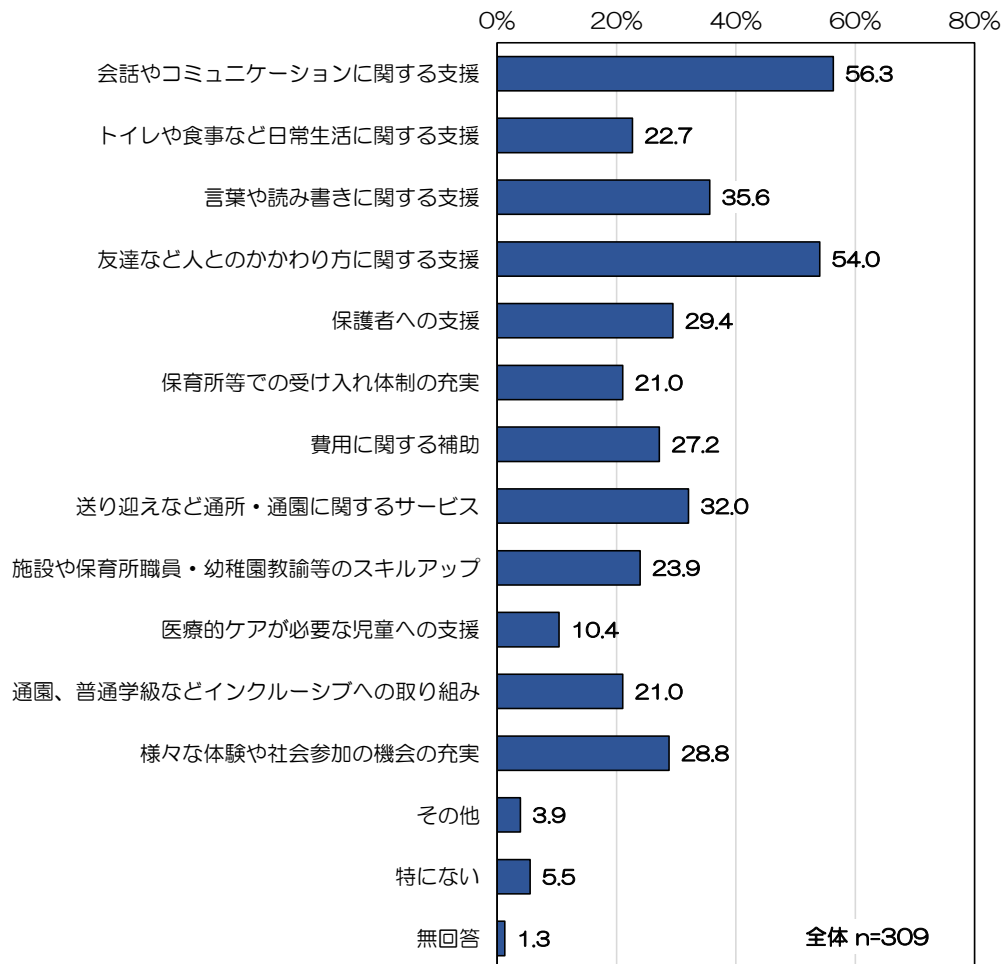
**問5 保育所等、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、学校などに通っていて困ることはありますか。(〇はいくつでも)**

保育所等に通っていて困ることについては、「特に困っていることはない」が42.4%で最も高く、次いで「通うのが大変」が20.4%、「先生の理解や配慮が足りない」が16.5%となっています。



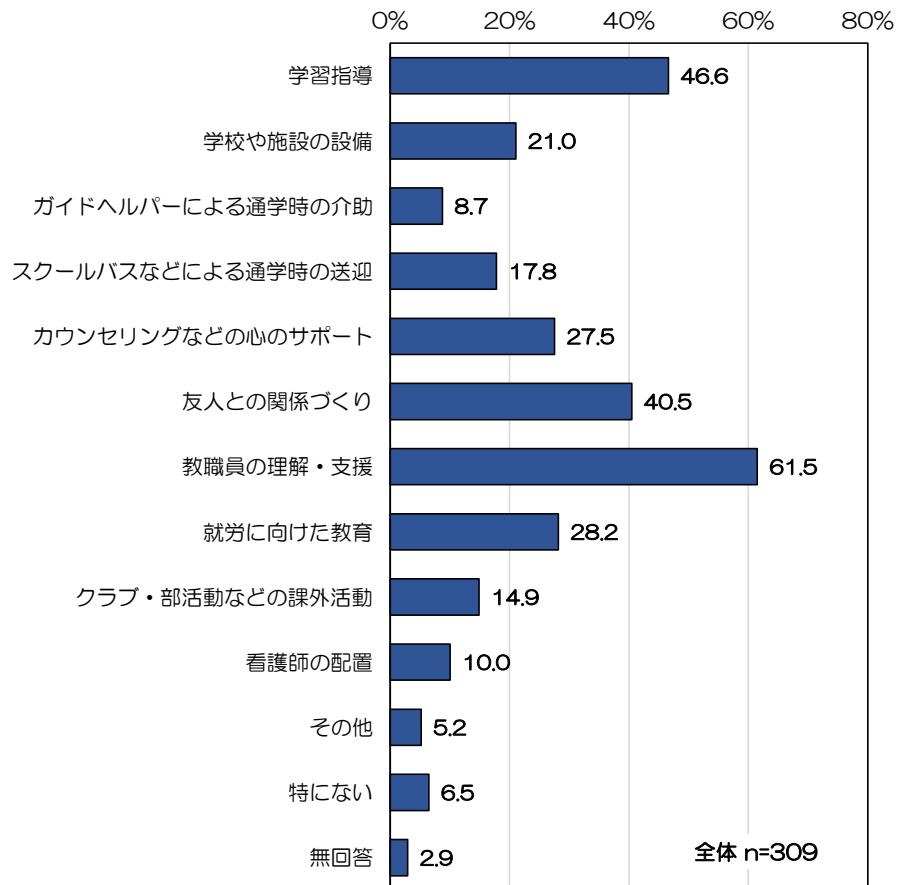
**問6 お子さんが受けている支援等について、充実させるべきだと思う点がありますか。  
(〇はいくつでも)**

お子さんが受けている支援等について、充実させるべきと思う点については、「会話やコミュニケーションに関する支援」が 56.3%で最も高く、次いで「友達など人とのかかわり方に関する支援」が 54.0%、「言葉や読み書きに関する支援」が 35.6%となっています。



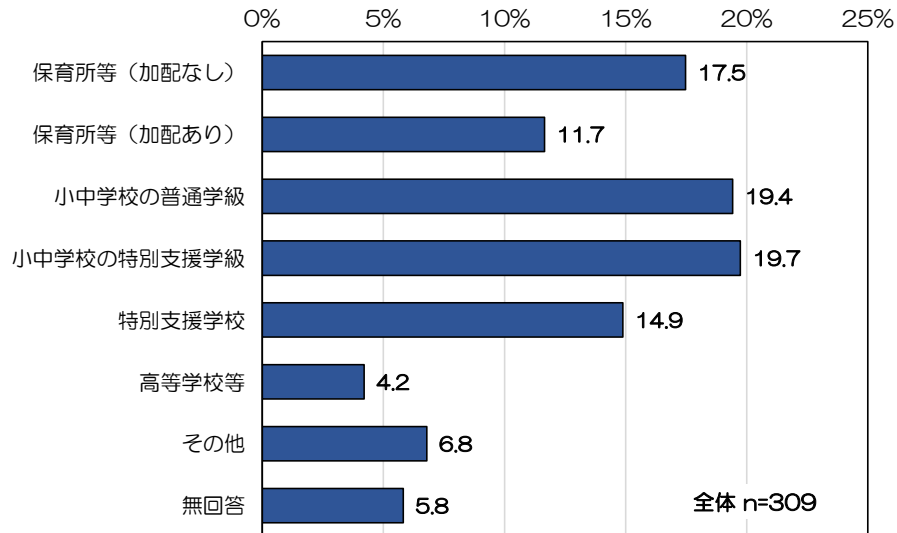
**問7** お子さんが受けている教育や、学校生活について、充実させるべきと思う点がありますか。  
 なお、お子さんが就学前の場合は、就学後を想定してお答えください。(〇はいくつでも)

お子さんが受けている教育や、学校生活について、充実させるべきと思う点については、「教職員の理解・支援」が61.5%で最も高く、次いで「学習指導」が46.6%、「友人との関係づくり」が40.5%となっています。



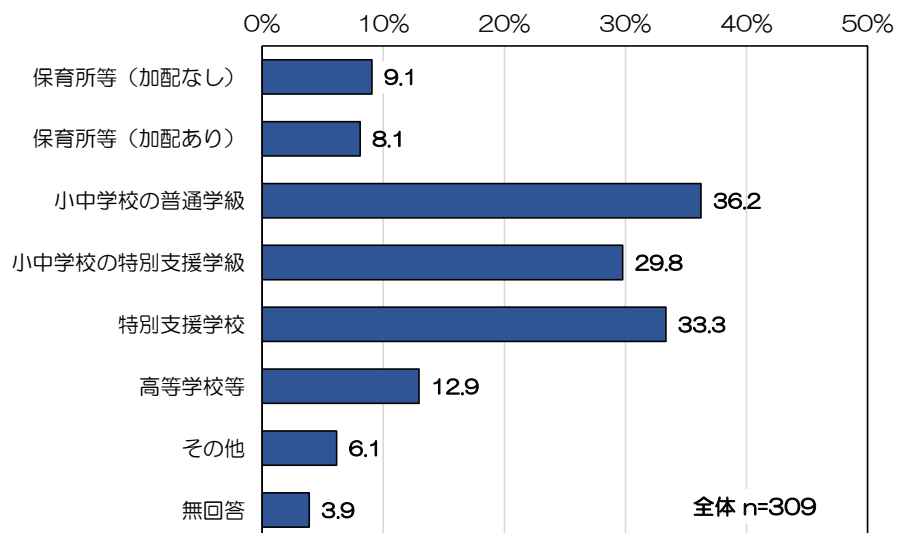
**問8 現在の就園・就学状況について、利用しているものを教えてください。(〇は1つ)**

現在の就園・就学において、利用しているものについては、「小中学校の特別支援学級」が19.7%で最も高く、次いで「小中学校の普通学級」が19.4%、「保育所等（加配なし）」が17.5%となっています。



**問9 今後の就園・就学について、利用を考えているものを教えてください。(〇はいくつでも)**

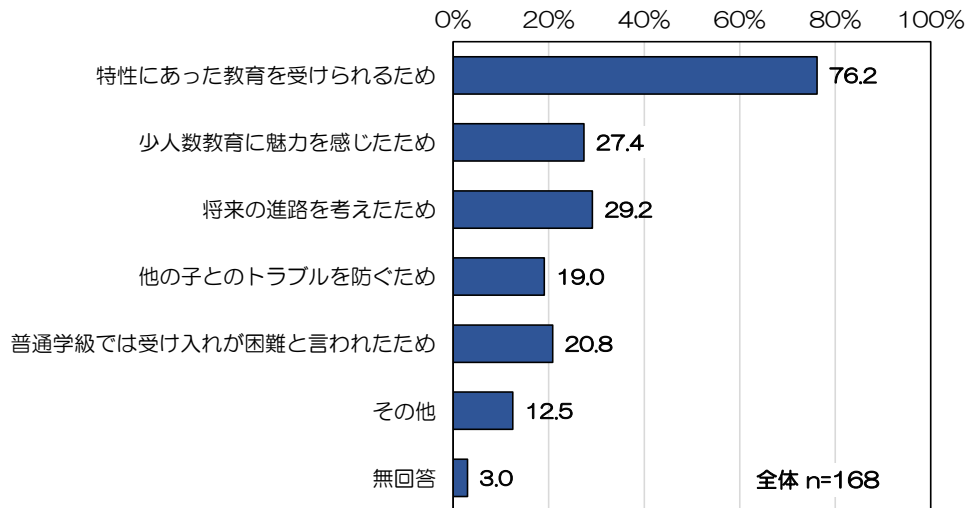
今後の就園・就学において、利用を考えているものについては、「小中学校の普通学級」が36.2%で最も高く、次いで「特別支援学校」が33.3%、「小中学校の特別支援学級」が29.8%となっています。



【問9で「小中学校の特別支援学級」「特別支援学校」と回答した方にお伺いします。】

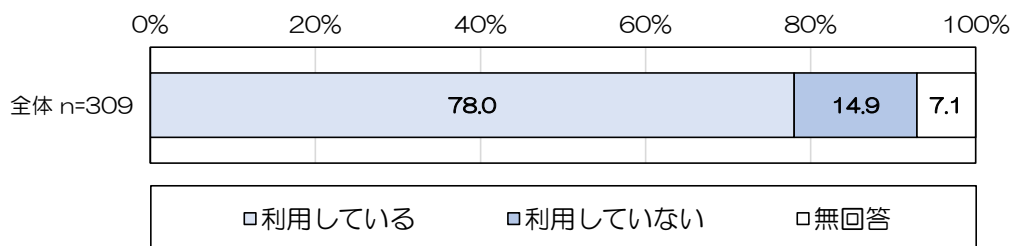
問9-1 「小中学校の特別支援学級」「特別支援学校」を選択した理由は何ですか。  
(〇はいくつでも)

小中学校の特別支援学級・特別支援学校を選択した理由については、「特性にあった教育を受けられるため」が76.2%で最も高く、次いで「将来の進路を考えたため」が29.2%、「少人数教育に魅力を感じたため」が27.4%となっています。



問10 児童発達支援や放課後等デイサービスを利用していますか。(〇は1つ)

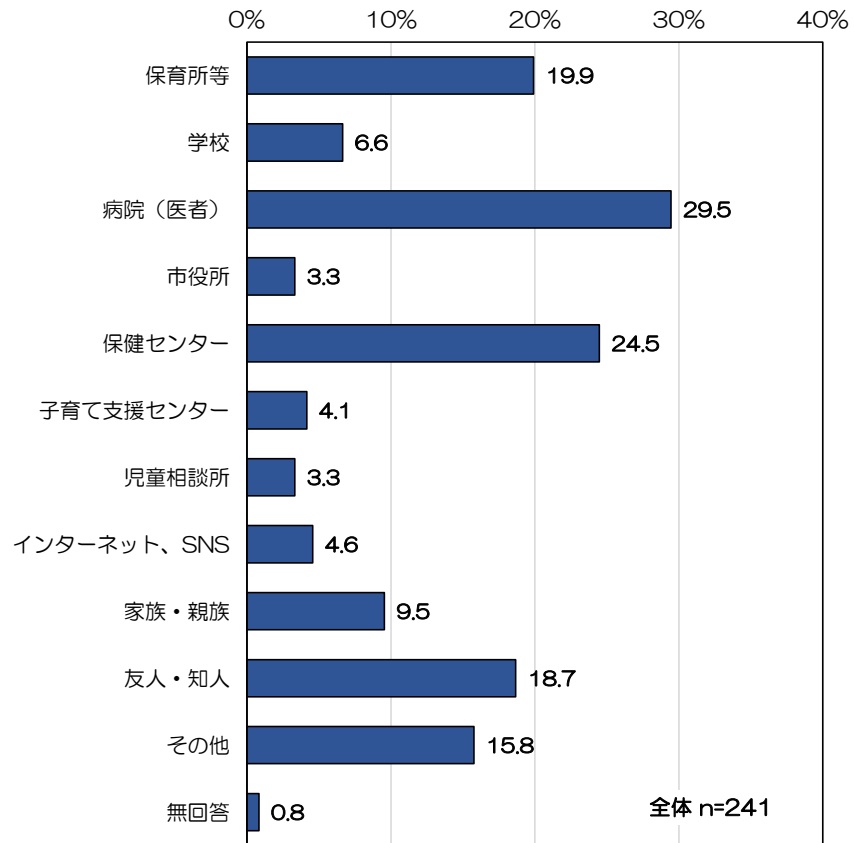
児童発達支援や放課後等デイサービスの利用状況については、「利用している」が78.0%、「利用していない」が14.9%となっています。



【問 10で「利用している」と回答した方にお伺いします。】

問 10-1 療育をすすめられたところはどこですか。(〇はいくつでも)

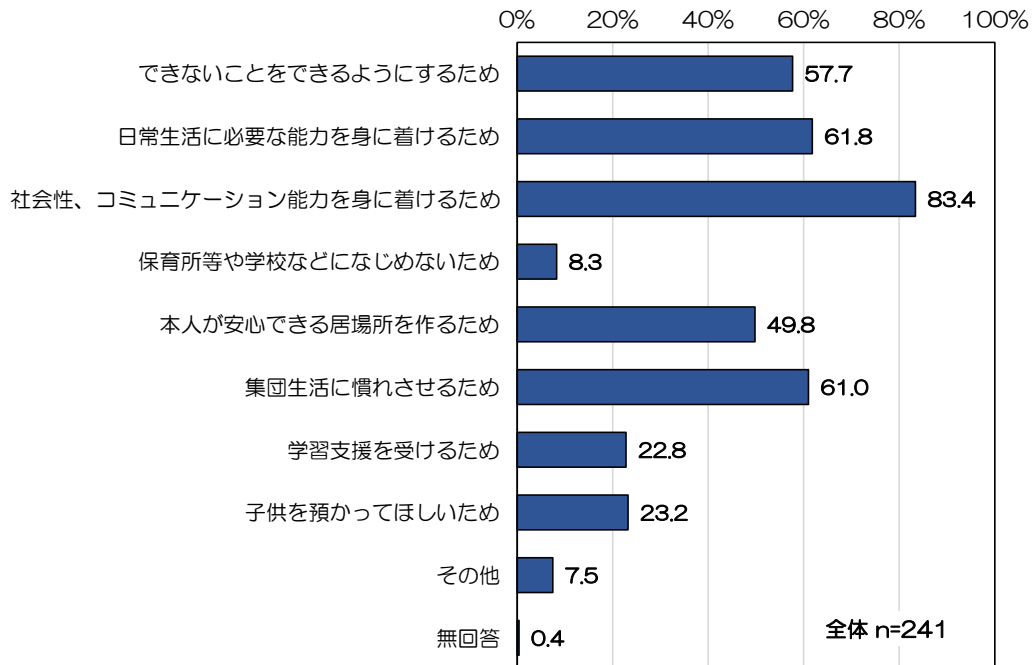
療育をすすめられた場所については、「病院（医者）」が29.5%で最も高く、次いで「保健センター」が24.5%、「保育所等」が19.9%となっています。



【問 10で「利用している」と回答した方にお伺いします。】

問 10-2 利用している目的は何ですか。(〇はいくつでも)

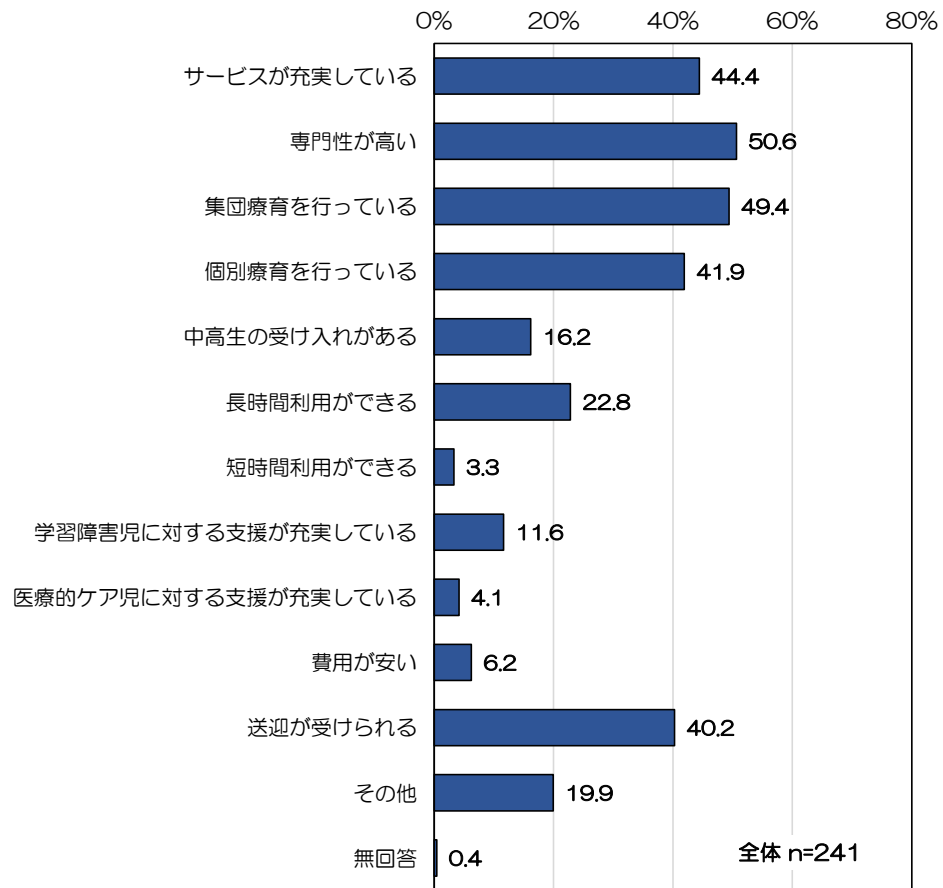
児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している目的については、「社会性、コミュニケーション能力を身に着けるため」が83.4%で最も高く、次いで「日常生活に必要な能力を身に着けるため」が61.8%、「集団生活に慣れさせるため」が61.0%となっています。



【問 10で「利用している」と回答した方にお伺いします。】

問 10-3 施設を選ぶ際に重視する点は何ですか。(〇はいくつでも)

児童発達支援や放課後等デイサービスの施設を選ぶ際に重視する点については、「専門性が高い」が50.6%で最も高く、次いで「集団療育を行っている」が49.4%、「サービスが充実している」が44.4%となっています。





## 【問 10 で「利用している」と回答した方にお伺いします。】

問 10-4 利用した結果、ご家庭や保育所等、学校などでどう生かされていますか。ご自由にお書きください。

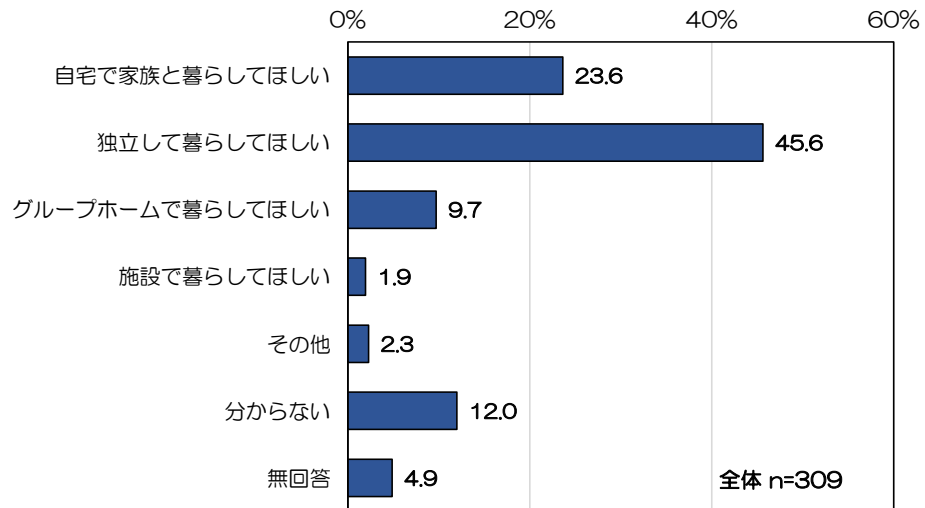
児童発達支援や放課後等デイサービスを利用した結果、ご家庭や保育所等、学校などでどう生かされているかについては、206 人の方より 256 件のご意見をいただきました。同様のご意見を整理し、12 項目に分類したところ、「言葉の面での変化が見られたりコミュニケーションが上手になった」が 75 件で最も多く、次いで「家族に変化があった（家族の負担や困り事が減った、情報共有できる、家での取り組み方が分かった等）」が 44 件、「日常生活（食事・生活リズム・身の回りのこと等）が改善された」が 31 件となっています。

No.	項目	件数
1	言葉の面での変化が見られたりコミュニケーションが上手になった	75
2	家族に変化があった（家族の負担や困り事が減った、情報共有できる、家での取り組み方が分かった等）	44
3	日常生活（食事・生活リズム・身の回りのこと等）が改善された	31
4	集団生活に慣れてきた	20
5	自信がついた・前向きになった	19
6	社会性が身についた	11
7	精神的に落ち着いた	9
8	学習能力があがった	8
9	学校生活が改善された	4
10	わからない	4
11	ない・あまりない	4
12	その他	27
合計		256

### 3 お子さんの将来について

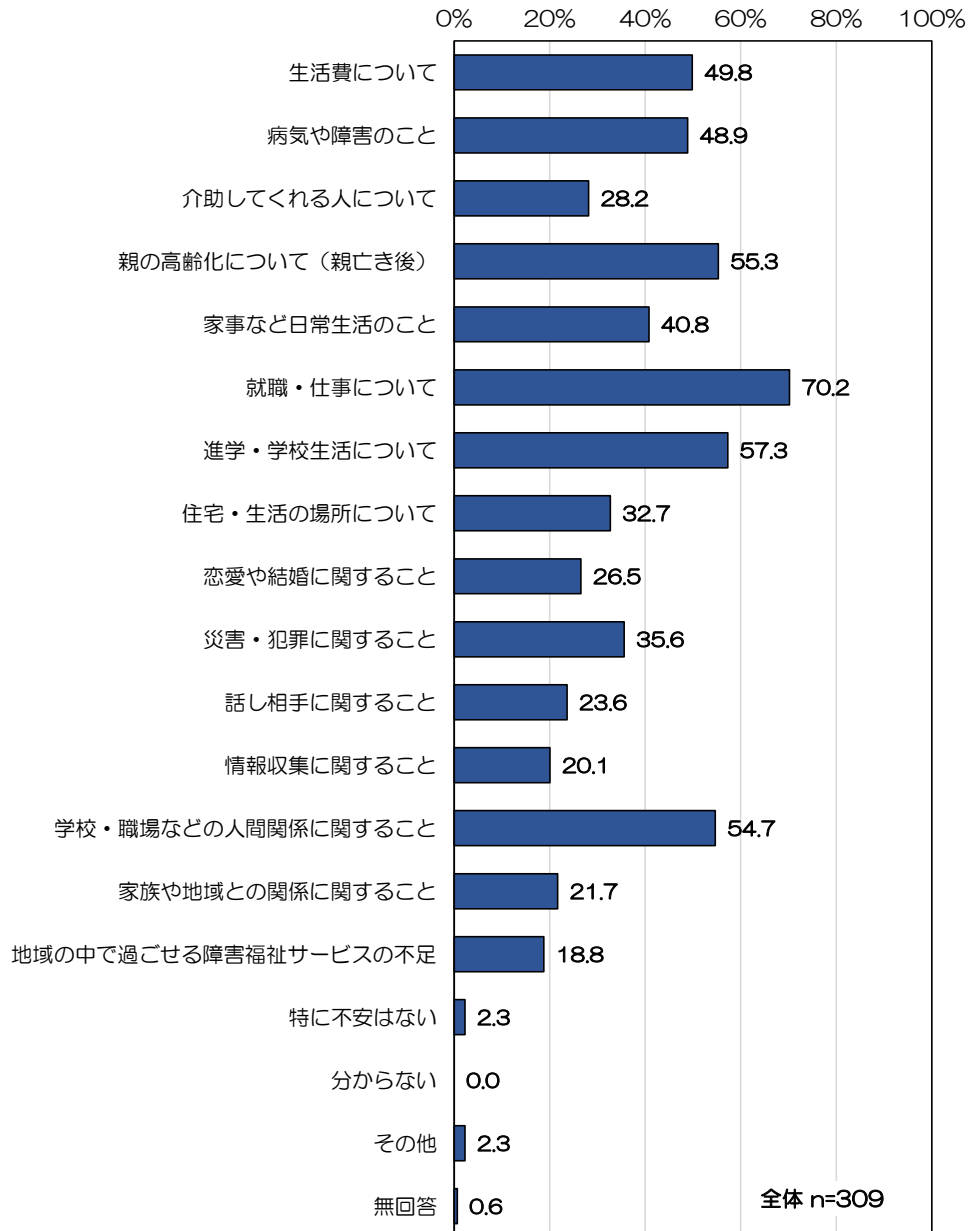
**問 11 お子さんには、将来どのように暮らしてほしいですか。(〇は1つ)**

お子さんには将来どのように暮らして欲しいかについては、「独立して暮らしてほしい」が45.6%で最も高く、次いで「自宅で家族と暮らしてほしい」が23.6%、「分からない」が12.0%となっています。



問 12 お子さんの将来を考えて、不安に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

お子さんの将来を考えて不安に思うことについては、「就職・仕事について」が 70.2%で最も高く、次いで「進学・学校生活について」が 57.3%、「親の高齢化について（親亡き後）」が 55.3%となっています。



障害福祉サービスやご自分の生活上のこと、その他朝霞市の障害福祉施策全般について、何かご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

アンケート調査の最後に、自由記述欄を設け、139 人の方より 194 件の貴重なご意見をいただきました。

結果報告書では、同様のご意見を整理し、14 項目に分類しました。

No.	項目	件数
1	障害者施設の充実・設備・定員増などに関することについて	28
2	障害福祉サービスについて	26
3	教育、進路等について	24
4	経済的な内容について	20
5	情報提供について	18
6	相談支援体制について	13
7	障害者理解、交流について	12
8	道路、施設のバリアフリー、交通機関の充実について	10
9	市役所の手続き等に関することについて	10
10	「親亡き後」や「老老介護」、病気・医療に関することについて	10
11	アンケートについて	8
12	就労について	4
13	今後の不安について	4
14	その他	7
合計		194

#### ◆自由記述の内容（抜粋）

##### 【1 障害者施設の充実・設備・定員増などに関することについて】

- ・練馬区に障害者の仕事後（夕方～夜にかけて）の空いている時間に余暇を楽しむためのサービスがあるそうです。障害者が就労している場合、午後4時くらいに帰宅なので本人の楽しみのため、家族の時間のため、このようなサービスがあるのは良いと思います。放課後等デイサービスは高校卒業後は利用できないので、卒業後もこのようなサービスを受けられたらと思います。
- ・児童のショートステイ施設が少ない。緊急ショートステイ（親の病気等）の枠がないため、本当に緊急の際に困ります。
- ・児童発達支援の利用年齢を就学前までではなく小学校卒業するまで利用できるようにして欲しかった。放課後等デイサービスはどこもいっぱい利用出来ず4月から小学1年生になるが、児童がもう利用出来ず支援が切れてしまい、非常に残念なのと不安が残る。
- ・医療的ケアが必要な子の受け入れ体制を充実させてほしい。看護師の配置はあっても、医療的ケアができない看護師もいる。介護職員に資格を取ってもらって実施するケースもあるようだが、万が一事故が起きた場合のことを考えると、医療的ケアにきちんと対応できる看護師が常駐している通所施設を増やしてもらいたい。

**【2 障害福祉サービスについて】**

- 障害福祉サービスは複雑なので、幼児期から成人までのわかりやすいフローチャートを作っただけだとありがたいです。
- 療育（児発）が充実してきているが、保育所側が保育所等訪問支援のサービスを知らず受け入れがスムーズにいかないことがあるように感じる。もっと利用が増え周知されていくと良いと感じる。児童発達支援や放デイが働いている人向けでないことは分かっているが、保護者が働けるサービスの提供についても考えてほしい。学童が一般的には小学3年生までの利用だが、子の発達によってその学齢まででは足りない。柔軟な対応があると嬉しいです。
- 障害のある子は騒いだり、じっとしてられないので、兄弟の学校行事などに連れていけない。そういう時に一時的に預ってくれる様なサービスがもっと充実してほしいです。
- サービスの質の向上をお願いします。

**【3 教育、進路等について】**

- 最近「インクルーシブ教育の推進」という言葉を学校のおたよりなどで目にするようになりましたが、具体的にどのような取り組みをしているのか全くわかりません。
- 小中学校の支援級は、学校の校長をはじめとした先生方により差が大きく、教育を受ける権利や保護者のニーズに合致していないことがある。少なくとも障害者の扱いにすべて押し込めるのではなく、個々の特性に合った教育ができるような環境整備もするべきだ。普通級を中心とした通級制度や、グレーゾーンに対する先生方の理解強化、福祉に限らず、チームティーチング制といった対応を教育管理課として進めてほしい。
- 特別支援学校卒業後の進路が不安。障害者施設が充実していると良い。

**【4 経済的な内容について】**

- 障害児通所費用に、負担額減額していただけていますが、上限金額が4,600円か37,200円と10倍くらい収入によって異なることは良くないと思います。もう少し段階的に引き上げるなど配慮頂きたいです。
- 一人親で障がい児を一人で見ている、特別児童手当等の月9万円ほどで生活していて、生活費を払い、通院で交通費を払い、年に2～3回、1回1万円位の追加チャージ、生活がきつくなります。中学生以上でいくら割引があるとは言え、大人料金で、まして2種では割引が適用されません。もう少し交通費を上げていただきたい。1年間、通院しない人、回数が少ない人は足りているのかもしれませんが、皆が同じではありません。

**【5 情報提供について】**

- 就学に向けて情報収集をしているが、小学校の情報が少なく困っている。支援級の状況などをもっと具体的に公開して欲しい。
- どのような障害福祉サービスが利用出来るのか、もっと分かりやすく、病院で診断を受けた後など繋がるようにして欲しい。今は自分で情報収集しないと何もわからない。
- 発達障害に関する事をもっと市として発信してほしい。

**【6 相談支援体制について】**

- 子育ては母親だけでなく父親にも参加してもらい協力してやっていくものだと思っています。働いていて日中父親がいなくて母親の負担が多くなることが多く、夫の理解はとても大切だと思います。家での子どもへの関わり方について母親目線のことが多く、父親としてどうしたら良いか教えてもらえると父親も子育てに参加しやすく理解してもらえたいと思います。父親向けのペアトシや夜間の相談窓口などもあったら男性も相談しやすくなると思います。
- 未就学児（3～5歳）を対象とする子育て相談の窓口が少ない。
- 障害福祉サービスにどのようなものがあるか、また、どこに行けば受けられるのかが知らないことが多いので、適切なサービスを受けるためにまずは相談できる場所の案内をいただけたら助かります。

**【7 障害者理解、交流について】**

- 療育を受けさせていただき、親も子も救われています。しかし、我が子のように発達障害、外見ではわかりづらい障害に対して、保育園や幼稚園、学校などでまだまだ理解や配慮がされていないと感じる場面があります。どんな人も生きやすい朝霞市であってほしいと願います。
- 子どもたちのコミュニケーションの場を増やしてほしい。

**【8 道路、施設のバリアフリー、交通機関の充実について】**

- 朝霞台駅にエレベーターがないので不便に思っています。駅員さんと呼ぶのは気が引けるので、通院以外で出かけるのが億劫になります。
- わくわくドーム号の本数を増やして欲しい。1時間に2～3本にして欲しい。交通が不便。

**【9 市役所の手続き等に関することについて】**

- 障害児通所給付費支給申請書兼利用者負担額減額免除等、申請書の手続きの簡素化を希望します。サービスを受ける期間を長くして手続きをする頻度を減らしてほしい。
- 難病等の医療給付制度や朝霞市の難病患者見舞金はとても助かりますが、毎年の手続きが難しくとても面倒です。現在は私達親が手続きをしているが、今後娘がひとりで出来るか心配です。いろいろな制度があっても知らず手続きをしないと受けられないので、持病や障害がありかかりつけの病院に通院している履歴から制度の情報を得られるように連携などは出来ないものでしょうか。

**【10 「親亡き後」や「老老介護」、病気・医療に関することについて】**

- 障害の疑いがかかってから半年で、この子の人生が今後どれだけ介護が必要なのか見当がつかないが、少なくとも親が亡くなった後でも、誰かが支援してくれて、どんなサービスがあるかだけでも知ることができたら安心できると思う。
- 親亡き後の事がとても心配です。お金の管理、体調面が上手く出来ないのも信頼のおける法人があるといいと思います。

**【11 アンケートについて】**

- 障害福祉施策について、朝霞市としてやりたいことはわかるが、果たして当事者やその介助者の目線に合った施策を考えたいのか、アンケートに答えていて疑問に思う。本人 18 歳以下とその保護者のアンケートに答えたが、どれだけの人が本人（子ども）が答えられるアンケート内容になっているか甚だ疑問である。子育てには多段階のステップがあるが、すべて同じアンケートだと本人の意見は反映されない。
- アンケートを行った後にどのような結果になったのか、またはどのように改善されるのか、されたのかが知りたい。

**【12 就労について】**

- 学校を卒業した後のことを考えると不安です。就労継続支援 A 型、B 型がもっとあっても良いのではないかと感じます。
- B 型に就労予定だが、どこも時間が短く、帰宅後の過ごし方が心配です。学校に行っている間は放デイのおかげで充実していますが、卒業後の余暇活動サービスがほしいです。

**【13 今後の不安について】**

- 育休明けに送迎が難しくなるので、今と同じように療育に通えなくなったり、児童支援施設を諦めたりしなければいけなくなることに不安があります。
- 医療的ケア児を育てています。朝霞市も色々と対応を考えてくださっているとは思いますが、就学の際、基本的に母親の付き添いが必要だったり、放課後等デイサービスの数が少ないなど聞いており、今から先のことが不安です。我が子のことですし、親の責任でもありますが、少しでも負担が少なくなると生活への不安も減ると思います。今後もっと医療的ケア児は増えると思います。どうしても母親への負担が大きく、仕事やきょうだい児へも影響してきます。看護師の配置など対応の検討をこれからもしていただけたらと思います。





## IV 障害福祉サービス事業所等調査



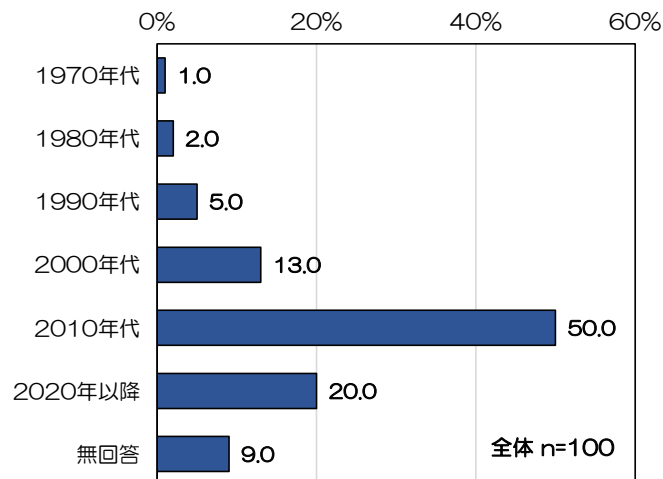
## IV 障害福祉サービス事業所等調査

### 1 貴事業所の概要について

問1 令和5（2023）年1月1日現在の貴事業所についてご記入ください。

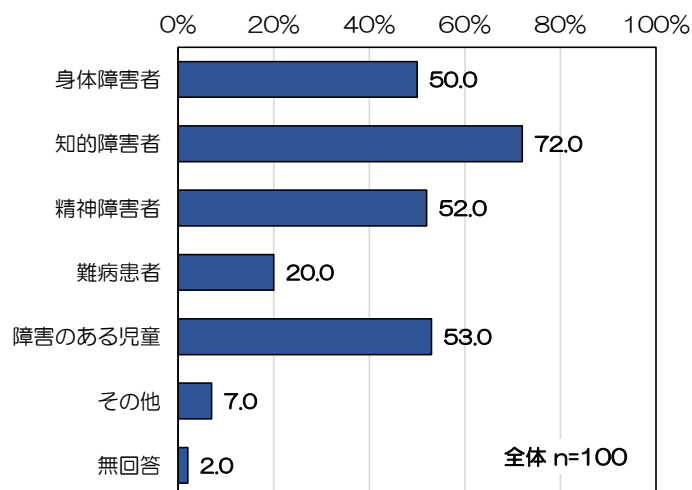
#### ◆設立年

設立年については、「2010年代」が50.0%で最も高く、次いで「2020年以降」が20.0%、「2000年代」が13.0%となっています。



#### ◆対象の障害（〇はいくつでも）

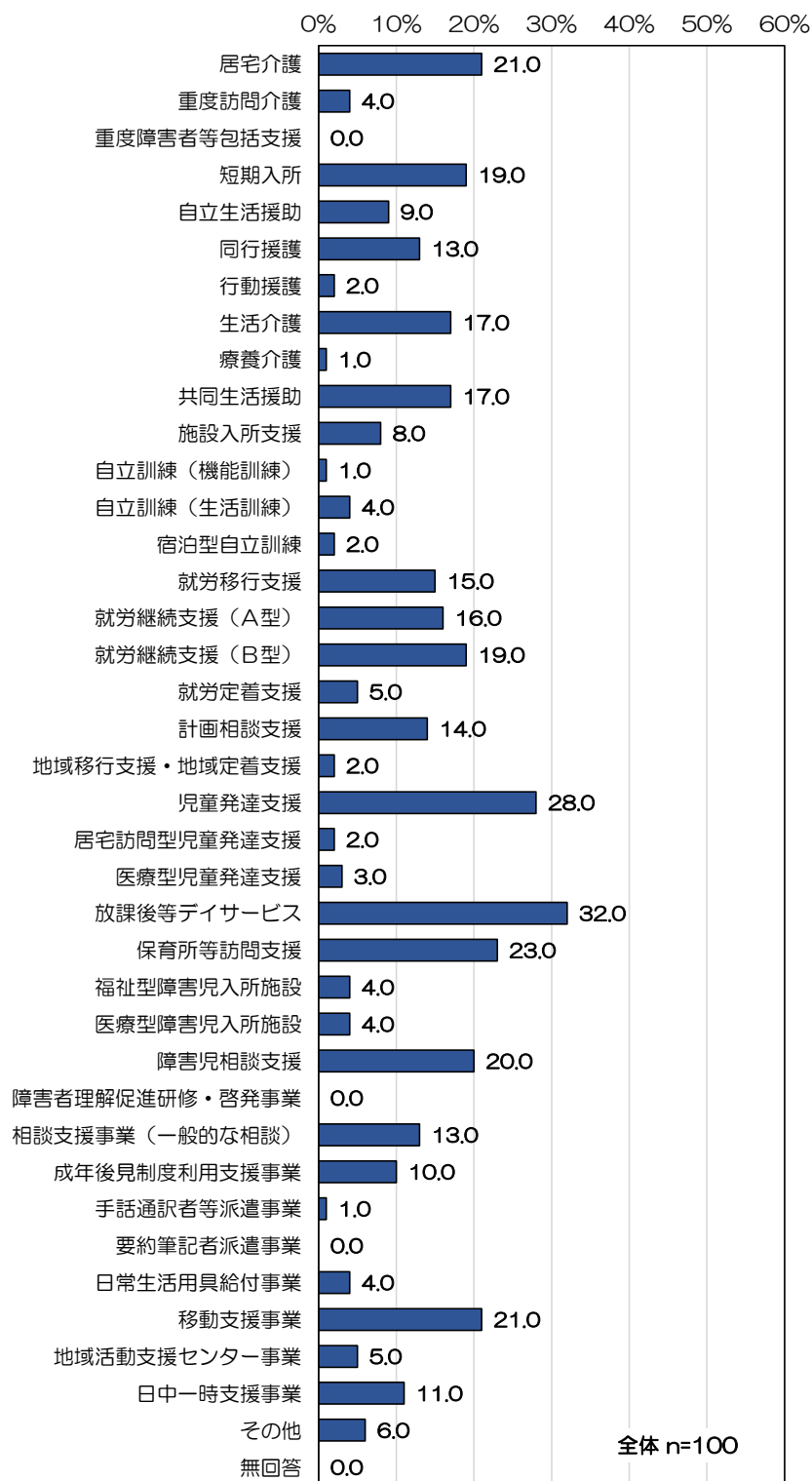
対象の障害については、「知的障害者」が72.0%で最も高く、次いで「障害のある児童」が53.0%、「精神障害者」が52.0%、「身体障害者」が50.0%、「難病患者」が20.0%となっています。



## 2 障害福祉サービス等の提供について

### 問2 利用者からは、どのようなサービスを望む声が多いですか。(〇はいくつでも)

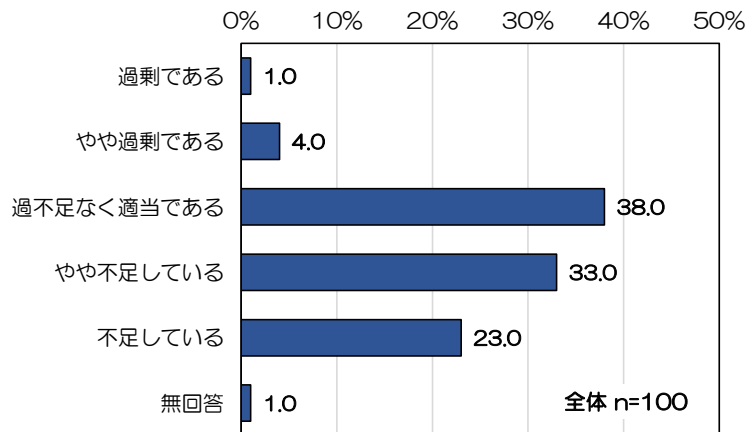
利用者から望む声が多いサービスについては、「放課後等デイサービス」が32.0%で最も高く、次いで「児童発達支援」が28.0%、「保育所等訪問支援」が23.0%、「居宅介護」「移動支援事業」がともに21.0%、「障害児相談支援」が20.0%となっています。



### 3 貴事業所の運営について

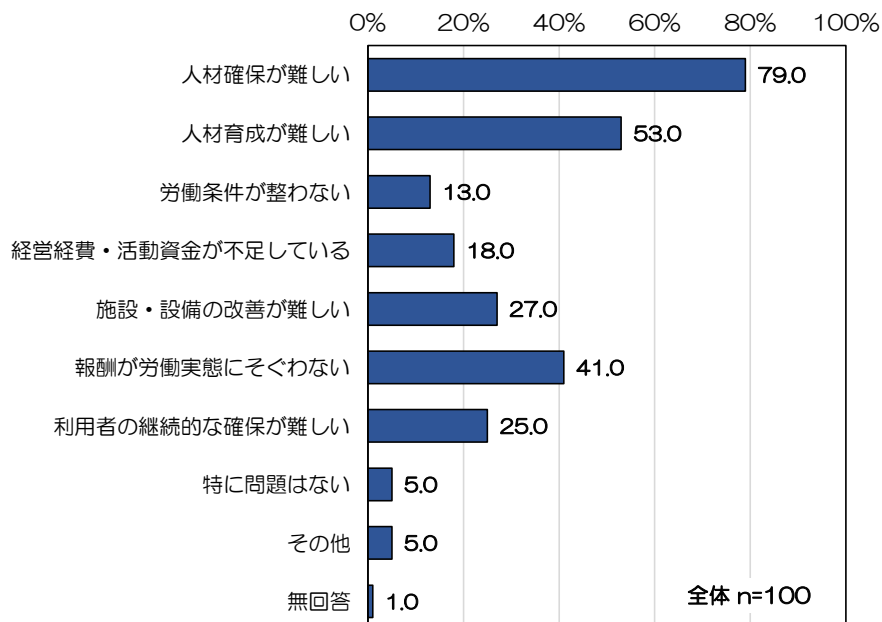
#### 問3 現在のサービス提供体制において、職員の配置状況はどのように感じていますか。(〇は1つ)

職員の配置状況については、「過不足なく適当である」が38.0%で最も高く、次いで「やや不足している」が33.0%、「不足している」が23.0%となっています。



#### 問4 貴事業所の運営に関する問題はどのようなことがありますか。(〇はいくつでも)

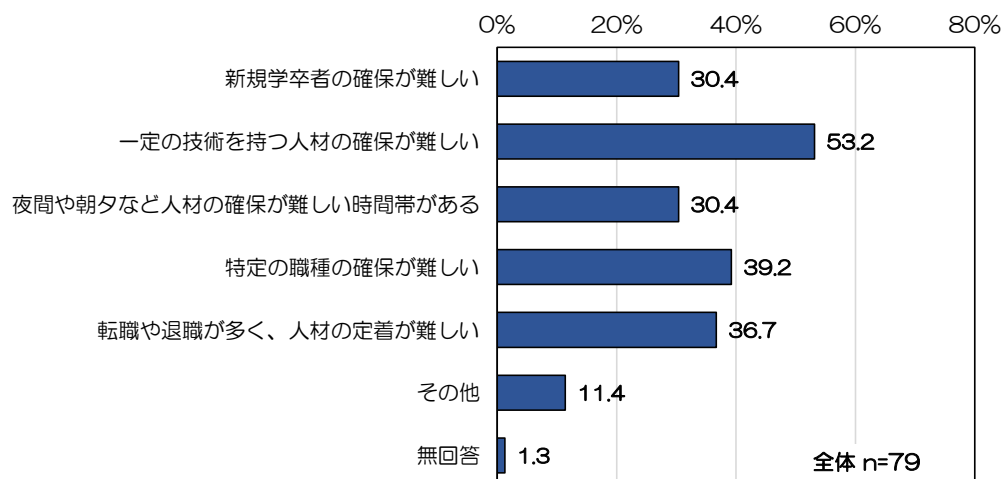
運営に関する問題については、「人材確保が難しい」が79.0%で最も高く、次いで「人材育成が難しい」が53.0%、「報酬が労働実態にそぐわない」が41.0%となっています。



## 【問4で「1 人材確保が難しい」と回答した方に伺います。】

## 問4-1 人材確保について、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

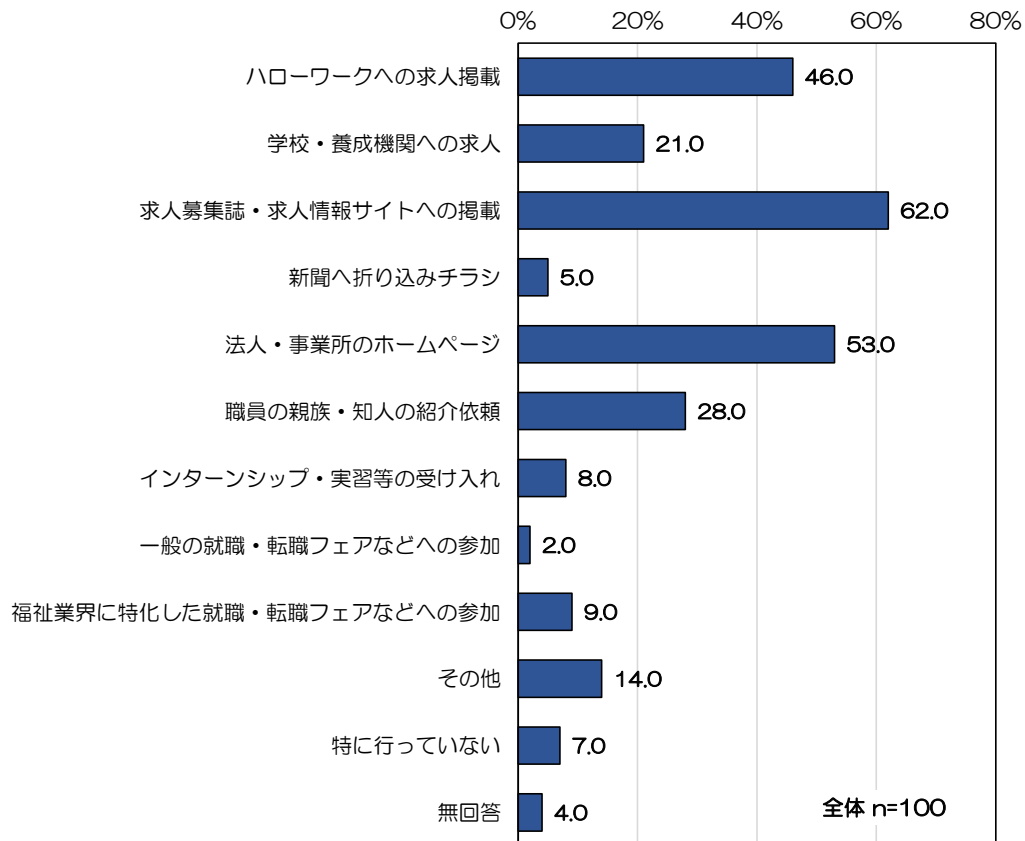
人材確保に関する課題については、「一定の技術を持つ人材の確保が難しい」が53.2%で最も高く、次いで「特定の職種の確保が難しい」が39.2%、「転職や退職が多く、人材の定着が難しい」が36.7%となっています。



問5 人材確保のため、何か取組はしていますか。また、取組を行っている場合、最も効果があったと感じる取組をお答えください。(〇はいくつでも)

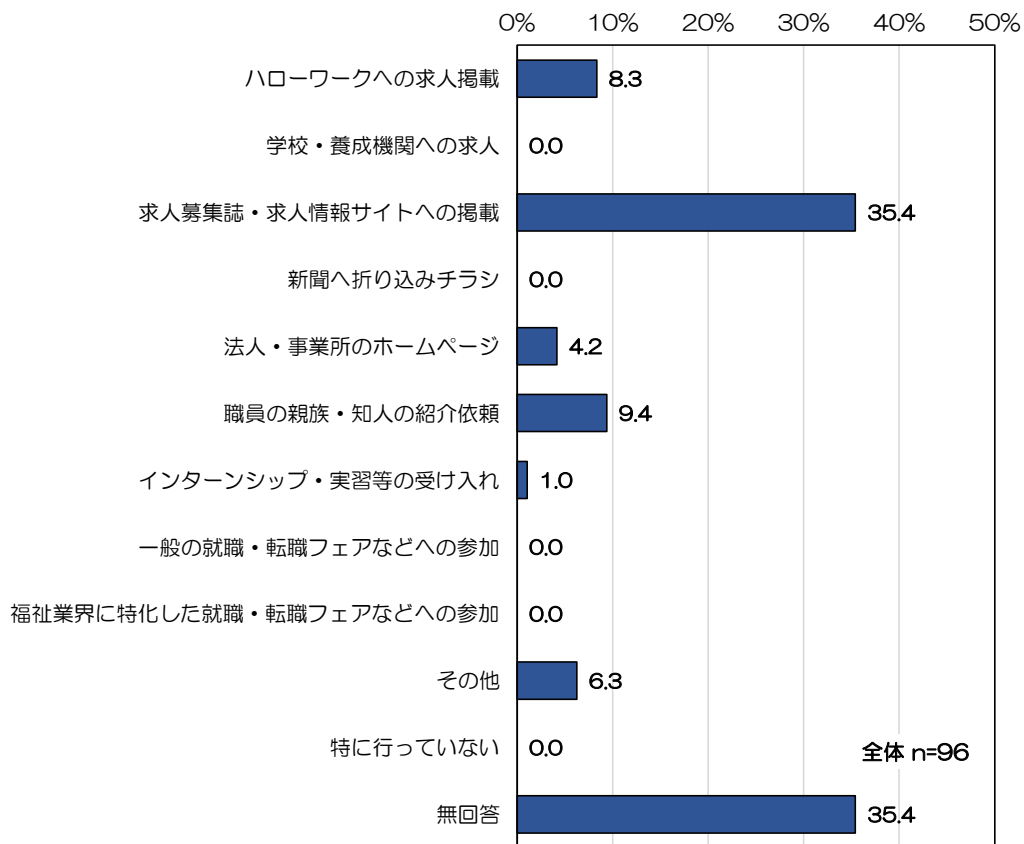
#### ◆行っている取組

人材確保のために行っている取組については、「求人募集誌・求人情報サイトへの掲載」が62.0%で最も高く、次いで「法人・事業所のホームページ」が53.0%、「ハローワークへの求人掲載」が46.0%となっています。



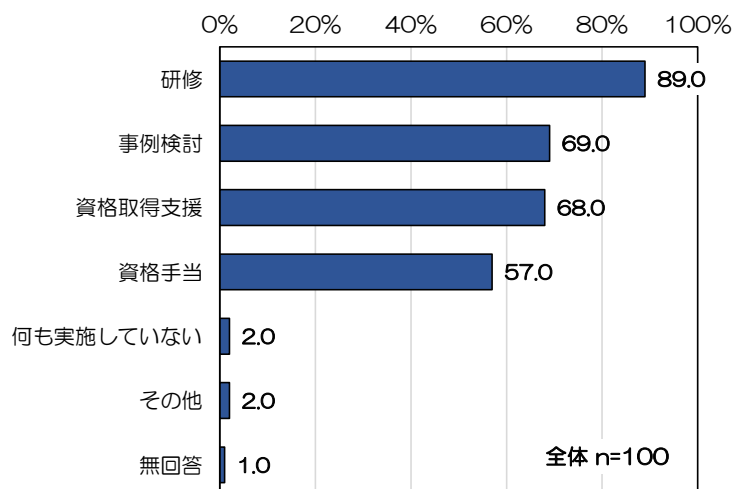
◆最も効果のあった取組

人材確保のために行っている取組のうち、最も効果のあった取組については、「求人募集誌・求人情報サイトへの掲載」が35.4%で最も高く、次いで「職員の親族・知人の紹介依頼」が9.4%、「ハローワークへの求人掲載」が8.3%となっていますが、無回答は35.4%ありました。



問6 人材育成について、人材の質の向上や処遇の改善のために取り組んでいることがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

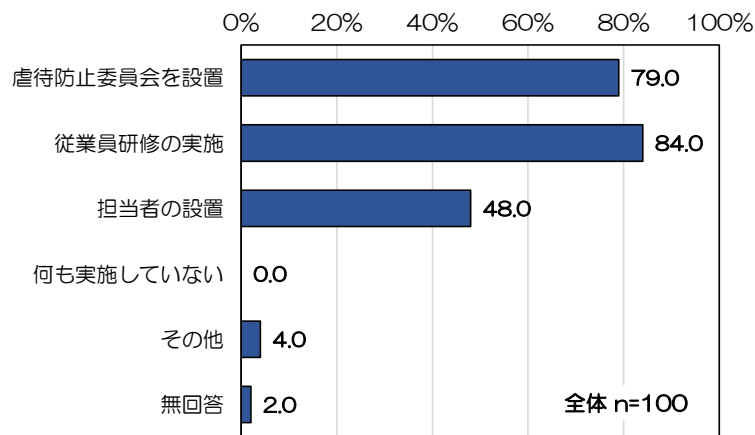
人材の質の向上や処遇の改善のために取り組んでいることについては、「研修」が89.0%で最も高く、次いで「事例検討」が69.0%、「資格取得支援」が68.0%となっています。





### 問7 利用者の人権確保の体制についてお答えください。(〇はいくつでも)

利用者の人権確保の体制については、「従業員研修の実施」が84.0%で最も高く、次いで「虐待防止委員会を設置」が79.0%、「担当者の設置」が48.0%となっています。



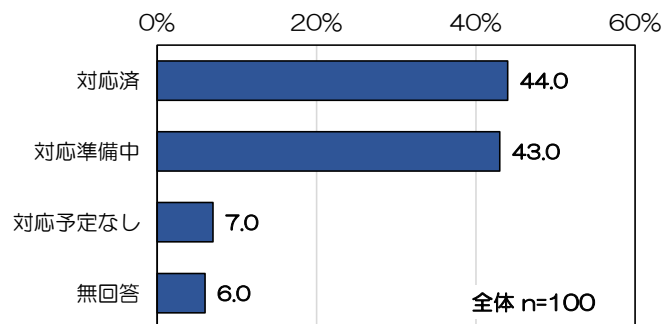
### 問8 事業所内でのハラスメント防止のために取り組んでいることがあれば教えてください。

#### ◆ハラスメント防止のために取り組んでいること（抜粋）

- ・研修の実施
- ・ハラスメント相談窓口の設置
- ・ハラスメント対策委員の設置
- ・定期的なアンケートの実施、個人面談
- ・ハラスメント防止規程の制定と職員周知
- ・防止マニュアルの作成、周知
- ・働いている職員が意見を言いやすい環境作り
- ・心のストレスチェックの実施及び必要な場合に面談
- ・安全防止委員会の実施
- ・ポスターの掲示

**問9 個人情報を含んだデータの取扱いについて、業務マニュアルの作成や、情報漏えい時の連絡体制の整備などの対応はできていますか。**

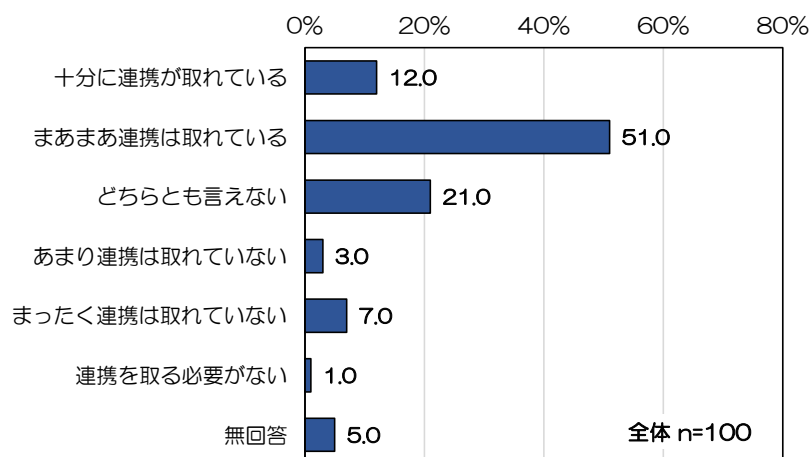
個人情報を含んだデータの取扱いについて、業務マニュアルの作成や、情報漏えい時の連絡体制の整備などの対応状況については、「対応済」が44.0%で最も高く、次いで「対応準備中」が43.0%、「対応予定なし」が7.0%となっています。



**問10 サービスを提供する際、以下の機関との連携状況はいかがですか。(それぞれ〇は1つ)**

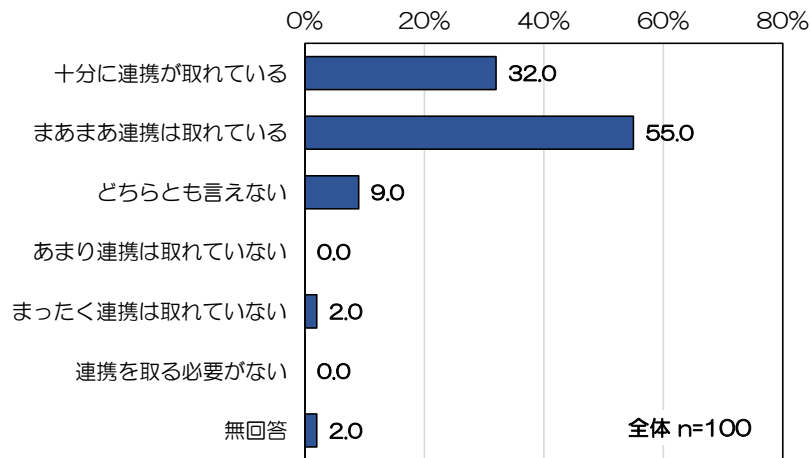
**◆障害福祉サービス事業所**

障害福祉サービス事業所との連携については、「まあまあ連携は取れている」が51.0%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が21.0%、「十分に連携が取れている」が12.0%となっています。



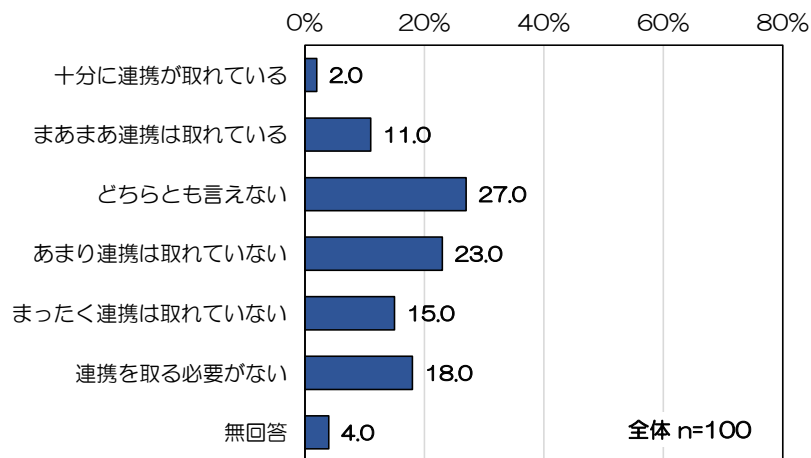
## ◆相談支援事業所

相談支援事業所との連携については、「まあまあ連携は取れている」が 55.0%で最も高く、次いで「十分に連携が取れている」が 32.0%、「どちらとも言えない」が 9.0%となっています。



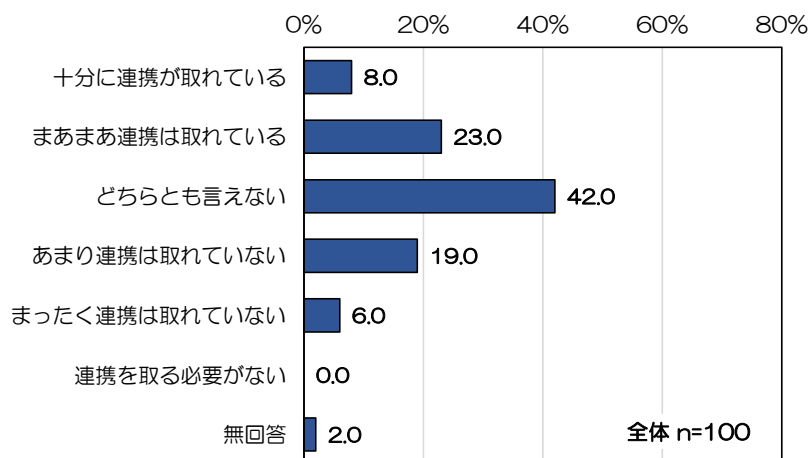
## ◆ボランティア・NPO

ボランティア・NPOとの連携については、「どちらとも言えない」が 27.0%で最も高く、次いで「あまり連携は取れていない」が 23.0%、「連携を取る必要がない」が 18.0%となっています。



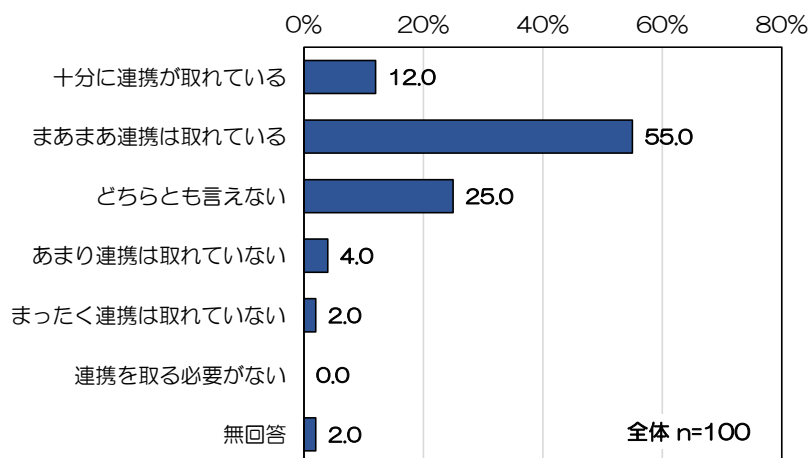
## ◆医療機関

医療機関との連携については、「どちらとも言えない」が42.0%で最も高く、次いで「まあまあ連携は取れている」が23.0%、「あまり連携は取れていない」が19.0%となっています。



## ◆行政機関

行政機関との連携については、「まあまあ連携は取れている」が55.0%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が25.0%、「十分に連携が取れている」が12.0%となっています。



**問 11 年間に実施する市民対象のイベント、講習会、講演会などあれば記載してください。**

**◆年間に実施する市民対象のイベント、講習会、講演会（抜粋）**

- ・ふれあいマルシェ（障害者ふれあいセンターイベント）
- ・元気キッズフェスティバル
- ・はあとびあのふれあい祭り
- ・ピアーストーク（当事者、家族を対象としたイベント）
- ・小学校生活にむけての保護者向け勉強会
- ・子どもの発達についての保護者向け勉強会
- ・保護者向け学習会（ペアレントプログラム・ペアレントトレーニング）
- ・療育相談会
- ・公認心理師による相談
- ・集団が苦手なお子さんのためのリトミック
- ・市民向け講座（親亡き後、社会生活力向上等）
- ・朝光苑祭りを開き、地域の人々に施設を知ってもらう
- ・事業所で行っているイベントへの一部一般参加募集

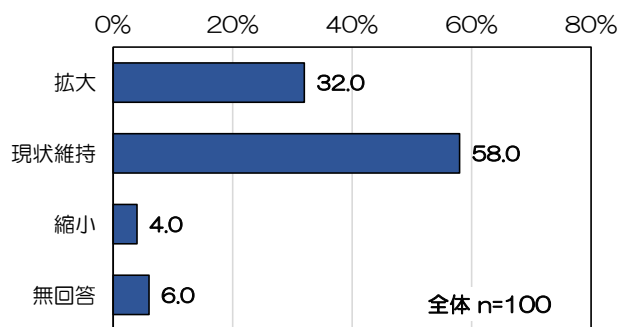
**問 12 朝霞市で開設した理由を教えてください。**

**◆（抜粋）**

- ・朝霞市在住のため
- ・朝霞市出身だから
- ・朝霞市からの訪問依頼が多かった
- ・市内の障害のある子を育てる保護者が運営してきたため
- ・朝霞市の同業種での施設勤務者が集まり開設
- ・朝霞市の障害福祉サービスの充実に向け、拠点を増設
- ・必要なサービスが不足していたため
- ・就労移行支援のニーズがあり、開設することでより多くの方のサポートができると考えたため
- ・多方面からニーズがあったため
- ・とても良い街だったため

**問 13 今後の事業方針を教えてください。**

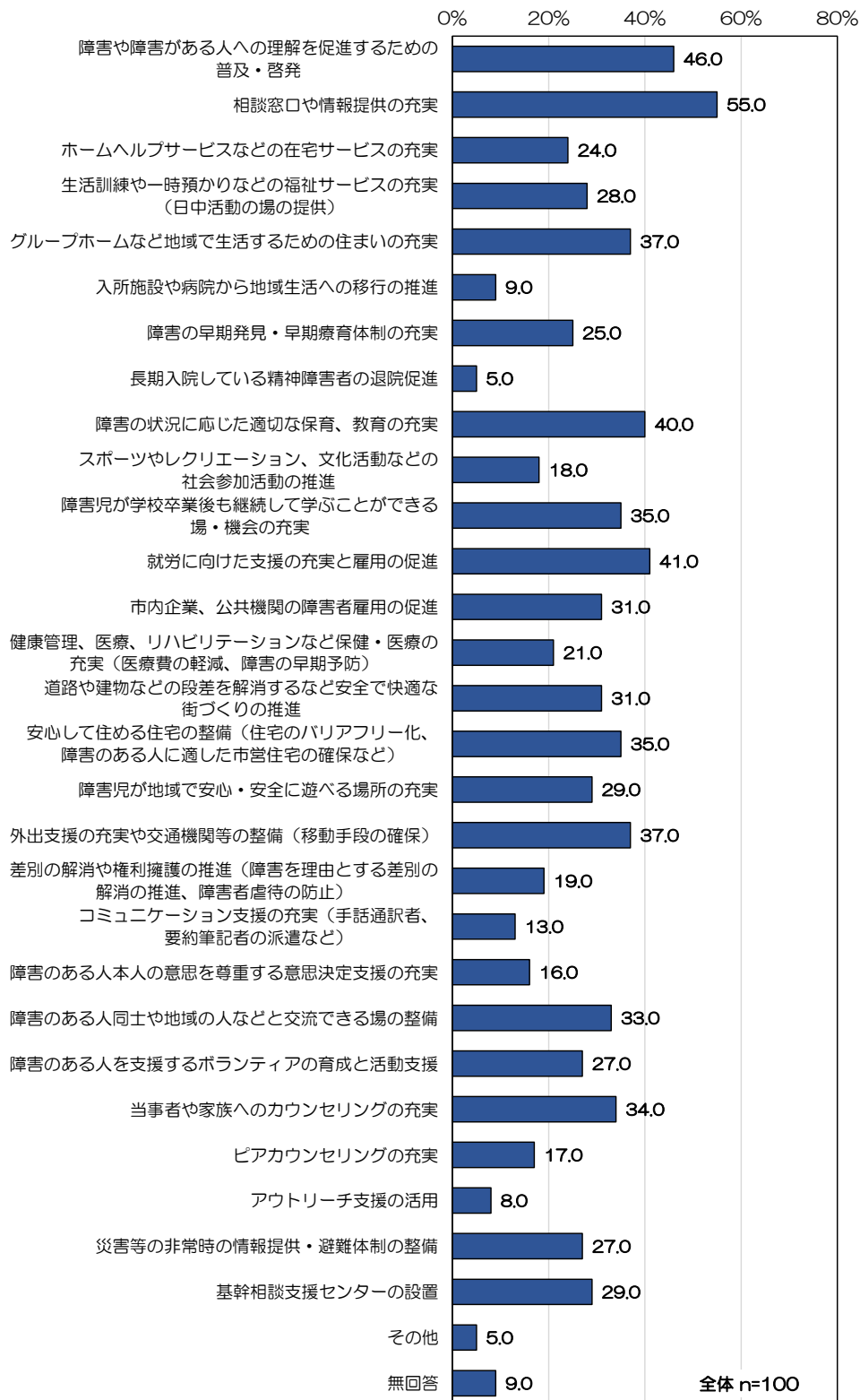
今後の事業方針については、「現状維持」が58.0%で最も高く、次いで「拡大」が32.0%、「縮小」が4.0%となっています。



## 4 障害のある人・障害のある児童への支援について

問 14 今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市がどのようなことに力を入れていく必要があると思われますか。(〇はいくつでも)

今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市が力を入れていく必要があると思うことについては、「相談窓口や情報提供の充実」が55.0%で最も高く、次いで「障害や障害がある人への理解を促進するための普及・啓発」が46.0%、「就労に向けた支援の充実と雇用の促進」が41.0%となっています。



問 15 問 14 で○をつけたもののうち、実施してほしい具体策等があればご記入ください。

◆自由記述（抜粋）

【障害福祉サービス等の充実について】

- ・相談支援が増えていくと、障がいのある方が適切なサービスをより早く利用していくことができると感じている
- ・真に必要な方が利用できる障害児サービスの仕組み作り
- ・コミュニケーション支援の充実のために専任手話通訳者の増員
- ・グループホームの建設は進んでいるが、そこで提供されるサービスの質の確保を促進してもらいたい
- ・大規模なグループホームが増えているが、障がいがある人の生活にとって負担の少ない小規模なものも必要
- ・親子で（親が高齢者、子が障害者）一緒に暮せる施設があればと、何人もの保護者の方が切望されている
- ・家庭で急にトラブル等があった時の受け入れ先があると良い
- ・たくさんの経験をするためには、家庭と施設だけでは限界があるため、障害のある人が自分で行きたい場所へいつでも行けるような支援体制が充実すると良い
- ・車の運転ができない保護者も多いため、生活サポート事業の充実
- ・放課後等デイサービスや既存の施設の利用が合わない方のための日中一時支援事業の充実
- ・放課後等デイサービス終了後から両親が仕事から帰ってくるまでの間のデイサービスが充実すると良い

【相談支援体制について】

- ・早期に基幹相談支援センターを設置してほしい
- ・気軽に発達の相談ができる窓口の充実

【教育、進路等について】

- ・保育園、幼稚園、学校にもっと合理的配慮ある支援をしてほしい
- ・児童発達支援がたくさんできたが、その分幼稚園での入園の敷居が上がっているため、園職員のスキルアップや保育所訪問、巡回指導などの利用で幼稚園での受け入れがもう少し柔軟になってもらえたらと思う
- ・保育、教育現場のインクルーシブの考えの浸透
- ・支援学校卒業後は、多くの方は就労するしかない現状なので、専門学校のように高校卒業後も学べる場所があれば良い

【障害への理解・交流について】

- ・障害のあるご家族が相談、悩みを話せる場所や交流できる所があるといい。どこに相談したらいいのか、一人で悩んでいる方が、同じ悩みを共有する場がほしいという声を聞く。
- ・企業、個人事業主、学校なども含めた交流や、お祭り企画を増やしてほしい。
- ・療育卒業後、社会に出る時など、当事者同士が交流できる場があったり、実際社会で働き始めてどうだったかなど、体験談が聞ける場があるとありがたい。



## 【道路、施設のバリアフリーについて】

- 朝霞台の駅にエレベーターの設置を希望（車イスの利用者さんがエスカレーターを止めてまで電車に乗ることに抵抗を感じる）
- 細い路地が多く（特に朝霞駅周辺）、車イスでの移動が大変なため、歩道の整備をしてほしい

## 【情報提供について】

- 地域の会社で障害者雇用を積極的に行っている会社の情報が知りたい

## 【その他について】

- 自立支援協議会での内容を詳しく知りたい
- 市内企業の施設見学ツアー
- 空き屋（家）の活用

朝霞市の障害福祉施策について、ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

## ◆自由記述（抜粋）

## 【障害福祉サービス等の充実について】

- 相談支援、日中事業所は充実していると思います。グループホームも少しずつ増えてきていると思います。しかし、その間を結ぶ支援が不足していると思います（移動支援）。地域で生活するという事は、どういうことなのか、グループホームに入れば地域で生活するということになるのか。グループホームと日中事業所をバスで行き来しているだけの可能性もある。外へ出ていくためには、移動支援の充実が必要だと思います。
- 日々活動の場は、この近隣でもそれなりに充足されてきましたが、グループホームなどの「生活の場」はまだまだ足りません。本人や保護者が安心してこの地域で暮らすことができるよう、市の施策において検討していただけたら幸いです。
- 保育所訪問支援は保護者が希望した場合、受け入れる必要がある制度であることを、各市内の園に周知していただけると幸いです。保護者が希望しても受け入れてもらえず、支援ができていない現状があります。
- 利用申し込みに対し、事業所の数が足りていない。

## 【障害への理解・交流について】

- ボランティアや、障害福祉が普及していくためにも、体験や知ってもらえる環境作りをしていただきたい。
- よく保護者の方に「親はいつまでも謝り続けなくてはいけないのか」と言われるが、謝らなくてもよい、誰もが受け入れられる共に生きる社会になってほしい。

**【事業所の人材確保について】**

- 障害児の計画相談依頼が非常に多い（他市からも連絡がくる）。利用者申し込みに対し、相談員の数足りていない。
- 他市に引っ越された人、他市から越されてきた人が、他の自治体の子育て支援、福祉施策を知って、朝霞市が良い（良かった）という声が聞かれなくなっている気がします。魅力ある自治体にならなければ、良い人材も集まらないのではないのでしょうか。

**【関係機関との連携について】**

- 事業所同士の情報共有の場の確保

## V 障害者団体調査



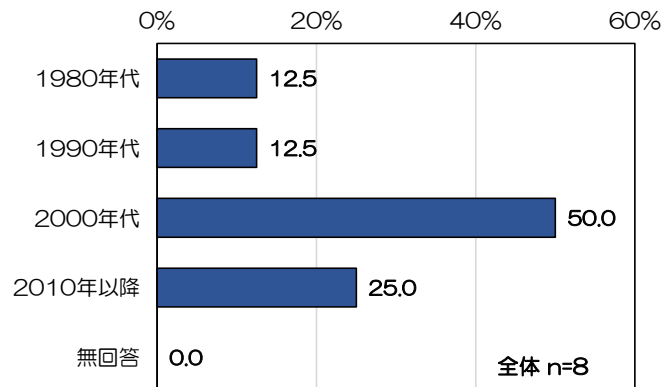
## V 障害者団体調査

### 1 貴団体の概要について

問1 令和5（2023）年1月1日現在の貴団体についてご記入ください。

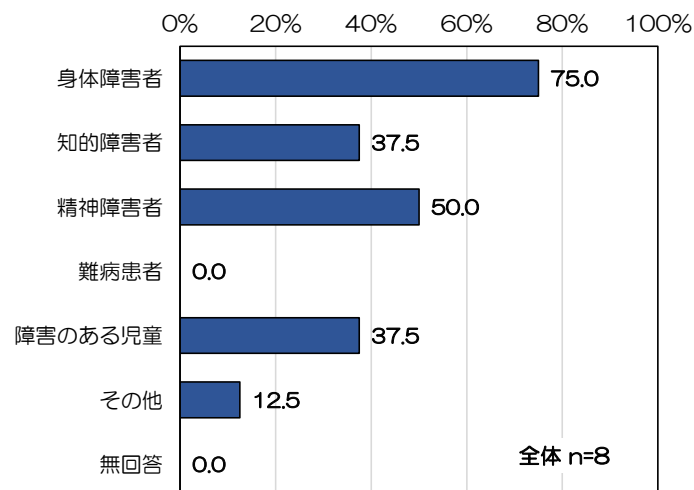
#### ◆設立年

設立年については、「2000年代」が50.0%で最も高く、次いで「2010年以降」が25.0%、「1980年代」「1990年代」がともに12.5%となっています。



#### ◆対象の障害（〇はいくつでも）

対象の障害については、「身体障害者」が75.0%で最も高く、次いで「精神障害者」が50.0%、「知的障害者」「障害のある児童」がともに37.5%となっています。



## ◆会員数の状況

No.	男性会員	女性会員	会員総数
1	3	1	4
2	2	8	10
3	2	8	10
4	2	11	13
5	6	17	23
6	無回答	無回答	42
7	29	39	68
8	120	70	190

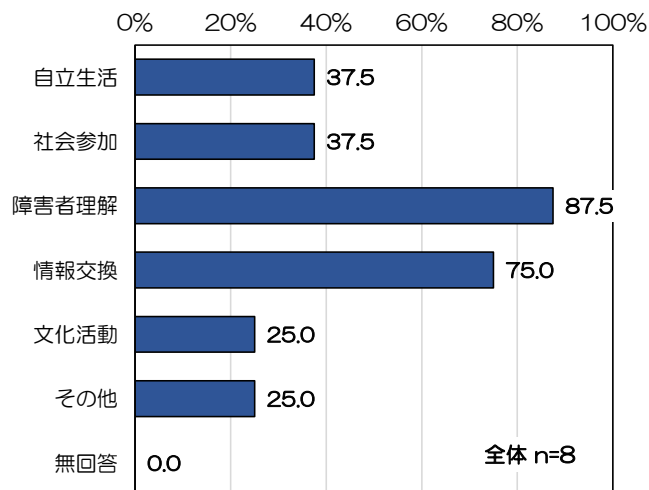
(順不同 ※無回答を除く)

※市民以外の会員が含まれる団体もあります。

## 2 貴団体の活動について

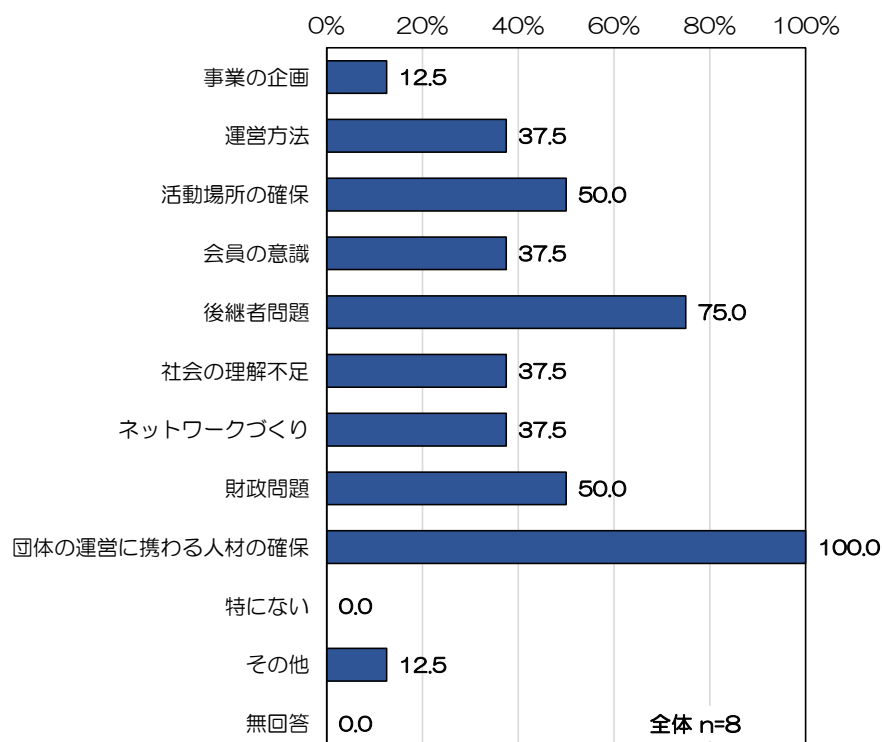
### 問2 貴団体の活動目的は何ですか。(〇はいくつでも)

団体の活動目的については、「障害者理解」が87.5%で最も高く、次いで「情報交換」が75.0%、「自立生活」「社会参加」がともに37.5%となっています。



### 問3 活動するうえで困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

団体が活動するうえで困っていることについては、「団体の運営に携わる人材の確保」が100.0%で最も高く、次いで「後継者問題」が75.0%、「活動場所の確保」「財政問題」がともに50.0%となっています。



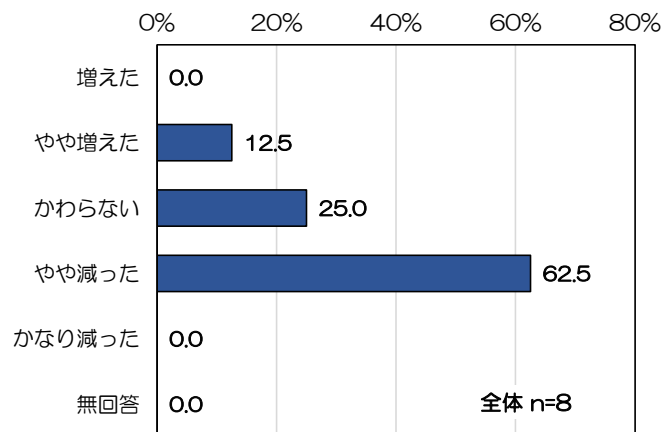
#### 問4 具体的な活動内容を教えてください。

##### ◆具体的な活動内容

- ・子育て支援センターの運営、生活介護事業所の運営
- ・障害児・者の社会参加促進のため色々な行事を実施、生活ホーム「朝霞青年寮」の運営
- ・市内小学校への啓発本の配布、講演会などの啓発活動
- ・地域活動支援センターぱれっとの運営、会報の発行、情報収集
- ・高次脳機能障害地域相談会ヒアカウンセリング事業、障がい福祉に関わる勉強会、高次脳機能障害者、家族会の運営（青空会）
- ・遷延性意識障害の状態像の発信、学習会、他の障害団体との連携
- ・交流会の開催（主に会員外の医療的ケア児世帯・医療・福祉従事者向け）、障害者自立支援協議会への参加
- ・食事会、カラオケ大会、料理教室

#### 問5 過去1年間で会員数の増減はありましたか。（〇は1つ）

過去1年間で会員数の増減については、「やや減った」が62.5%で最も高く、次いで「かわらない」が25.0%、「やや増えた」が12.5%となっています。





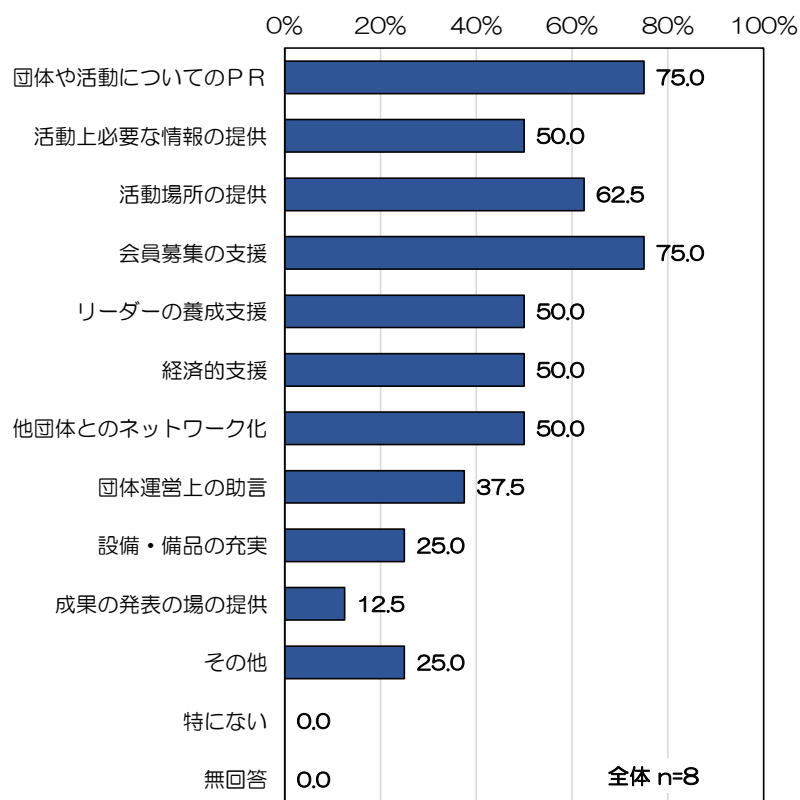
## 問6 会員を増やすために行っている取り組みがあれば教えてください。

### ◆会員を増やすために行っている取り組み（抜粋）

- ・ホームページ、口コミ、マスコミ取諾等による発信
- ・地域相談会参加者に、次回の案内を送っている。月一回の青空会開催の案内をしている。
- ・会報等の発行をして、ぱれっとの活動状況を普及し、理解を深めてもらうことにより、会員を増やす努力をしている
- ・活動を通して理解者、賛同者を増やす
- ・他団体との連携

## 問7 貴団体が活動していくうえで市に望むことはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

貴団体が活動していくうえで市に望むことについては、「団体や活動についてのPR」「会員募集の支援」がともに75.0%で最も高く、次いで「活動場所の提供」が62.6%、「活動上必要な情報の提供」「リーダーの養成支援」「経済的支援」「他団体とのネットワーク化」がそれぞれ50.0%となっています。



問8 朝霞市で活動しようと思った理由を教えてください。

◆朝霞市で活動しようと思った理由

- ・朝霞市在住のため
- ・朝霞市内在住の障がいを持つ子どもの保護者が立ち上げた活動から始まっているため
- ・利用者の最終卒業学校が近隣にあり、また、住居が朝霞市周辺にあることから、「住み慣れた地域社会で地域の人々と共に暮らせる場を」という思いで朝霞市で活動しようと思った
- ・設立当時は、福祉的施設が何もなかったから、行政に働きかけようと思った
- ・当時、朝霞市で医療的ケア児の受け入れ可能な保育園が見当たらなかったから
- ・朝霞市が周辺市に比べ、精神保健分野での活動が、市民・行政がなかったから
- ・高次脳機能障害そのものが認知されていない時期に、相談できる人、居場所もなかったため、朝霞市でも相談会を開き、同じ悩みを持つ人と話し合いたいと思った
- ・朝霞市にも、遷延性意識障害の方がいると思われるため

### 問9 会員からは、どのようなサービスを望む声が多いですか。(〇はいくつでも)

会員から望む声が多いサービスについては、「短期入所」が62.5%で最も高く、次いで「共同生活援助」「施設入所支援」がともに50.0%、「生活介護」「就労継続支援（B型）」「障害者理解促進研修・啓発事業」「移動支援事業」がそれぞれ37.5%となっています。



**問 10 これから団体として力を入れていきたい活動があれば、具体的にお書きください。**

**◆これから団体として力を入れていきたい活動（抜粋）**

**【障害のある児童、障害のある人に関することについて】**

- ・コロナ禍で出来なかった障がいのある方との余暇活動（週末、仕事終わりのカラオケなど）
- ・高次脳機能障害と知らずに悩んでいる人を浮かび上がらせ、支援につながってもらえるよう活動したい
- ・交流会で医療的ケア児世帯の困りごとを拾い上げ、障害者自立支援協議会で情報共有、課題の提示
- ・遷延性意識障害の状態像及び課題の啓発
- ・意識改善に関する先端医療等の講演会の実施及び共有
- ・介護者への支援拡充
- ・精神障害者である子育て中の当事者への支援など、制度の狭間におかれている障害者に対するレスパイト事業

**【団体のことについて】**

- ・法人として新規事業を具体化する（生活サポート事業など）
- ・生活ホーム「朝霞青年寮」をグループホームへ移行すること
- ・法定施設、生活介護事業への移行

### 3 地域活動について

問 11 普段活動される中で、会員や参加者からどのような日常の困りごと、地域の問題を聞かれますか。具体的にお書きください。

#### ◆困りごと、地域の問題について（抜粋）

##### 【障害福祉サービス等について】

- ・ヘルパーの人材不足
- ・訪問介護人員不足
- ・通所の送迎
- ・リハビリ時間数の不足

##### 【施設整備等について】

- ・介護施設のベッド数やスタッフの不足
- ・入院入所先の不足

##### 【介護者や「親亡き後」のことについて】

- ・親が急に体調を崩した時に、子どもを見てもらえる環境、支えてくれる人
- ・介護者の負担
- ・親亡き後の当事者の生活について

##### 【生活について】

- ・物価高で生活が苦しい
- ・高齢化してきていて、思うように行事に参加できない
- ・余暇の支援

##### 【相談・交流について】

- ・相談ができる場、人
- ・手軽に集まる場所を確保したい

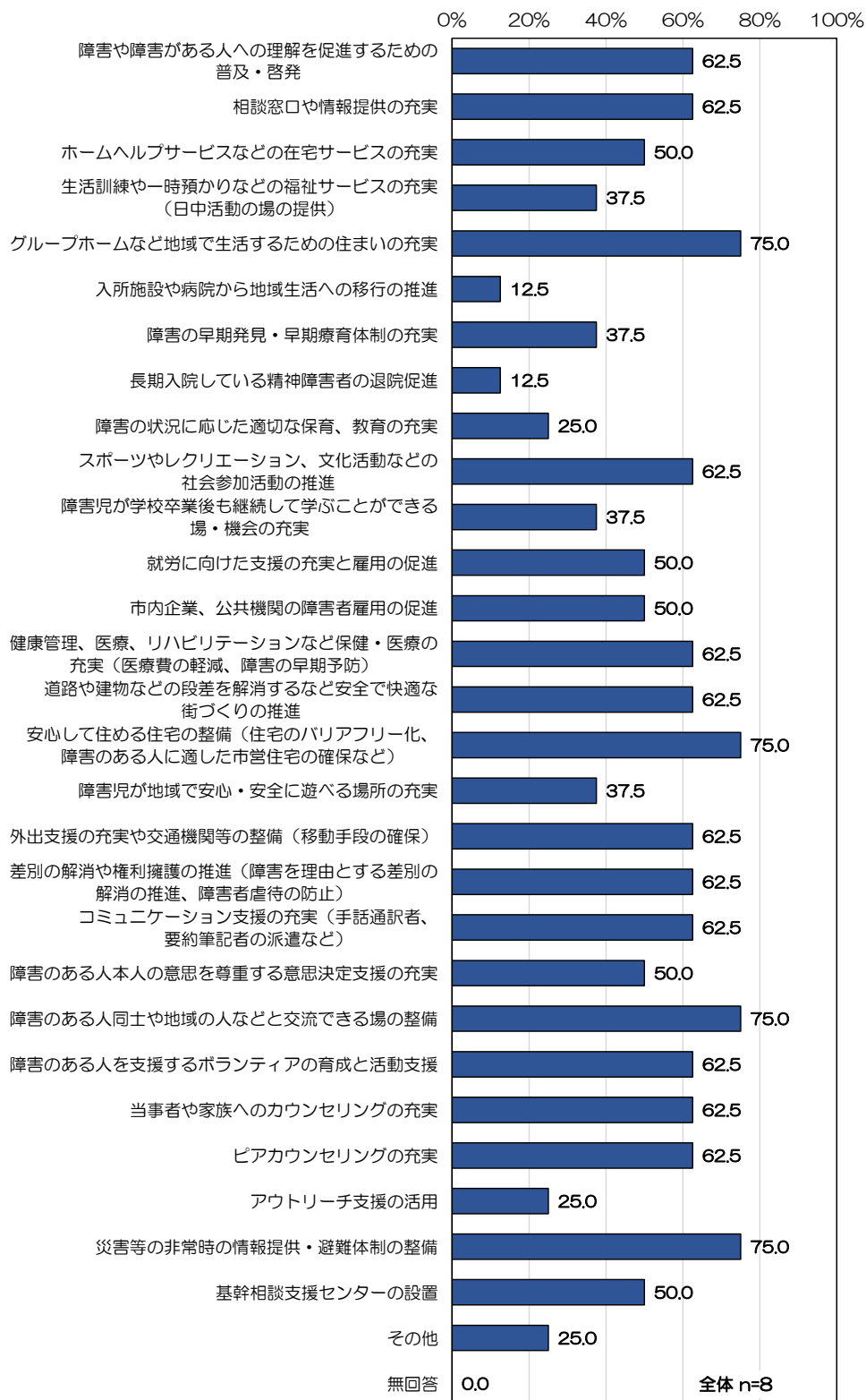
##### 【障害への理解について】

- ・目に見えない障害のため、理解されない
- ・医療的ケア児支援法について知っている医師が少ない（少ない）。そのため、主治医が小学校への看護師配置を必要とする診断書を書いても、学校医の理解が得られず配置が進まない。

## 4 障害のある人・障害のある児童への支援について

問 12 今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市がどのようなことに力を入れていく必要があると思われますか。(〇はいくつでも)

今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市が力を入れていく必要があると思うことについては、「グループホームなど地域で生活するための住まいの充実」「安心して住める住宅の整備（住宅のバリアフリー化、障害のある人に適した市営住宅の確保など）」「障害のある人同士や地域の人などと交流できる場の整備」「災害等の非常時の情報提供・避難体制の整備」がそれぞれ 75.0%で最も高くなっています。



問 13 問 12 で○をつけたもののうち、実施してほしい具体策等があればご記入ください。

◆実施してほしい具体策等

- ・障害のあるグループホームは、新規に設立されるところもあるが、どれも規模の大きい施設的なものが多く、小規模の家庭的なグループホームを望む方も多くいる。それを叶えるためには、自助努力が必要なのであれば、市としてそれに対してどのような支援をしてくれるか、どの部分を助けてくれるのか。
- ・親亡き後、障害者が朝霞市で住み続けられるようにグループホームや入所施設が必要
- ・障害に対応したグループホームを望む
- ・グループホーム設置時の財政支援
- ・障害者や社会的弱者のための住居の確保
- ・高次脳機能障害を理解促進するため、啓発を、医療関係者の方も対象に広げてほしい
- ・アウトリーチ支援の活用ベースになるものとして、①市内医療的ケア児世帯の統計情報の公開（2021 年障害福祉課実施、医療的ケアに係る調査）、②市内保育園、幼稚園、小学校の医療的ケア児受け入れ状況の把握、公開

朝霞市の障害福祉施策について、ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

◆自由記述（抜粋）

【障害福祉サービス等の充実について】

- ・児童発達支援や放課後等デイサービスが増え、携わる職員も多くいると思いますが、量とともに質の向上にも務めてほしい。結果的に親から育児の機会を奪う形にならないよう、事業所でのことを親に還元し、家庭では親が試行錯誤できて一緒に育っていけるようになってほしい。計画相談が、利用者の困りごとに積極的に、家庭や施設、関係機関と連携し、招集して話し合う機会を作ってほしい。
- ・障害福祉サービスの指定手続きを県に行かなくても良いように朝霞市でできるようにしていただきたいです。（さいたま市、川越市、川口市、越谷市、和光市）はできるようです。
- ・第6次朝霞市障害者プラン策定時には、旧計画がどこまで進捗したかを知るために、項目ごとに実施状況と評価をしてほしいです。世田谷区で作成している「せたがやノーマライゼーションプラン、世田谷区障害施策推進計画」では、「計画の基本的な考え方」の前に章立てをしていました。ご参考いただくと幸いです。
- ・アンケートの内容を具体的に実行に移していただきたいです。





## VI ヒアリング調査



## VI ヒアリング調査

---

医療的ケアが必要な方等を対象に、詳細な実情やニーズを把握し、次期計画の目標などに反映させることを目的として、ヒアリング調査を実施しました。

ヒアリング調査にご協力いただいた方は以下のとおりです。

回答者	回答者数
①医療的ケアが必要な方	8人
②重症心身障害がある方	9人
③高次脳機能障害がある方	3人
④強度行動障害がある方	10人
⑤遷延性意識障害がある方	1人
合計	31人

基本目標	大柱	中柱	医療的ケアが必要な方	重症心身障害がある方	高次脳機能障害がある方	強度行動障害がある方	遷延性意識障害がある方
1 共生社会の実現を目指す	(1)相互理解の推進 (2)啓発活動の推進 (3)障害のある人等への理解の促進 (4)障害者団体の育成・交流促進	①啓発活動の推進 ②障害のある人等への理解の促進 ③障害者団体の育成・交流促進	・健常者、障害者がともに過ごせる交流イベントがあるといい	楽しめるイベントがあるといい	・見た目で障害があるように見えないうえに、症状なのか、広報にコラムを定期的に掲載、もっと認知してもらいたい ・ヘルプマークはまだまだ知られていない	・理解者を増やすための広報がある ・学校でも知的障害等の目に見えない障害を理解する機会がほしい ・誰でも集えるようなコミュニティがほしい ・販売会のような、普段関わる機会が少ない市民と交流できる機会があるといい ・障害者の人だけでなく、その家族のハンデも解消されるような社会になってほしい	・遷延性意識障害と診断されていない人でも困っている人の把握と支援を願う
			(2)差別解消の推進 (3)権利擁護の取組の充実				
2 地域生活を充実し、社会参加を支援する	(1)地域生活支援の充実 (2)日中活動の場の充実 (3)コミュニケーション支援 (4)社会参加の支援	①相談支援体制の整備 ②福祉基盤の充実 ③障害福祉サービス等の充実 ④住まいの支援	・学校、保育、障害児、医療的ケア児のことで一括で相談できる専門窓口がある ・親亡き後の生活場所をどうすればよいかわからない ・一時預かりの場や長時間受け入れ可能な児童発達支援施設がない ・朝霞周辺に医療的ケアも行える施設が少ない ・家族の体力のあるうちは家族と暮らしたい	・介護に関する勉強会、研修会など、市行政などで取り組んでもらいたい ・通所施設、入所施設、短期入所施設が少ない ・身体が大きくなったので入浴が大変 ・障害児の時から使っていたサービスも引き継ぎ使わせてもらいたい ・受け入れてくれる短期入所施設もないため、現時点では家族とできるだけ最後まで一緒に暮らしたい ・介護者が高齢になった場合、施設で暮らすことになる	・障害福祉サービスを利用できる事業所が、他市と比べて少ない ・障害福祉サービスを利用できる事業所が、他市と比べて少ない	・相談ができた、サービスのことを教えてくれるところがあるといい ・生活サポートサービスの利用時間が少ない ・送迎サービスのみの利用場所がないこと ・所得制限があるため、受けられないサービスがある事に疑問がある ・重度障害者や行動障害がある障害者が入所できる施設が少ない ・親亡き後への不安 ・施設への入所について、目が届かないところへ預けることや、昨今のニュースを見て安全面が不安 ・将来一人暮らしはできるのか不安なので、グループホームが妥当かもしれない	・若いヘルパーがおらず身体介護に対応できない ・介護者が体調を崩したり、亡くなったらどうしようすればいいかわからない
		①外出の支援 ②スポーツ、芸術・文化活動の充実	・彩夏祭会場に障害者がクールダウンできる区画があれば参加しやすい	・外に出て行くには大変なことが多い			・外出に際して付き添いが必須

現行計画		ヒアリング調査における意見					
基本目標	大柱	中柱	医療的ケアが必要な方	重症心身障害者がある方	高次脳機能障害者がある方	強度行動障害者がある方	遷延性意識障害者がある方
3	就労を支援する	①就労の場の確保 ②就労の促進と安定			・市内に就労継続支援A型事業所がなくて困った	・生活介護や就労継続支援B型事業所を増やしてほしい ・労働賃金をもう少し上げてもらいたい	
4	共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する	①療育の充実 ②教育の充実 ③福祉教育の充実	・本人のレベルに合った療育サービスがいない ・医療的ケア対応の居宅型保育園がない				
5	安心・安全な暮らしをつくる	①福祉のまちづくりの推進 ②保健・福祉サービスの充実 ③安全な暮らしの確保	・車いす移動を考慮したバリアフリー	・朝霞台駅にエレベーターの設置がない ・整備されていない箇所や危険な箇所が多く、外出を諦めることが多い ・ペースメーカーを入れているため、薬が多く、服薬の管理をしてほしい ・避難行動要支援者台帳について地域住民も知ってほしい、もっと活用できる	・道路の整備 ・回復期の病院を退院した後リハビリできる施設が少ない	・道路、公園にあるトイレ等、多くの人が使いやすい環境を整えてほしい ・病院からは断られてしまうことが多いので、かかりつけの病院を作るのが困難	・バリアフリーが行き届いていない場所がある
その他の意見			・災害時、最重度の人のことを考えた避難計画を立ててほしい	・受給者証などの更新の時の書類の記入する枚数が多く大変 ・近所付き合いがうまくできるような仕組みがあると、困ったときに助け合える町になると思う	・市の書類は簡条書きにしてほしい ・障害者手帳、自立支援医療の更新案内がほしい	・障害者も災害避難訓練に参加しやすい体制 ・受給者証の更新などで申請する書類の内容が分かりづらい	・病院に受け入れ・枠を確保した災害時避難計画を検討してほしい



## Ⅶ 専門職に対する調査





## VII 専門職に対する調査

### 1 朝霞市の障害福祉施策の強み（主に育み支援バーチャルセンター事業に関連したもの）

#### ◆自由記述の内容（抜粋）

- ・保育者の訴えによって（巡回相談場面で）子どもの課題を共有できるシステム
- ・アウトリーチ的な訪問支援を含む様々な機関による支援は必須であると考えており、市が各課と情報共有しながら行えること。
- ・子どもの成長を園の先生と共有できること。
- ・心理相談に関して、様々な背景・経験を有した心理職がいることから、子ども本人、保育者、保護者への支援に関して多様なアプローチを行えている。
- ・実際の巡回相談では、様々な課題に対応できる職員配置になっている。
- ・職種の専門性を最大限に活かした支援システムを構築している。
- ・「保育所等訪問支援」は、支援できる子どもに限界があるのに比して、朝霞市の場合は幼稚園・保育園・小中学校との連携も行いやすい仕組みが既にできている。
- ・市内私立幼稚園全園が巡回相談に申し入れをする状況は他自治体と比べて珍しい。
- ・巡回へ保健師、教育委員会の先生方が同行するのは連携していることが明確で、実態に沿った提案などをいただけるのは、他市や東京都の巡回と大きく違うところです。支援の先が見通せるのは大変ありがたい。
- ・現場をよく知る教員や保育士、保健師が巡回相談に参加することは大変有効である。
- ・障害のあるなしに関わらず相談できるところと認知されているところ。
- ・保健師と同席となることで、流れを共有しながらも、必要なフォローを継続しやすいこと。児童発達支援事業を案内する際も相談者に説明しやすい。
- ・地域の保育園との協業：保護者や保育園関係者は自身の地域の保育園で、気軽に相談や質問をすることができる。
- ・個別相談とサポート：保育士や保護者が抱える個別の問題や悩みに対して、専門の相談員が個別に対応できる。
- ・保育環境の向上への貢献：相談員は保育園の実情を把握し、改善点や課題を共有することで、保育園の運営や保育内容の向上に寄与している。
- ・保育に関する情報提供：保護者や保育士に対して保育に関する情報を提供しているところ。（子育て支援プログラムやイベント、育児のノウハウなどを紹介）

### 2 朝霞市の障害福祉施策の課題

#### ◆自由記述の内容（抜粋）

- ・市内児童館・子育て支援センターでの相談事業の拡大、気軽に相談できる仕組みを作ること。
- ・計画相談員・児童発達支援事業所との協働
- ・児童発達支援事業所や、療育利用の窓口となっている計画相談員（事業所）の方との意見交流
- ・子どもの行動を理解し、子どもに合った具体的な働きかけ（支援）を模索する。そのノウハウを保護者と共有し、「家庭での暮らしが楽になったと実感できること」が非常に重要。

- 家庭で試行錯誤する過程を共に悩みながら支えるのではなく、周囲の支援機関の手で整えようとする傾向が強くなっていること。
- 3歳未満児の保育型児童発達支援施設の利用が急速に増えていると聞いており、他の自治体とは違った傾向と考えます。
- 障害のある子の子育てでは、保護者と保育者の情報共有と不安を抱えがちな保護者へのサポートが欠かせない。保護者支援をどこの施設が担っているか（担っていくか）を市が把握しておくことも喫緊の課題と考えます。
- 発達課題や家族の実情に沿った「その時必要とされる支援」にタイミングよくアプローチできることが、保護者が我が子の子育てに自信を持つことに繋がる。
- 支援者の役割は「地域が障害のある子ども（だけでなく家族）を見守り、子育てしやすい環境を作っていくこと」と考えます。
- 子どもの成長の情報を把握している市が先頭に立って、障害児者支援への連携をとっていくことは非常に重要。
- これまでの事業を維持しつつ、近隣の機関（特に児童発達支援事業所や相談事業所）と連携をとりながら、役割分担をしていくことが望ましい。
- 支援や施策など「見える化」することで、障害福祉施策を見渡すことができ、保護者への説明、教師、幼稚園、保育園の先生方への説明にも役立つ。
- 今までバーチャルセンター事業で築いた他機関交えてケースと情報を共有してきたシステムを途切れのない支援として生かされていくことを希望します。
- 発達の評価、見立て、支援を総合的に行える施設が少ないこと。
- 相談される人が色んなところに行かなければならない現状
- 継続的に相談できる場があるとよい。
- 療育機関を必要な人がすぐに利用できるようになるとよい。
- 時間と場所の制約の軽減：専門職の常勤職員（心理士、作業療法士など）がいないため、保健師との連絡が有機的に取れているとは言い難い。クラウドサービスなどを活用し、どこでも資料にアクセスできる環境があるとよい。
- 豊富な情報とリソースの提供が不十分：広報誌などだけでなく、他の Web サービスとの連携ができるとうよい。
- 専門家とのオンライン相談、コミュニティとの交流、多様なプログラムやイベントの提供が不十分
- 専門性の不足：児童発達支援において、リハビリテーション専門家の職員不足が問題。的確な評価・診断・治療計画の策定が困難。
- 早期支援の不足：早期支援体制、特にアセスメントする環境が整っていない。
- 地域の理解と啓発の不足：地域全体での理解と共感を得るための啓発活動が重要
- 療育継続のための意見書を書くことを負担に感じる場合があります。何歳でどのような状況で療育を開始したかにもよりますが、療育継続が必要かどうかの判断は、療育場所のスタッフにおいて可能かと思えます。
- 発達に課題のある方が増えています。いろいろな要因が重なった状況だと思えますが、家庭の機能、保護者の育てる力の弱さを感じます。

- 環境要因としては、保護者が精神疾患を抱えるご家庭も多く感じます。母子世帯、父子世帯、ステップ家族、生活保護家庭等は増えているのでしょうか。統計はとっておりませんが、発達に課題がある方は、環境要因に課題のある方が多いと感じます。
- 就学相談にあたって、知能検査が必要と言われ受診をされる方が、朝霞市だけではなく、かなりいます。支援級か普通級か判断するにあたり知能検査が必要なのであれば、地域でできる体制をつくることは難しいのでしょうか。発達外来に関しては、初診予約までかなり時間を要し、基本的に初診時の予約は避けたいのですが、そのために受診をされている方に関しては知能検査を予約しますが、それであっても初診予約後、数か月先になるのが現状です。この辺の流れに関しても課題はあると思います。

第6次朝霞市障害者プラン等策定に係る  
アンケート・ヒアリング調査結果報告書  
【令和5年2月実施】

令和5年10月作成

発行：朝霞市

編集：福祉部障害福祉課

〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1-1-1

電話 (048) 463-1111 (代表)

FAX (048) 463-1025

URL <https://www.city.asaka.lg.jp>